

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

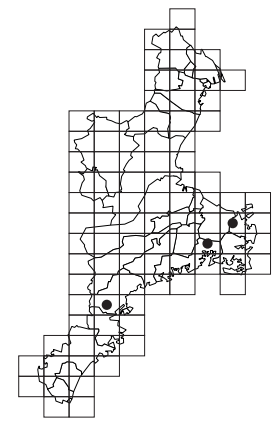
アカガネエグリタマムシ
Endelus pyrrosiae Y.Kurosawa

コウチュウ目タマムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 全国的にも分布が限られており、県内では3か所生息地が確認されている。
種の概要： 体長約4 mm。秋に新成虫が現れ、そのまま越冬し、春にも成虫が見られる。成虫はシダ類のヒトツバの表面を食害する。
分布： 本州（中部以西）、四国、九州、淡路島、奄美大島。県内では鳥羽市、南伊勢町、紀北町海山区。
現況・減少要因： 小規模な石垣、崖などのヒトツバで発生しているが、他の植物が進入してきており、植物遷移の進行によってヒトツバの群落が衰退し、本種が減少することが危惧される。
保護対策： 本種の生息する崖や石垣などのヒトツバ群落の保全。
特記事項： 奄美大島産は亜種 *ssp.aokii* とされている。
文献： 475.



(乙部 宏)

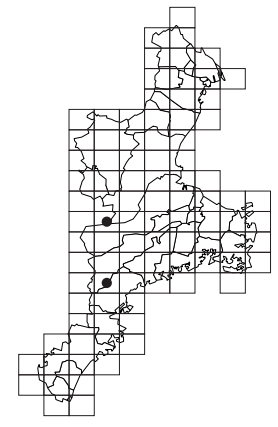
アオタマムシ
Eurythyrea tenuistriata Lewis

コウチュウ目タマムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数5以下である。生息範囲が局所的である。
種の概要： 体長16~28 mm。強い金緑色の金属光沢をもつ。成虫は7~8月に出現し、モミの立ち枯れにくる。また幼虫は、モミの立ち枯れに食入する。
分布： 日本固有種で本州、四国および九州に分布。県内では津市美杉町、大台町で記録がある。
現況・減少要因： モミの大木が生える自然林が必要とされる。過去から行われてきた自然林の造林地化が生息基盤に影響を与えているものと推察される。
保護対策： 生息地での開発、特にモミ古木などの針葉樹が伐採されないように法制化する。さらに今後も詳細な調査の継続が必要。
文献： 194. 214. 230. 279. 361. 394. 397. 402. 404. 489.



(今村隆一)

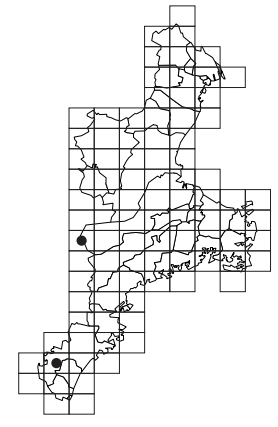
カラカネチビナカボソタマムシ
Nalanda ohbayashii Y.Kurosawa

コウチュウ目タマムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は5以下で、生息範囲が局所的である。
種の概要： 体長4~6 mm。成虫は6~8月に出現し、オニグルミの葉を後食する。幼虫はオニグルミの枯枝に食入する。オニグルミの葉上にとまっていることが多い。
分布： 国内では本州、九州、国外ではシベリア東部に分布。県内では熊野市紀和町、松阪市飯高町の溪谷に生息する。
現況・減少要因： 既知生息地の立地条件から生息地は比較的安定している。しかし生息地点数が少ないので、その場所での環境変化が個体群全体への打撃となる可能性が高い。
保護対策： 生息地域のオニグルミを保全するとともに環境変化を極力回避する。また今後も詳細な調査の継続が必要。
文献： 194. 360. 511.



(今村隆一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

クロマダラタマムシ

コウチュウ目タマムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Nipponobuprestis querceti (E.Saunders)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数 5 以下である。平地から里山にいたるエノキの古木で見られるが個体数が少ない。

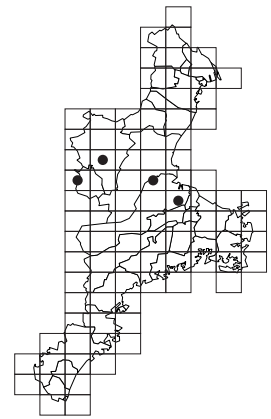
種の概要： 体長 17.0～28.0 mm. 成虫は 5～7 月にかけて出現し、エノキの古木に見られる。

分布： 本州（関東以西）、四国、九州。国外では中国（中部）に分布。県内では津市久居・一志町、伊賀市、名張市、松阪市、明和町の平地から丘陵地に記録がある。

現況・減少要因： 河川の堤防などが整備されることによる河畔林の伐採が減少要因の一つとなっている。また、分布の中心である平野部では、都市化が進み、生息地が減少している。

保護対策： 生息地での発生木および周辺環境の保全。河川の改修に伴う河畔林の伐採や農耕地に散布する農薬などを最小限にとどめることである。また今後も詳細な調査の継続が必要。

文献： 195. 272. 360. 467. 523.



(今村隆一)

ホソクリタマムシ

コウチュウ目タマムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Toxoscelus matobai Toyama

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息点数は 5 地点以下。全国的にも分布が限られており、県内においても局限されている。

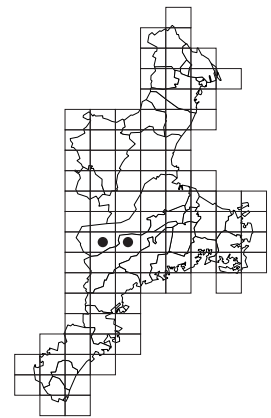
種の概要： 体長 4～4.5 mm. 7～8 月頃、山地のブナ林に生息する。

分布： 本州、四国、九州。県内では大台町、大紀町で記録されている。

現況・減少要因： 尾根沿いのやや乾燥したブナの古木で発生するが大木の枯死などで環境が悪化している。また、多くのブナが結実せず、若木ができて二ホンジカによる食害が酷く、ブナ林の更新再生が望めない状況である。

保護対策： 山頂部や尾根部で眺望を確保するための伐採などは行わない。二ホンジカの食害を避ける防御ネットなどで森が更新できる環境保全が必要である。

文献： 321.



(乙部 宏)

オオダイルリヒラタコメツキ

コウチュウ目コメツキムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Actenicerus odaisanus (Miwa)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下で、生息環境は限定される。

種の概要： 体長 18～20 mm. 背面は光沢の強い緑銅色で非常に美しい。紀伊半島の山岳地域にのみ生息している地域固有種で、ブナ原生林内の明るい場所のササやかん木に見られる。

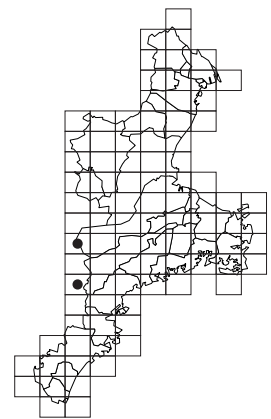
分布： 紀伊半島固有種で台高山脈、大峰山脈の標高約 1,200 m 以上の自然林に分布している。県内では松阪市飯高町明神平、松塚奥峰、大台町三津河落山、大台ヶ原で記録されている。

現況・減少要因： 台高山脈のブナの原生林の伐採、スギ・ヒノキの植林の増加により、生息範囲が限られてきていたが、近年は特に二ホンジカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている。

保護対策： 台高山脈に残されたブナの原生林の保全が急務である。

特記事項： 大台ヶ原の生息地の一部は吉野熊野国立公園の特別保護地区に指定されている。

文献： 194. 283. 346. 428. 478. 574.



(生川展行)

ムネアカツヤケシコメツキ

コウチュウ目コメツキムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Megapenthes opacus Candéze

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地点が5以下。生息環境が脆弱である。

種の概要： 体長9.8~14.5 mm。自然林のイタヤカエデ、アカメガシワなどの樹洞に生息する。幼虫は朽ちた内壁に穿孔し、他の昆虫を捕食するものと思われる。成虫はリョウブなどに訪花するほか、灯火に飛来した例もある。

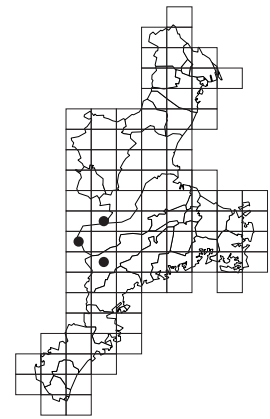
分布： 北海道、本州、四国、九州、屋久島。三重県では紀伊山地（津市、松阪市、大台町）で確認されている。

現況・減少要因： 他県では低地に残存する小規模な樹林にあるケヤキ大木の樹洞などからも発見されているが、三重県ではそのような例は知られておらず、いずれも紀伊山地中山帯の自然度の高い樹林で発見されている。本種が生息する樹洞をもつ樹木は相当限定されるうえ、個体密度も非常に薄い。この標高にある自然林の多くは過去の森林伐採によってすでに失われている。

保護対策： 自然林の伐採を行わないことである。

特記事項： 紀伊半島の高標高地には近縁種クロサツヤケシコメツキ *M. kurosawai* W. Suzuki が生息する。

文献： 194. 480.



(秋田勝己)

スナサビキコリ

コウチュウ目コメツキムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Meristhus nipponensis Lewis

旧県：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点10以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。

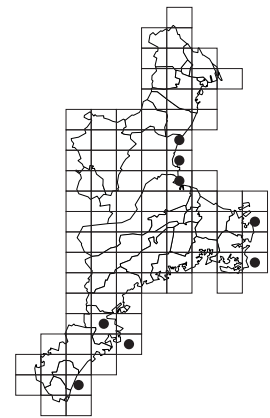
種の概要： 体長4~5 mm。海浜の砂浜に生息し、草本の根元や流木の下などから見出される。灯火に飛来することがある。

分布： 本州、四国、九州。県内では鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、津市海岸町、高茶屋小森町、松阪市松名瀬海岸、鳥羽市浦村町砥谷の浜、志摩市阿児町国府白浜、尾鷲市中井浦、三木里、紀宝町井田海岸で記録されている。

現況・減少要因： 県内では、砂浜海岸の減少と環境の改変により、記録されていた海岸での生息が危惧されていたが、新たに鈴鹿市、鳥羽市、志摩市の海岸でも生息が確認された。

保護対策： 生息地に車両の乗り入れが出来ないように手立てを講じることが急務である。残された生息地では新たな開発行為を行うべきではない。

文献： 263. 376. 441. 443. 451. 476. 477. 479.



(生川展行)

ルリキオビジョウカイモドキ

コウチュウ目ジョウカイモドキ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Intybia takaraensis (Nakane)

旧県：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下で、生息環境が限定される。

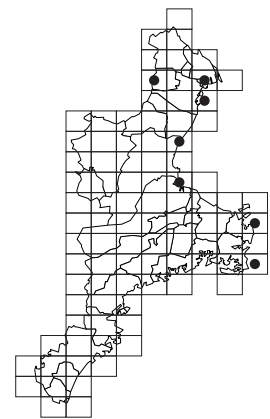
種の概要： 体長2.7~3.4 mm。ルリ色で、雄の触角は特異な形をしている。自然度の高い砂浜の海岸や、河口のヨシ原に生息している。

分布： 本州、九州、トカラ列島に分布。県内では菰野町菰野、四日市市富田、吉崎海岸、鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、松阪市松名瀬海岸、鳥羽市砥谷の浜、志摩市阿児町国府白浜で記録されている。

現況・減少要因： 県内では、3か所で記録されていただけで、砂浜海岸の減少と環境の改変により、生息が危惧されていたが、新たに菰野町と、四日市市、鈴鹿市、鳥羽市、志摩市の海岸でも生息が確認された。

保護対策： 自然度の高い砂浜の海岸や河口のヨシ原の保全が急務である。

文献： 271. 274. 415. 443. 490. 558.



(生川展行)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

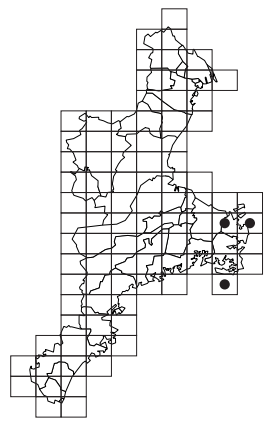
- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

イソジョウカイモドキ コウチュウ目ジョウカイモドキ科
Laius asahinai Nakane

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：—

環境省：DD

選定理由： 全国的に生息地が限定されており、三重県での既知の生息地も8か所だけで、自然環境の改変による個体数の減少が危惧される。
種の概要： 体長4mm前後。黒青色で雄の触角は第2節が大きく特異な形をしている。岩礁地帯に見られる。
分布： 本州、四国、九州、屋久島。県内では鳥羽市安楽島海岸、老ノ浜、国崎、菅島と志摩市志摩町和具大島、片田、片田麦崎、和具広の浜で記録されているだけである。
現況・減少要因： 現時点では、生息地の大きな環境の改変はみられない。
保護対策： 生息地の海岸の保全が急務である。
文献： 450, 451, 490.



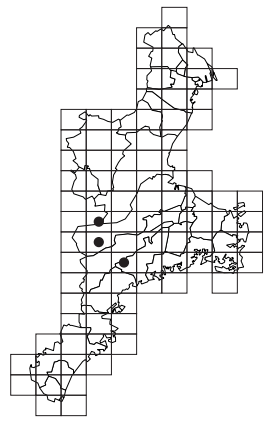
(生川展行)

オオキノコムシ コウチュウ目オオキノコムシ科
Encaustes cruenta paraenobilis Grouvelle

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は5地点以下で、生息環境は限定される。
種の概要： 体長16~36mm。日本のオオキノコムシ科の中では最大の種で、ブナの自然林の立枯木や倒木に生えたサルノコシカケ類に集まる。
分布： 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では津市美杉町平倉演習林、若宮八幡宮、大台町迷岳、大紀町南亦山で記録されている。
現況・減少要因： ブナの自然林の減少と共に、生息域が狭められてきている。
保護対策： 県内に残されたブナの自然林の保全が急務である。
特記事項： 今後台高山脈に残されたブナの自然林の調査が進めば、新たな生息地が発見される可能性がある。
文献： 231, 365, 402, 409, 425, 433, 489.



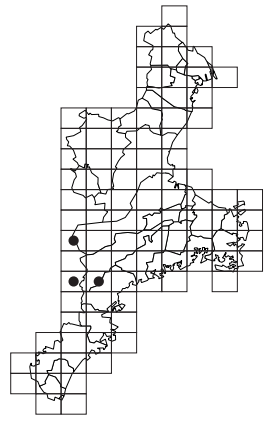
(生川展行)

ルリヒラタムシ コウチュウ目ヒラタムシ科
Cucujus mniszehi Grouvelle

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は5以下で、生息環境が限定され、個体密度も低い。
種の概要： 体長20~27mm。非常に扁平で細長く、黒色で上翅はルリ色。日本のヒラタムシ科では最大の種である。
分布： 本州、四国、九州、対馬に分布。県内では松阪市飯高町明神平、大台町父ヶ谷、狸峠、大台ヶ原で記録されている。
現況・減少要因： 全国的に記録の少ない種で、台高山脈のブナの原生林内の倒木や立枯木の樹皮下に生息しているが、ブナの原生林の減少とともに生息域が狭められている。
保護対策： 台高山脈に残されたブナの原生林の保全が急務である。
文献： 220, 430, 453, 454.



(生川展行)

アトコブゴミムシダマシ

コウチュウ目コブゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Phellopsis suberea Lewis

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 全国的に記録は少なく、既知の生息地点数は1地点のみである。

種の概要： 体長14~21 mm. 日本のコブゴミムシダマシ科の中では最大の種で、ブナ
の自然林の立枯木や倒木に生えたサルノコシカケ類に集まる。

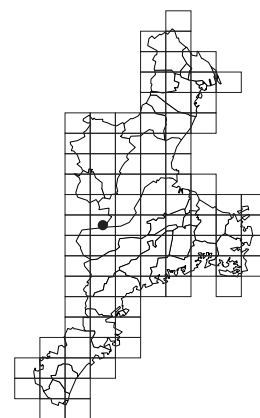
分 布： 本州・四国・九州. 県内では津市美杉町平倉演習林で記録されているだけで
ある。

現況・減少要因： 津市美杉町の三重大学演習林では特に大きな環境の変化はない。

保護対策： 台高山脈のブナの原生林の保護が急務である。

特記事項： 今後調査が進めば、台高山脈のブナの原生林が残っている地域から発見され
る可能性が高い。

文 献： 194, 402, 489.



(生川展行)

テントウゴミムシダマシ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Leiochrinus satzuma Lewis

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 照葉樹の自然林に生息し、全国的に生息地は限られている。県内の既知の生
息地点数は10以下である。

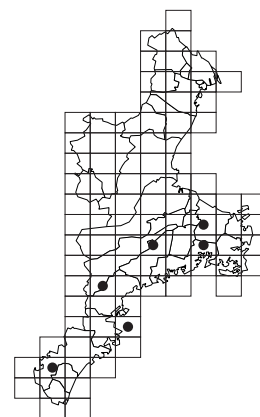
種の概要： 体長3.8~4.5 mm. 体は黄褐色で光沢があり、体型は半球状. 照葉樹林の
自然林に生息しており、成虫で越冬する。

分 布： 本州, 四国, 九州, 対馬. 国外ではインドシナに分布. 県内では伊勢市神宮
林, 大紀町滝原, 大台町大杉谷, 尾鷲市九木崎, 熊野市紀和町木津呂で記録されている。

現況・減少要因： 伊勢市神宮林や大紀町滝原では神社林として保全されており多産する
が、他の生息地では個体数は少ない。

保護対策： 既産地の照葉樹自然林の保護が必要である。

文 献： 194, 215, 220, 267, 269, 427, 488, 540.



(生川展行)

ホソハマベゴミムシダマシ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Micropedinus pullulus (Bohman)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点10以下. 生息地が局限される. 生息環境が悪化し、近年減
少している。

種の概要： 体長4.5~5 mm. 海浜の砂浜に生息する. 漂着物の下などから見出される.
同時に発見されるヒメホソハマベゴミムシダマシ *M. pallidipennis* Lewis に比べ個体
数がはるかに少ない。

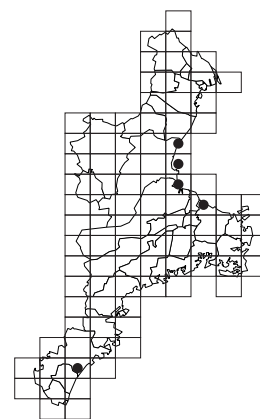
分 布： 本州, 四国, 九州, 琉球, 台湾. 県内では鈴鹿市, 津市, 松阪市, 伊勢市,
熊野市の海岸で確認されている。

現況・減少要因： 護岸工事や侵食による砂浜の狭小化が進行しており、危機的な状況に
ある生息地が多い. また、生息地への車両の乗り入れ, 人による過度の踏みつけや漂着
物の除去は本種の生息にとって脅威となっている。

保護対策： 生息地に車両の乗り入れが出来ないように手立てを講じることが急務である。

残された生息地では新たな開発行為を行わないことである. 漂着物の除去などにも配慮
が必要である。

文 献： 194, 263, 274, 414, 431, 443, 865.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥 類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝 類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クロホシクチキムシ

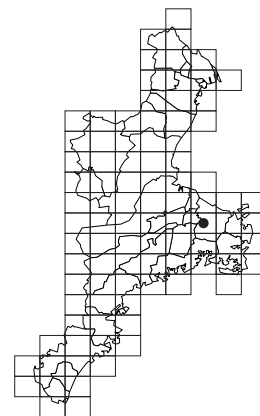
コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Pseudocistela haagi Harold

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地点が1. 生息環境が脆弱である。**種の概要**： 体長7.0~10.1 mm. 大木の樹洞で発生する。成虫は5~6月に出現し、発生木の葉上や周辺で見ることが多い。**分布**： 本州, 四国, 九州. 三重県では伊勢市に分布する。**現況・減少要因**： 伊勢市では神社にあるケヤキ大木の樹洞周辺で発見されている。2000年代になってからは確認されていない。他県では平野部の社寺林のほか、山地の自然林でも発見されているので、今後、紀伊山地などからも発見される可能性は高いものと思われる。**保護対策**： 今後、発見が期待される自然林の伐採を行わないことである。**文献**： 194, 343.

(秋田勝己)

オカモトツヤアナハネムシ

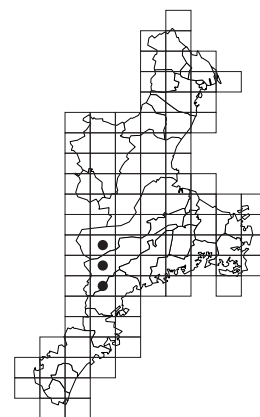
コウチュウ目アカハネムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Pedilus okamotoi (Kôno)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 全国的に記録は少なく、既知の生息地点数は5地点以下である。**種の概要**： 体長7.6~9.5 mm. 雄は上翅後方に特異な彫刻がある。5月下旬から6月中旬に、ブナの原生林の林床を飛んでいる個体や、下草に止まっている個体が見られる。**分布**： 本州・四国・九州に分布。県内では、松阪市飯高町青田, 木屋谷川, 大台町宮川広クリ谷, 父ヶ谷, 三津河落山で記録されている。**現況・減少要因**： 台高山脈のブナ, ミズナラの原生林の伐採, スギ・ヒノキの植林の増加により、生息範囲が減少していたが、さらに近年は特にニホンジカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている。**保護対策**： 台高山脈のブナ, ミズナラの原生林の保全が急務である。**特記事項**： 今後、台高山脈に残されたブナ, ミズナラの原生林の調査が進めば、新しい生息域が発見される可能性がある。**文献**： 194, 236, 244, 432, 861.

(生川展行)

テツイロハナカミキリ

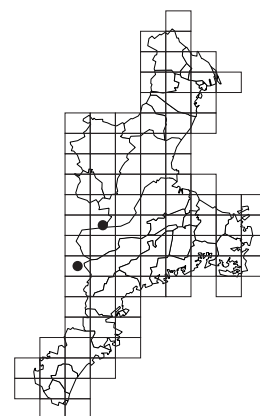
コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Encyclops olivacea Bates

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点5以下. 生息環境が悪化している。**種の概要**： 体長7~10 mm. 落葉広葉樹林に生息する。成虫は5~6月に出現。ミズキ, カラコギカエデ, タンナサワフタギなどに訪花する。幼虫はミズナラ, サワグルミなどの生木のコルク層に食入する。**分布**： 北海道, 本州, 四国, 九州. 県内では紀伊山地 (津市, 大台町) で確認されている。**現況・減少要因**： 幼虫は、樹皮にコルク層が発達する大木でないとい成長することができないため、本種の生息は、自然度の高い落葉広葉樹林に限定される。しかし、過去の伐採によってそのような森林はすでにほとんどが失われてしまっている。**保護対策**： 生息地である落葉広葉樹林の伐採をしないことである。**文献**： 280, 361, 438, 474.

(秋田勝己)

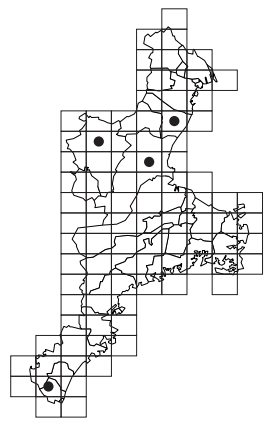
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

クビアカハナカミキリ (クビアカドウガネハナカミキリ) コウチュウ目カミキリムシ科
Gaurotes atripennis Matsushita

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：—

選定理由： 既知の生息点数は 10 地点以下。平地から低山のアカマツ林で生息するが、最近の記録は見られない。
種の概要： 体長 7~11 mm。幼虫はアカマツの枯れ枝に食入する。
分布： 本州，四国，九州。県内では鈴鹿市，津市，伊賀市，熊野市で確認されている。
現況・減少要因： アカマツの枯れ死による林の衰退，およびそれに伴う農薬散布とアカマツ林の開発が大きな影響を与えている。
保護対策： 生息地でのアカマツの伐採を行わない。また，農薬を使用せずアカマツの育成を図る。
文献： 329. 391.



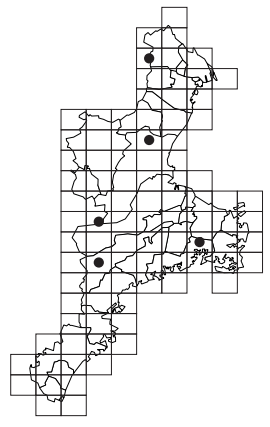
(乙部 宏)

ヤマトシロオビトラカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Kazuoclytus lautoides (Hayashi)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下である。生息地が局所的である。
種の概要： 体長 6~11 mm。成虫は 4~5 月に出現し，カエデ類やコゴメウツギなどを訪花する。幼虫はモミの枯れ枝につく。上翅の斑紋が類似する種にシラケトラカミキリがいるが，雄の後胸腹板に鋭い針状突起があるので区別される。
分布： 本州，四国，九州。国外では朝鮮半島に分布する。県内ではいなべ市大津町，津市安濃町，津市美杉町，大安町，伊勢市で記録されている。
現況・減少要因： 生息環境は，幼虫が食樹としているモミの木の生える自然林である。生息場所は戦後の拡大造林期以降行われてきた自然林の伐採，造林地化などの人為的要因により，環境悪化が進行している。
保護対策： 生息地のモミの木が生える自然林の保全。また今後も詳細な調査の継続が必要である。
文献： 194. 327. 334. 335. 438. 474.



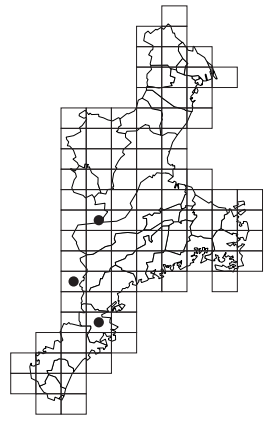
(今村隆一)

ヒメヨツスジハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Leptura kusamai kusamai Ohbayashi et Nakane

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点 5 以下。分布が局地的で，個体数も少ない。
種の概要： 体長 12~16 mm。成虫は，ノリウツギやリョウブ，ヤハズアジサイなどに訪花する。同時に見られ，本種に酷似するヨツスジハナカミキリ *L. ochraceofasclata* (Motschulsky) よりはるかに少ない。幼虫はブナなどの立ち枯れに食入する。
分布： 本州，四国，九州には別亜種が生息する。県内では紀伊山地 (津市，大台町，尾鷲市) で確認されている。
現況・減少要因： 良好な落葉広葉樹林に生息するが，そのような樹林は過去の森林伐採によってその多くがすでに消失している。樹林の伐採は，直接本種生息地の消失に結びつく。
保護対策： 生息地である落葉広葉樹林を伐採しないことである。
文献： 263. 325. 361. 474.



(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

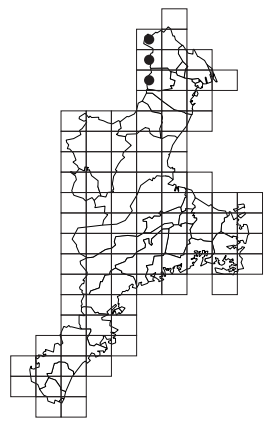
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

マヤサンコブヤハズカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Mesechthistatus furciferus furciferus (Bates)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：—

環境省：—

選定理由： もともと県内での分布が限られ、近年激減している。
種の概要： 体長 13~23 mm. 後翅が退化している。山地の落葉広葉樹林に生息する。秋に出現した新成虫は、ササ群落内地表近くの中空にある広葉樹枯葉を好んで摂食する。冬季は落葉下で越冬。春に再び姿を現し、初夏まで生存する。この時期には夜間広葉樹の倒木に集まる。幼虫は朽木内に穿孔する。
分布： 日本固有種。本州（新潟県西部から兵庫県の主に日本海側の地域）。三重県では鈴鹿山脈北部のいなべ市から菰野町にかけて分布する。
現況・減少要因： ササをはじめとした林床の植物はニホンジカの食害によって少なくなり、成虫の食物がなくなってしまった。また、林床の乾燥化を招いたことから、幼虫が穿孔する倒木や落枝も幼虫の生存に適したものが少なくなった。個体数の比較的多い種であったが、近年はその姿を目にすることは稀になってしまった。
保護対策： ニホンジカの個体数調整や生息地の一部を柵で囲むなどのような対策をはかるべきである。
文献： 329, 429, 573.



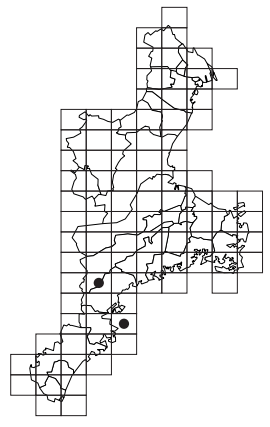
(秋田勝己)

クロソンホソハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Mimostrangalia kurosonensis (Ohbayashi)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 生息地が局限され、既知の生息地は 2 か所にすぎない。食樹が限定され生息基盤が脆弱である。
種の概要： 体長 13~18 mm. 常緑広葉樹林に生息する。成虫は 7~8 月に出現し、ノブドウ、リョウブ、ノリウツギなどに訪花する。幼虫は、ハイノキの枯れ木に食入する。
分布： 本州、四国、九州、対馬、屋久島、御蔵島。本州の記録は非常に少ない。県内では大台町、尾鷲市で確認されている。
現況・減少要因： 幼虫はハイノキに依存しているため、良好な常緑広葉樹林でないと生息することができない。しかし、本種が生息しえるような常緑広葉樹林は、過去の森林伐採によってほとんど残されていないのが現状である。
保護対策： 生息地である常緑広葉樹林の伐採をしないことである。
文献： 316, 361, 474.



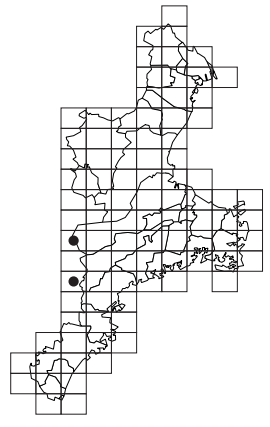
(秋田勝己)

イヨヒメハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Pidonia hylophila hylophila Kuboki

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数 5 以下である。生息範囲が局所的である。
種の概要： 体長は 7~10 mm. 成虫は 6~8 月に出現する。サワフタギ、イワガラミ、ゴトウズルなどに訪花する。幼虫の生態は不明。
分布： 日本固有種で本州（中部地方、紀伊半島）、四国に分布。県内では松阪市飯高町および大台町宮川で記録されているだけである。
現況・減少要因： 本種は台高山系のブナ帯の天然林で記録されているが、過去から行われてきた自然林の造林地化が生息基盤に影響を与えているものと推察される。
保護対策： 生息地および周辺のブナ帯自然林の保全ならびに継続的な調査が必要である。
特記事項： 本亜種と中国地方・九州に分布するキュウシュウイヨヒメハナカミキリ *P. hylophila affinis* Kuboki の 2 亜種に分けられている。
文献： 350, 474.

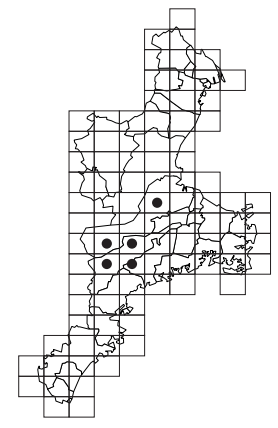


(今村隆一)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ルリボシカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Rosalia (Rosalia) bateshi Harold 旧県：—

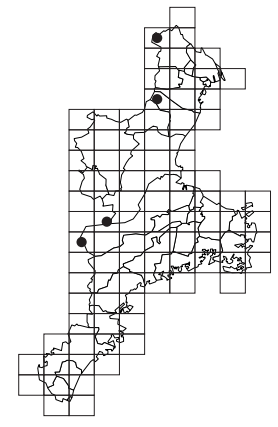
選定理由： 既知の生息地点数は10地点以下。全国的には西日本では少なく、県内では中部以南のブナ帯下部から照葉樹林帯の限られた地域でしか確認されていない。
種の概要： 体長16~32 mm。体色は鮮やかな青色で明瞭な黒紋がある。各種の広葉樹の伐採木や比較的新しい立ち枯れなどに集まる。
分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では松阪市、大台町、大紀町で確認されている。
現況・減少要因： 森林伐採や開発などによって生息地が減少している。
保護対策： 生息地での森林開発は行わない。
文献： 329, 539.



(乙部 宏)

フタコブルリハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Stenocorus coeruleipennis (Bates) 旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

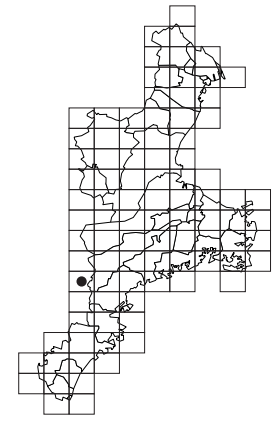
選定理由： 既知の生息地点数は5以下である。生息範囲が局所的である。
種の概要： 体長18~24 mm。成虫は、6~8月に出現し、ノリウツギやリョウブなどを訪花する。幼虫はミズキなどの根を食するらしい。
分布： 北海道、本州、四国、九州。権太。県内ではいなべ市藤原岳、鈴鹿市、亀山市、津市美杉町、松阪市国見山などで記録されている。
現況・減少要因： 温帯樹林帯に分布しているが生息密度が低いものと考えられる。過去から行われている自然林の造林地化が生息基盤に影響を与えているものと推察される。
保護対策： 生息地域の落葉広葉樹林の保全と育成を行う。また今後も詳細な調査の継続が必要である。
特記事項： 本種は、アオジョウカイに擬態していると考えられている。地方ごとに色変わりするアオジョウカイの色彩変異に伴う変化が知られている。
文献： 194, 227, 244, 367, 443, 474.



(今村隆一)

タケウチホソハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科 三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省：—
Strangalia takeuchii Matsushita et Tamanuki 旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は1であるが、生息状況が十分に把握されているとはいえない。
種の概要： 体長13~16 mm。成虫は7~8月に出現しノリウツギやリョウブなどの花に来る。幼虫の食樹はモミ、ミミズバイが知られている。
分布： 北海道、本州、四国、千島列島に分布。県内では大台町大台ヶ原山の1か所で記録されている。
現況・減少要因： 生息場所は針葉樹林帯の自然林が残された地域である。しかし生息場所では、ニホンジカの増加にともなう樹皮の食害により樹林が枯れ始め、乾燥化が進んでいる。そのため生息環境が悪化している。
保護対策： 早急にニホンジカの生息数調整対策と樹木の保護が必要とされる。また今後も詳細な調査の継続が必要とされる。
特記事項： 大台ヶ原の生息地一帯は吉野熊野国立公園の特別保護地区に指定されている。
文献： 194, 220, 474.



(今村隆一)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオクボカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Tengiush ohkuboi Matsushita

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数 5 以下である。全国的に分布が限られている。生息範囲が局所的である。

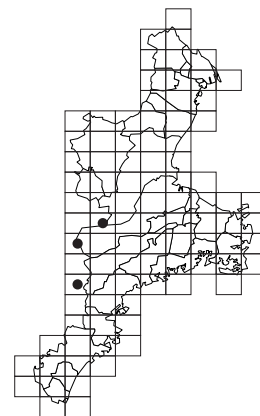
種の概要： 体長 7~9 mm. 成虫は 5~8 月に出現し、トチノキなどの新しい伐採木に集まる。幼虫はサワグルミ、トチノキ、ケヤキなどの枯れ枝を食する。

分布： 日本固有種で本州（紀伊半島、山陰）、四国に分布。県内では津市美杉町、松阪市明神岳、大台町大台ヶ原山の 3 か所で記録されている。

現況・減少要因： 生息環境はブナ帯の落葉広葉樹林である。生息地では、戦後の拡大造林以降行われてきた自然林の伐採、造林地化、観光地化などの人為的要因などにより環境が悪化している。

保護対策： 生息地の自然林を保全するとともに、長期的に自然林の再生、復元をはかる。また今後も詳細な調査の継続が必要である。

文献： 194. 218. 336. 341. 474.



(今村隆一)

オオトラカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Xylotrechus vilioni (Villard)

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点が 5 以下。個体密度が極めて低い。

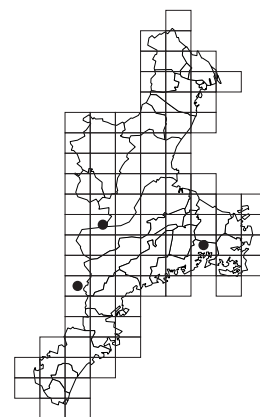
種の概要： 体長 21~32 mm. 成虫は 7~9 月に出現する。幼虫は、モミ、ウラジロモミ、ツガなどの生木に食入する。

分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では津市、伊勢市、大台町で記録されている。

現況・減少要因： 本種は、低標高地ではモミ、高標高地ではウラジロモミを主に食べている。生木を食する大型種であることから、もともと個体密度はきわめて薄い。したがって、その生息にはまとまった面積をもつモミ、ウラジロモミを含む自然林が必要である。しかし過去の森林伐採によってそのような林はほとんど残されていない。

保護対策： 生息地の森林を伐採しないことである。

文献： 192. 361. 474.



(秋田勝己)

ガガブタネクイハムシ

コウチュウ目ハムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Donacia lenzi Schonfeldt

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息点数は 10 以下であり、ジュンサイ、ヒツジグサ、ヒルムシロなどの水生植物の繁茂する池沼に生息する。このような池沼の多くは農業用の溜池であったため、消失傾向にある。

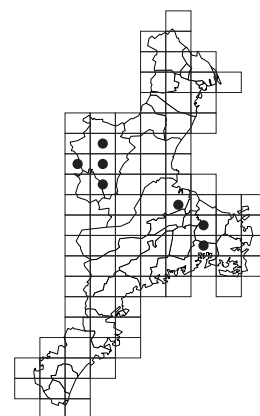
種の概要： 体長 6~7 mm. 成虫は晩春から初秋にかけて出現し、上記植物の浮葉部を食し、日中の高温時は刺激を与えると敏捷に飛翔する。幼虫は土中の水生植物の根を食害する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、佐渡島。国外では極東ロシア、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピン。県内では名張市、伊賀市、松阪市、南伊勢町、伊勢市で記録されている。

現況・減少要因： 食草となる水生植物が生育できる池そのものが少ないうえに、食草も開発や護岸工事などによって消滅傾向にある。

保護対策： 本種の生息する池沼およびその周辺部を保全し、汚水などの流入をさせない。

文献： 224. 472. 497. 505. 569.



(乙部 宏)

シロスジタコゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Hypera adspersa (Fabricius)

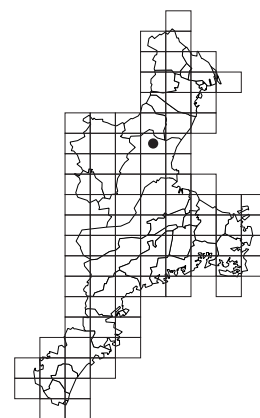
選定理由： 既知の生息地点数は2か所である。

種の概要： 体長4~7 mm. 上翅は黒・茶褐色で、灰白色の紋を縦条に複数持つ種で、縦条の数には変異がある。

分布： 本州、九州に分布するが少ない。県内からは、鈴鹿市三宅町、亀山市下庄町から採集された。

現況・減少要因： 鈴鹿市から亀山市にかけての丘陵地・里山の湿地に生息しており、県内他地域では確認されていない。日陰になった湿地のセリを食害しており、セリに壊滅的な影響を及ぼし、植生が変化し個体数が激減している。鈴鹿市三宅町の産地は、乾燥化により植生が変化し、2014年には生息が確認できなかった。

保護対策： 丘陵地・里山の湿地環境を保全することが必要。



(官能健次)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

メスアカケバエ

ハエ目ケバエ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Bibio japonica (Motschulsky)

選定理由： 既知の生息地点数は2で、5個体が確認されているのみ。生息地は範囲が狭く、局所的である。

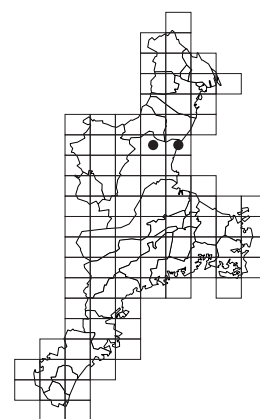
種の概要： 体長11 mmほど。雄は全体が光沢のある黒色で、普通種のハグロケバエと紛らわしい。雌は中胸背と腹部は淡赤褐色で腹部第1背板には一対の黒点を持つ。幼虫は群生する。成虫は3~6月に出現。

分布： 北海道、本州、九州、奄美、沖縄、国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では津市の安濃川河川敷と河芸町の海岸地帯で確認されている。

現況・減少要因： 河畔林は伐採されやすく、生息環境が安定して存続することが少ない。

保護対策： 自然度の高い河岸（草原から雑木林）の保全。

文献： 619.



(大石久志・篠木善重)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミズアブ

ハエ目ミズアブ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

Stratiomys japonica (van der Wulp)

選定理由： かつては水田にも生息し、かなり広くみられた種であったらしいが、現在全国的に個体数が減少している。三重県でも現在確認されている生息地は2か所にとどまる。今後分布域が減少して局所的になることが推察される。

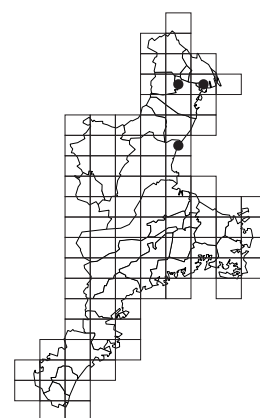
種の概要： 体長14~16 mmの大型種。体は太く、黒色で、触角が顕著に長い。腹部背板の第2~3節の側縁にそれぞれ三角形の黄色紋がある。翅は皺状で、顕著に暗色を帯びる。幼虫は肉食で水性。10~50度の水温に適応していて、温泉でも発生することでお有名。年1化、初夏の頃出現する。

分布： 北海道、本州、四国、九州。国外ではロシア極東部、中国に分布。県内では四日市市富田と津市河芸町から記録された。

現況・減少要因： 水田での減少は、薬剤の散布が大きな影響を与えた可能性が高い。また排水等による水質の変化や埋め立て等も大きな脅威となっていると考えられる。

保護対策： 幼虫の生息環境の保全が最も重要である。

文献： 597, 620, 625.



(大石久志・篠木善重)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ナギサツルギアブ

ハエ目ツルギアブ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

Acrosathe stylata Lyneborg

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 自然度の高い河口や河岸の砂地に限って生息するため、生息域は局所的で、存続が危ぶまれる状態にある。県内から2か所の記録があるのみである。

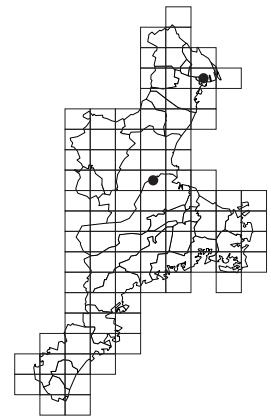
種の概要： 小型で体形は細長く、後方に向かって狭まる。雄の腹部は美しい銀白色の毛に覆われる。雌では灰褐色に黒色の斑紋を装う。この属の種は互いに非常によく似ていて、正確な判別には雄外部生殖器を調査する必要がある。河口近くの砂浜海岸ではハマゴウ群落周辺に、また中流域の河川敷では草本上や木本上にも見られる。すなわちヨシコツルギアブよりは、より内陸に生息する。幼虫は砂中において他の節足動物を捕食する。成虫は5~9月に出現する。

分布： 日本固有種で、北海道、本州（山形県、神奈川県、新潟県、愛知県、三重県、奈良県、京都府、兵庫県）に分布。県内では川越町高松海岸と津市一志町雲出川河川敷から記録されている。

現況・減少要因： 生息域が自然度の高い環境に限定されるため、すでにごく局所的にしか分布していない。高松海岸の生息地は道路建設工事のために2014年に大半の環境が破壊されてしまったので、本種の存続が危ぶまれ、今後の継続した調査が必要である。

保護対策： 現存の生息環境の保全。

文献： 599. 607. 620.



(大石久志・篠木善重)

ヨシコツルギアブ

ハエ目ツルギアブ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

Acrosathe yoshikoeae Nagatomi et Lyneborg

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： いずれの生息地も自然度の高い海浜で、生息地は極限され、存続に不安がある。

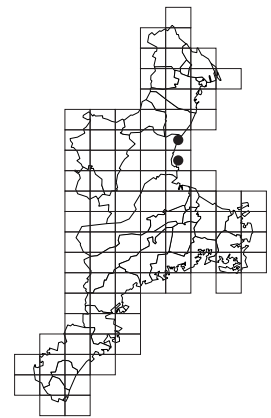
種の概要： 小型で体形は細長く、後方に向かって狭まる。雄の腹部は美しい銀白色の毛に覆われる。雌では灰褐色に黒色の斑紋を装う。この属の種は互いに近似種が多いが、本種は前・中腿節の腹面に1~2本の剛毛をもつことで、比較的容易に区別できる。海浜性で、コウボウムギの群落やその周辺の限られた範囲にみられ、それより内陸には生息しない。幼虫は砂中において他の節足動物を捕食する。4~10月に出現する。

分布： 日本固有種で本州（山口県、島根県、京都府、新潟県、三重県、神奈川県）、九州に分布。県内では鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、津市河芸町・白塚・町屋浦・御殿場の海浜に分布。

現況・減少要因： 自然度の高い海浜にのみ生息することから、生息地は非常に限定されていて、開発は存続に対する大きな脅威となっている。

保護対策： 現存の生息環境をその周辺地を含めて保全すること。

文献： 599. 605. 607. 619.



(大石久志・篠木善重)

シオサイツルギアブ

ハエ目ツルギアブ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

Acrosathe sp.

旧県：

選定理由： 既知の生息地点数は10以下で、自然度の高い砂浜にのみ生息し、全国的にも3県で記録されるのみ。

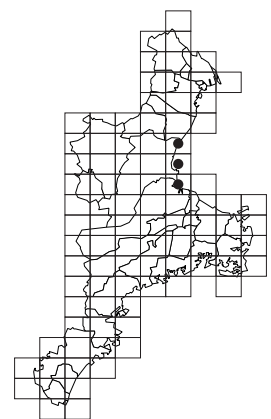
種の概要： 小型で体形は細長く、後方に向かって狭まる。雄の腹部は美しい銀白色の毛に覆われる。雌では灰褐色に黒色の斑紋を装う。この属の種は互いに近似種が多く、雄外部生殖器を調査せずして本種を外見的に鑑別することはできない。海浜性だが、砂上で見られることは少なく、灌木が疎生する砂地環境を好むようで、ハマボウフウ、ハマゴウ、灌木類などの植物体の上にあがることが多い。幼虫は砂中において他の節足動物を捕食すると思われる。5月下旬~10月に出現する。

分布： 日本固有種で、本州（愛知県・三重県）と四国（高知県）の太平洋岸の自然度の高い海浜のみ。県内では津市北部の砂浜と松阪市の松名瀬海岸に分布。

現況・減少要因： 津市の町屋浦は海岸開発と砂浜の生態系を考慮しない松植樹により生息環境が悪化しているため、本種の生息が危ぶまれる。

保護対策： 海岸開発、海浜の美化活動が、生息への脅威となる。砂浜の生態系に配慮した対応が求められる。

文献： 607. 619. 620.



(大石久志・篠木善重)

ケンランアリノスアブ(オウゴンアリノスアブ) ハエ目ハナアブ科
Microdon katsurai Maruyama et Hironaga

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：VU

選定理由： 生息地点数は1地点のみ。

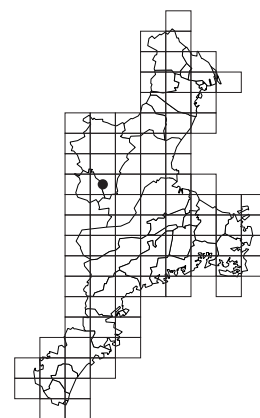
種の概要： 幼虫はトゲアリの巣穴に生息し、成虫は5月末から7月初旬に出現して、トゲアリの巣の入り口近くで観察される。雄の体長は12.8~14.1 mm、翅長は1.9~11.5 mm。生時は黄緑色に金属光沢を放つ美麗種。

分布： 本州（栃木、茨城、長野、新潟、三重、大阪、兵庫、山口の各府県）、四国（香川）。県内では名張市から記録がある。

現況・減少要因： 宿主であるトゲアリ自体の減少。

保護対策： 根際の樹洞に生息するトゲアリの生息環境を保全すること。

文献： 589. 598.



(大石久志・篠木善重)

ヒメコミズメイガ チョウ目ツトガ科
Parapoynx rectilinealis Yoshiyasu

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 記録が少なく生息環境である湿地が激減している。

種の概要： 開張約12 mm。前後翅とも黄金色の地に黒い縁取りを持った白色横線と縦線が数本見られるという美しい模様である。食草等幼生期については知られていないが、本属の幼虫は気管嚢を持つ水生昆虫で、本種についても同様に水生植物を食べると考えられる。しかも既知産地の状況から明らかに貧栄養湿地に生育する植物に依存していると考えられる。

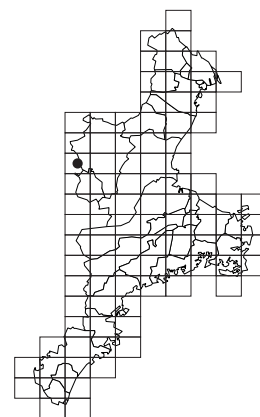
分布： 全国的にもまれで、新種記載された京都産の1雄と、その後宮崎県延岡市で1雌と豊橋市、三重県で採集されているだけである。三重県では伊賀市法花の湿地が唯一の記録である。

現況・減少要因： 県内においては1か所の記録のみで、生息できる湿地環境が激減している。

保護対策： 生息環境の保全が急務と考えられる。

特記事項： おそらく幼虫が水棲のため、水質も生息に重要な要因になると考えられる。

文献： 637. 702. 727. 817.



(間野隆裕)

クワトゲエダシャク チョウ目シャクガ科
Apochima excavata (Dyar)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

選定理由： かつての記録地が消滅し、分布域が極めて局地的となってきた。

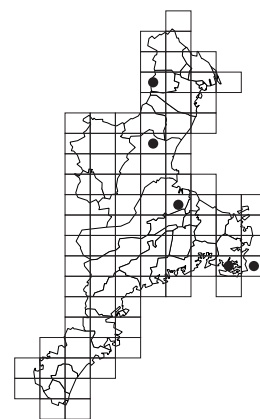
種の概要： 開張約45 mm。成虫は年1回早春に発生し、前翅を扇子のように折りたたみ細くして、半分立てた特異な形状で止まる。雄は灯火に飛来するが、雌は飛来しないため極めてまれで、日本に現存する個体はわずかである。幼虫はかつてクワの害虫として知られリングにもつくといひ、ヤナギ類やサクラ類からも得られている。

分布： 北海道から九州に分布。県内では、鈴鹿山脈の御在所、松阪市櫛田川両郡橋、津市安濃町、志摩市大王町波切及び志摩町越賀で記録されているが、その多くは古いデータで、各地で絶滅した可能性が高い。

現況・減少要因： 幼虫の主要な食樹であるクワは、カイコの餌として栽培面積が昭和31年にピークを迎えたが、平成10年には最盛期の約3%に激減した。もともと栽培クワにおける生息密度は高くなかったと思われるが、この栽培クワ面積の減少は本種の生息密度減少に大きく影響したと考えられる。また食樹とともに無農薬で生息してきた本種にとって、農薬散布などによっても生息密度が減少する要因となった可能性が高い。

保護対策： 河畔林などとして生育するクワ類の保全。

文献： 665. 670. 706. 717. 718. 775. 804. 805. 809.



(間野隆裕)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

カバフキシタバ

Catocala mirifica Butler

チョウ目ヤガ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

旧県：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由： 県内での生息が限定され、わずかな記録しかみられない。

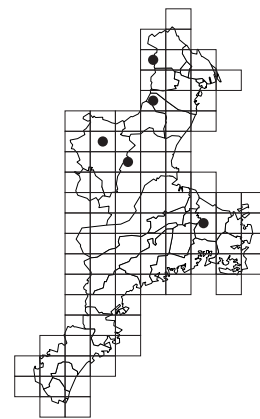
種の概要： 開張約 55 mm, 幼虫はカマツカを食し、年 1 回 7~8 月に成虫が出現する。前翅は同属種と同様樹皮模様を呈するが、前翅端に黒化部分を持つのが特徴で、後翅はオレンジ色。夜間灯火に飛来し樹液にも来るが、同属種の中でもっとも得にくい種の一つとなっている。

分布： 栃木県以西の関東から中国地方にかけて分布する日本固有種。県内産地のうち伊勢市、伊賀市鉄砲町からは追記録が得られず、現在の確実な産地は伊賀市青山高原と鈴鹿市、いなべ市のみである。

現況・減少要因： これまで県内で記録された地点は、青山高原と鈴鹿市を除いて食樹が伐採されるなど環境変化が甚だしく、現在の生息は全く期待できないと思われる。また食樹のカマツカは県内に広く分布しているにもかかわらず本種が生息確認されていない理由については不明である。他県においてもかつての記録地は激減しているが、その理由は不明である。

保護対策： 森林伐採の禁止、里山の保全などにより、少なくとも食樹であるカマツカを残存させ、生息環境を残す事が急務。

文献： 707. 709. 710. 715. 769.



(間野隆裕)

ギンイチモンジセセリ

Leptalina unicolor (Bremer et Grey)

チョウ目セセリチョウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：NT

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 既知生息地点数は 10 程度で、生息地は点在しており分断傾向がある。

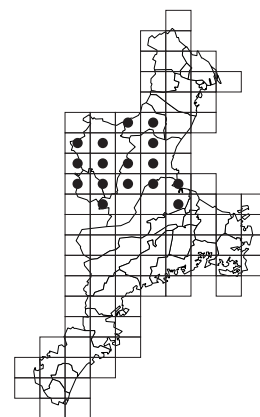
種の概要： 開張 30 mm 程の褐色で小型のセセリチョウ。後翅裏面に銀色の帯紋がある。ススキ、チガヤなどの開放的な草原に生息する。一般には春、夏の年 2 回だが、一部秋に 3 回目の発生がみられるところもある。

分布： 西部シベリア、中国北部、朝鮮半島などから北海道、本州、四国、九州。国内での分布は普遍的でなく不連続。県内では伊賀地方と中勢平野の一部に分布。

現況・減少要因： 採草地、河川池畔堤防、鉄道線路敷などの草地在が主要な生息地であるが、機械化による広範囲一斉除草といった管理形態の変化、または管理放棄によるクズ、ササ類の繁茂といった荒廃で、良好な生息環境が失われている。

保護対策： 草原環境の維持、管理。草刈りの際には一斉除草をさげ、一時避難可能な草地を残すなどの措置が必要である。

文献： 636. 650. 683. 752. 763.



(中西元男)

ミヤマチャバネセセリ

Pelopidas jansonis (Butler)

チョウ目セセリチョウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

旧県：—

選定理由： 過去の生息確認地数は多いが、近年では台高山地の溪谷部からしか記録されず、平野部からの生息確認例が途絶えている。

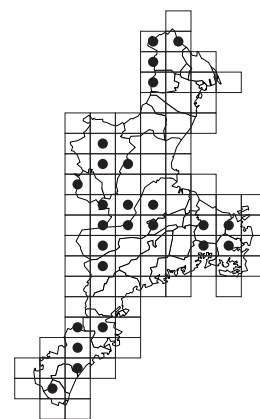
種の概要： 開張 30~40 mm 程度、褐色のセセリチョウ。褐色地に白斑を散らすセセリチョウの仲間は、本種の他三重県下にオオチャバネセセリ、チャバネセセリ、イチモンジセセリなどを産するが、本種は後翅裏面の付け根辺りに一個の白紋を表すことで他種から区別できる。

分布： 国内では本州以南、国外では中国東北部、朝鮮半島に分布する。県内の確認地は北部から南部、低地丘陵地から山地と広い範囲に及ぶ。

現況・減少要因： 県内確認地の多くの地域で近年記録されない。主な食草はススキなど普遍的なイネ科植物であり、減少要因は不明。低地丘陵地での減少は、人の暮らしとの結びつきが強く農山村生活の近代化の影響が大きいと考えられる。

保護対策： 可能な限りの伝統的農法、里山管理の維持。

文献： 650. 737. 739.



(中西元男)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

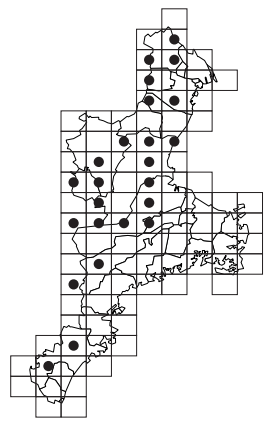
オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray)

チョウ目シジミチョウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 生息地点数は比較的多い広域分布種であるが、全域で減少傾向が著しい。
種の概要： 開張 30 mm あまりで、雄の翅表は緑色の鈍い金属光沢がある。雌は褐色。
コナラ、クヌギ、アラカシなどのブナ科植物を食樹とする。年 1 回 6 月に発生する。
分布： ウスリー、アムール、朝鮮半島、千島など。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬。県内でもほぼ全域に広く分布するが、いずれの地でも個体数は多くない。
現況・減少要因： 低地、丘陵の里山雑木林から山地の広葉樹林まで、広い範囲に生息するが、県内では、近年全域で減少傾向が著しい。生息のための環境選択幅が広いと思われる本種の減少要因は不明。
保護対策： 減少要因の解明は急務である。また、低地から丘陵地では里山環境の維持整備。
文献： 650. 728. 745. 778. 784.



(中西元男)

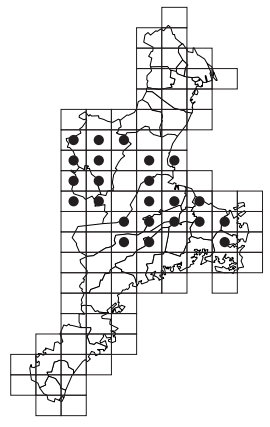
ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* (Hewitson)

チョウ目シジミチョウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は多いが、減少傾向が著しい。
種の概要： 開張 30~40 mm 程のシジミチョウとしてはやや大型の種。オレンジ色の翅の裏面に黒い縦縞模様がある。後翅に長い糸状の尾状突起をもつ。年 1 回 6 月頃にクヌギ、アベマキなどの里山雑木林に発生する。
分布： ウスリー、中国、朝鮮半島などの日本海周辺部。北海道西南部、本州、四国北部。県内では中勢、伊賀地域の低地から丘陵に分布。
現況・減少要因： 農山村の薪炭、シイタケほど用雑木林に広く分布していたが、雑木林の経済的価値の下落に伴う消失、管理放棄荒廃老化により、生息地が急速に減少している。同じ環境下に生息する低地から丘陵性ミドリシジミ類の中でも、本種は特に幼齢の萌芽林を好む性質から、林の更新が定期的に行われる必要がある。
保護対策： 里山雑木林の復活と適正管理、特に老齢化した林の早急かつ定期的な更新が必要である。
文献： 650. 654. 656. 660. 678. 687. 736. 744. 759. 778.



(中西元男)

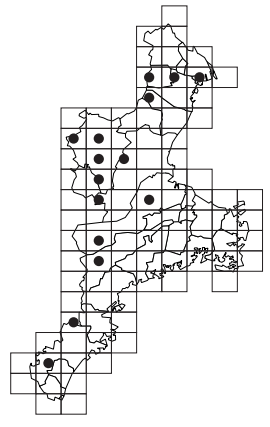
クロシジミ *Niphanda fusca* (Bremer et Grey)

チョウ目シジミチョウ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：EN

選定理由： 過去の記録は多いが、減少傾向が高く、生息地は点在し、分断されている。
種の概要： 開張 35~40 mm. 暗褐色で雄は紫色の光沢がある。幼虫は初めアブラムシ類の分泌物を食べ、後にクロオオアリの巢中に運ばれ、給餌されて育つ特異な生活史をもつ。年 1 回 6~7 月に発生する。
分布： 中国大陸、朝鮮半島。国内では本州、四国、九州に分布するがいずれの地でも局所的。県内では鈴鹿、台高・紀南の山地と、伊賀、中勢の丘陵の一部に分布。
現況・減少要因： 山地では荒れ地的な環境に生息し、植生遷移につれて消長がみられるものの、個体群全体では特に減少はないと思われる。近年はむしろ記録数が増加している傾向がある。一方、丘陵部の生息地は、生息に適した雑木林の消失で減少が著しい。
保護対策： 雑木林の伐採再生による若返りを主とする適正な管理が必要。
文献： 650. 674. 677. 680. 740. 746. 749.



(中西元男)

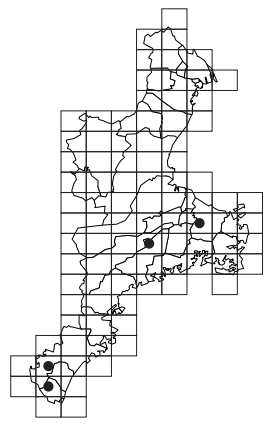
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ルーミスジミ チョウ目シジミチョウ科
Panchala ganesa loomisi (H. Pryor)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：VU

選定理由： 既知生息地点数 10 以下、生息地は点在しており、分断傾向が顕著である。
種の概要： 開張 20 mm 程度の小型のシジミチョウ。暗褐色の翅の中央に大きな青紋をもつ。自然度の高い照葉樹林の指標種。食樹はイチイガシ。初夏から秋にみられる。年 2~3 回発生するといわれるが詳細不明。1 回発生で長期間活動の可能性が高い。チョウのまま冬を越し翌春にも活動する。
分布： ヒマラヤ周辺地域、中国西南部、台湾など。国内では、本州、四国、九州、屋久島に分布するが、生息地は極めて局地的で奈良県春日山原生林の個体群は天然記念物。県内では伊勢市神宮林、大紀町滝原宮と紀伊山地南部の渓谷地域。
現況・減少要因： 紀伊山地では比較的安定的に生息。しかし、神宮林では 1959 年から、滝原宮は 1969 年を最後に確認例がない。これらの生息地は孤立化が進んで生息基盤が脆弱化したところに、特に神宮林では台風被害による林環境の変化が生息個体数に大きなダメージを与えたものと考えられる。
保護対策： 紀伊半島照葉樹林の保全。
文献： 649. 650. 730. 755.



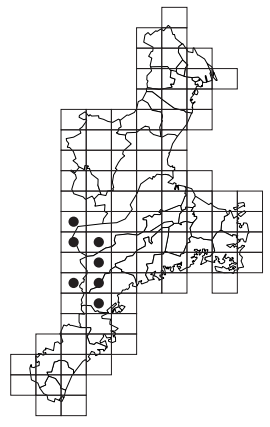
(中西元男)

ツマジロウラジャノメ チョウ目タテハチョウ科
Lasiommata deidamia interrupta (Fruhstorfer)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数 10 程度、生息地は点在しており分断されている傾向がある。
種の概要： 開張 60 mm 前後の褐色のジャノメチョウ。雌には前翅端付近に鮮やかな白帯紋がある。渓谷地帯の崖をゆるやかに飛び、露岩地に生えるイネ科植物のヒメノガリヤスを食草とする。5 月頃から発生し、秋までに 2~3 化すると考えられる。
分布： ウラル、アルタイ、中国大陸北部、朝鮮半島、ウスリー、アムール、サハリンなど。北海道、本州、四国の山地。北海道産と大陸産は別種として扱われることもある。県内では櫛田川、宮川、銚子川の上流域渓谷に分布。
現況・減少要因： 自然状態では渓谷の露岩地に発生する。林道斜面の崖地も主要な生息地であるが、崩壊予防や補修のためのコンクリート吹きつけ、路面舗装による乾燥で生息環境の悪化が進行している。近年、南部の生息地では調査しても発見できないという報告が多い。
保護対策： 林道維持管理の改善。なるべく地道のままでの保持。
文献： 638. 650. 651. 732. 739.



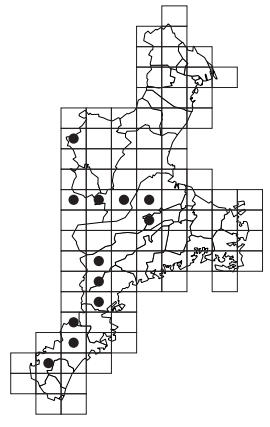
(中西元男)

クロヒカゲモドキ チョウ目タテハチョウ科
Lethe marginalis (Motschulsky)

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：EN

選定理由： 既知生息地点数は多いが、減少傾向が認められる。
種の概要： 開張 60 mm 程の中型のジャノメチョウ。褐色で前翅の裏と後翅の表裏に蛇の目様の紋がある。類似のクロヒカゲ、ヒカゲチョウとは翅形が丸みを帯びること、前翅裏の三連紋の一番下が大きいことで区別される。比較的空間のある林を好む。年 1 回発生、6~8 月に活動する。
分布： 中国大陸、アムール、朝鮮半島など。本州、四国、九州。県内では伊賀、中勢の丘陵と紀伊山地の渓谷地に分布。
現況・減少要因： 里山の雑木林と山岳渓谷に生息環境が分かれる。後者では一般に個体数は少ないが安定的。前者は多産する場所もあるが、林相の変化につれて不安定。里山管理放棄による荒廃で、減少した生息地が多い。
保護対策： 里山の維持管理。特に下草の繁茂をある程度おさえ、林床をやや明るい疎林状に保つこと。
文献： 635. 762. 786. 790.



(中西元男)

ヒトスジキソトビケラ

トビケラ目フトヒゲトビケラ科

三重県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Psilotreta japonica (Banks)

選定理由： 既知の生息地点は5以下で、近年の記録は1地点のみである。生息地が限定され個体数も少ない。

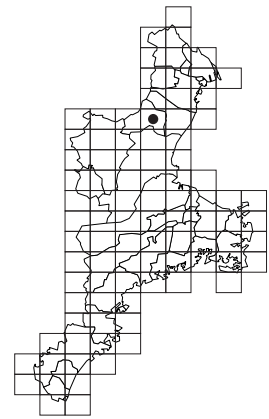
種の概要： 成虫の前翅長は10~11 mmで黒色、幼虫は体長約14mmで頭部および前、中胸の正中線上に一本の縦条紋が特徴的である。巣は荒い砂粒からなり、円筒形で側面から見ると緩やかに曲がる。

分布： 本州、東海、近畿地方から記録されているが、近年の記録は少なく滋賀、愛知、三重県のみである。県内においては亀山市から記録されている。

現況・減少要因： 平地から低山地の清冽な細流を好むため、開発などの影響を受けやすい、特に平野部においては、湧水起源の緩やかな細流に限定される。こうした環境は人間の土地利用、変更の多い場所と重なるために減少したと考えられる。

保護対策： 流れの周辺を含めた里山全体の保全が必要である。

文献： 825.



(森田久幸)

ゲンバイトンボ

トンボ目モノサシトンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Platynemis foliacea sasakii Asahina

旧県：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下で、生息域が局所的である。

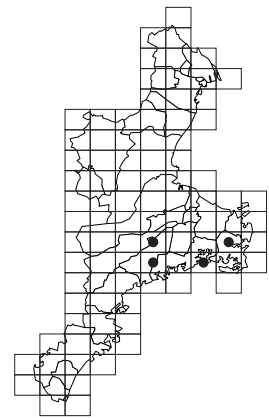
種の概要： 成虫は腹長31~33 mm、後翅長19~23 mmほどのモノサシトンボによく似た体斑の中型のイトトンボ。雄は中・後脚の脛節が白色していてよく目立ち、一見して種を識別できる。

分布： 中国北部に産するチュウゴクゲンバイトンボの日本特産亜種。宮城県から1産地が知られる以外は、関東以西の本州と九州に分布する。県内では、宮川流域を中心に、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町から記録されているが、個体数も少なく局所的である。

現況・減少要因： 生息域の土地造成や河川工事に伴う環境悪化が、個体数の減少の主な要因である。多産地であった南伊勢町の押淵周辺では埋め立て等により激減した。

保護対策： 生息域の環境維持と保全対策が必要である。

文献： 7, 14, 25, 28, 34, 41.



(石田昇三・刀根定良)

ムカシトンボ

トンボ目ムカシトンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Epiophlebia superstes Selys

旧県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

選定理由： 県内の産地溪谷の流域に生息するが、環境の悪化に伴い減少傾向にある。

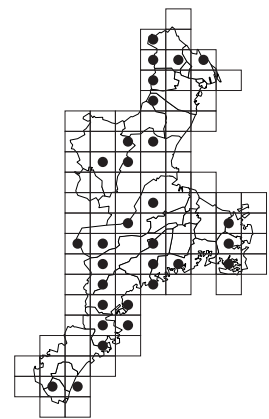
種の概要： 成虫は腹長雄38~40 mm、雌36~38 mm。黒地に黄色の斑紋があり、サナエトンボ類に似た体つきをしているがアオイトトンボ類に似た翅型の無色透明な翅をもつ特異な種類。複眼は横長で左右が離れていて単眼のあいだに扇型に張り出した独特な隆起があり、翅は均翅類型をしている。山間部の安定した川床をもつ溪流に限られる。生きた化石としても有名。

分布： 日本固有種。北海道、本州、四国、九州に分布し、隠岐にも生息する。県内では山地周辺に点在するが個体数は少ない。

現況・減少要因： 本種が生息する山間部の大規模開発や砂防堰の設置に伴い減少傾向があり、特に熊野灘沿岸流域を中心とした生息域の消失が主な要因である。

保護対策： 河川源流付近の環境保全、並びに人為的な要因をできる限り排除する必要がある。

文献： 2, 7, 8, 12, 13, 16, 22, 29, 35, 47.



(石田昇三・刀根定良)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヒメクロサナエ

トンボ目サナエトンボ科

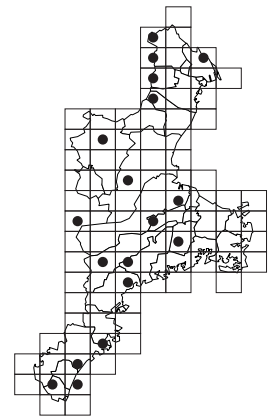
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Lanthus fujiacus Fraser

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 山間部の溪流に広く分布するが、環境悪化等により個体数は減少している。
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 27~32 mm。ダビドサナエに似るが翅胸前面の隆線下部に短い黄条があり、背隆線の両脇にハの字斑がある以外斑紋が無いこと、翅胸側面の第 1 側縫線に沿う黒条の下部がすぐ後ろの第 2 側縫線の黒条と癒合して独特の太い 1 本線をなしていることから区別できる。
分布： 日本固有種。本州（千葉県を除く）、四国、九州に分布する。県内では各地の上流域に生息するが、個体数は著しく少ない。特に志摩市周辺からは記録されていない。
現況・減少要因： ムカシトンボ同様に、本種が生息する山間部の大規模開発や砂防堰の設置に伴い減少傾向にあり、人為的開発が主な要因である。
保護対策： 生息域の河川源流の保全と個体数維持が不可欠である。
文献： 2, 4, 7, 12, 16, 22, 25, 29, 36, 47.



(石田昇三・刀根定良)

タバサナエ

トンボ目サナエトンボ科

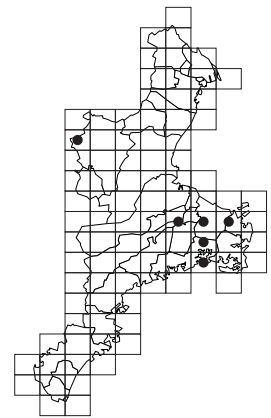
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Trigomphus citimus tabei Asahina

旧県：—

選定理由： かつては伊勢湾沿岸域に普遍的に見られたが、生息域の消失や環境悪化により近年は減少傾向にある。特に北勢地区では圃場整備に伴い個体群はほぼ消滅した。
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 30~34 mm。コサナエ属中では、コサナエ、オグマサナエのちょうど中間的な大きさ。体色・斑紋とも両種に疑似するが、翅胸の前肩条が上部の小黄点のみを残して消失していることで見分けられる。
分布： ユーラシア大陸には原名亜種のタイリクタバサナエが分布し、日本産は亜種のタバサナエとされる。国内では、福井、静岡以西の本州と四国、九州に分布する。県内では伊賀市、津市、多気町などを中心に生息するが、大紀町以南には分布しない。
現況・減少要因： 本種の生息する灌漑水路や溜め池の消失、環境悪化などにより減少傾向にある。特にオオクチバスなど外来種の流入による捕食圧は個体数を急激に減少させている。
保護対策： 本種の生息する灌漑水路や溜め池の保全や、環境に配慮し推移を見守る必要がある。
文献： 2, 4, 12, 16, 25, 36, 47.



(石田昇三・刀根定良)

フタスジサナエ

トンボ目サナエトンボ科

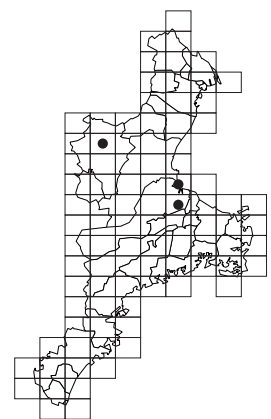
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Trigomphus interruptus (Selys)

旧県：—

選定理由： かつては県内の低山地や丘陵地の溜め池や池沼に普遍的に分布していたが、生息域の消失や環境悪化により近年は減少傾向にある。
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 32~35mm。黒地に反復模様があるややスリムな小形のサナエトンボ。胸部側面の黒条は 2 本の個体が多いが、九州では 1 本の個体も見られる。
分布： 日本固有種で福井、静岡以西に分布するが山陰地方からの記録は無い。県内では伊賀市周辺や北中部に生息するが、大紀町以南からは記録されていない。
現況・減少要因： 本種の生息する溜め池等の消失、人為的な環境悪化により減少傾向にある。特に松阪市周辺では絶滅に瀕していると思われる。特にオオクチバスなど外来種の流入による捕食圧は個体数を急速に減少させている。
保護対策： 本種の生息する溜め池などの保全や人為的環境破壊に憂慮し、推移を見守る必要がある。
文献： 2, 4, 12, 20, 22, 35, 47.



(石田昇三・刀根定良)

アキアカネ

Sympetrum frequens (Selys)

トンボ目トンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：—

選定理由： 人の生活エリアに密接した平地や丘陵地、低山地の水田や池沼などの挺水植物の繁茂する止水域に生息するが、近年の稲作工程の変化、水田の放棄、埋め立て等の人為的圧迫要因により激減している。

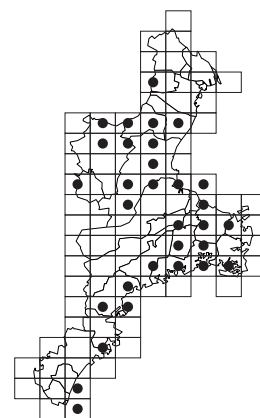
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 23~31 mm。国内に産するアカトンボ属のうちもっともポピュラーに見られる代表種である。一見同属のナツアカネに似るが、体つきが一回り大きくがっしりしていることと、成熟しても頭部と翅胸前面が褐色で、全体がやや朱色みがかっていることと、胸側の第 1 側縫線に沿う黒条が太く明瞭なことなどで識別できる。

分布： 日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布し、多くの離島にも産する。概して北の地域に多い。県内では、広く止水域に分布するが未熟個体は夏期に山頂や溪流付近に留まる傾向が強い。

現況・減少要因： 主な生息域である水田耕作工程の急変や止水域の減少など、人為的圧迫要因が大きい。

保護対策： 稲作工程の見直しや休耕田、廃田の活用が種の維持には急務である。

文献： 2. 4. 5. 9. 11. 12. 13. 16. 20. 22. 25. 29. 38. 47.



(石田昇三・刀根定良)

ミヤマアカネ

Sympetrum pedemontanum elatum (Selys)

トンボ目トンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：—

選定理由： 本種の生息域である緩流の整備等に伴う生息域と個体数の減少が年々顕著に見られる。

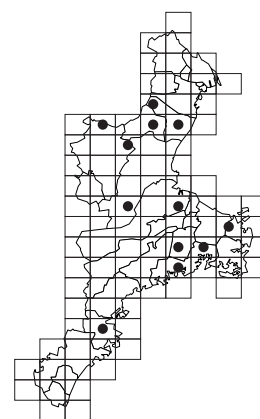
種の概要： 成虫は雌雄ほぼ同大で、腹長 23~28 mm。翅の縁紋の辺りから内側にかけて幅広い淡褐色帯があるアカトンボで、主に丘陵地や低山地の水田地帯や湿地の緩やかな流れの場所に生息する。

分布： 日本と朝鮮に分布する日朝亜種で、それより西の中国東北部から中央アジア、ヨーロッパ原亜種が産する。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では、丘陵地や低山地に広く分布するが、局所的で個体数も少ない。

現況・減少要因： 生息域の水田地帯や湿原の開発や自然遷移による荒廃が主な要因で、個体数や生息域の減少が著しい。

保護対策： 丘陵の水が湧き出す小規模水田地帯の維持と、隣接する湿地の管理と保全が重量である。

文献： 2. 4. 12. 13. 16. 22. 25. 29. 38. 47.



(石田昇三・刀根定良)

ムカシヤンマ

Tanypteryx pryeri (Selys)

トンボ目ムカシヤンマ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 近年の生息域の乾燥化の影響を受けて、生息地や個体数の減少が著しい。

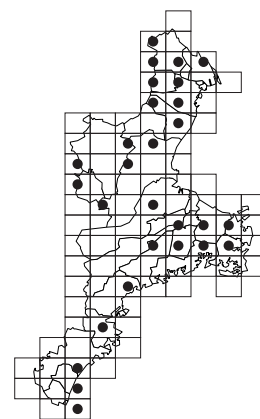
種の概要： 成虫は腹長雄 48~54 mm, 雌 44~52 mm。複眼が比較的小さなサナエトンボに似た体型のヤンマ。翅胸の前面が広く灰褐色を呈し、腹部は黒地に黄色の反復模様があり、斑紋が特異な形をしている。

分布： 日本固有種で、本州及び九州に分布。県内では南部に比較的多くの個体数を有するが、他の地域では点在的で個体数も少ない。

現況・減少要因： 幼虫が生息する低山地や山地の湧水地の施工や開発による保水能力の減退、並びに生息域の減少が主な要因である。

保護対策： 生息域の開発緩和や保全対策が不可欠である。

文献： 4. 10. 12. 13. 16. 21. 22. 25. 35. 47.



(石田昇三・刀根定良)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

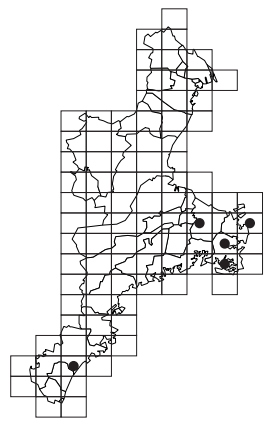
NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類**
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT**
- DD

コバネコロギス バッタ目コロギ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Metriogryllacris magnus Matsumura et Shiraki 旧県：準絶滅危惧 (NT)

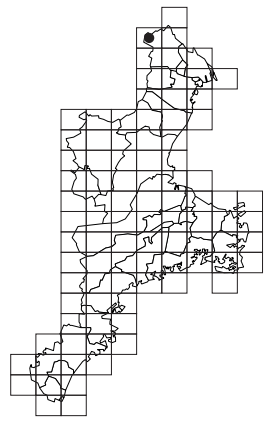
選定理由： 既知の生息地点は 10 以下。県南部の沿岸部の照葉樹林に限って生息するので、生息範囲は限定される。
種の概要： 体長約 21~24 mm. 全体茶褐色で、腹部背面に黒色と白色の横帯のある美しいコロギスである。照葉樹林の樹上に生息し、口から糸を吐いて葉をつづって営巣する習性がある。年 1 化、成虫越冬である。
分布： 本州（東海地方以西）、四国、九州、南西諸島。国外では台湾の沿岸部に局所的に分布し、県内では伊勢市神宮林、鳥羽市管島、志摩市、熊野市から記録されている。
現況・減少要因： 本州では生息地も限定され、その生息範囲は狭く個体数も少ない。沿岸部の土地開発による森林伐採によって、生息環境は悪化している。夜行性で樹上生活のため個体の確認は困難であるが、生息環境の悪化から推して、減少傾向にあると推定される。
保護対策： 沿岸部の照葉樹林の保全が必要である。
文献： 67. 68. 71. 78. 84.



(河北 均)

イセカマドウマ バッタ目カマドウマ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Paratachycines isensis Sugimoto et Ichikawa 旧県：準絶滅危惧 (NT)

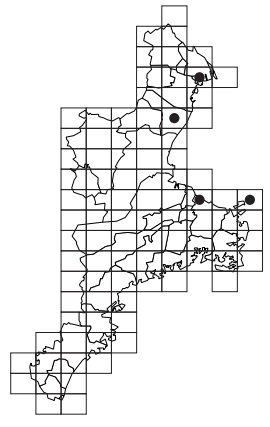
選定理由： いなべ市藤原町篠立の風穴のみに生息する。洞窟性の種であり、今後新生息地が発見されたとしても生息地は限定されるものと考えられる。
種の概要： 体長約 9 mm. 小型のカマドウマ。全体淡黄褐色。真性洞窟性の種であり、生態は不明である。
分布： 本州（三重・岐阜）の洞窟から記録されているだけである。
現況・減少要因： 生息地の石灰洞の環境は現在のところ安定しているが、生息域は狭く、個体数も多くない。
保護対策： 洞窟及び洞窟入口などの周辺附近も含めて環境保全が必要である。
文献： 53. 84. 91.



(河北 均)

クチナガコロギ バッタ目コロギ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Velarifictorus aspersus (Walker) 旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点は 7 地点であり、各地点の個体密度は低い。
種の概要： 体長約 13~22 mm. 全体黒褐色。ツヅレサセコロギに体色、体長などが似るが、雄の大あごが長く顔面の半分ほどあることや「キリッ、リッ、リッ」とややゆっくりに鳴くので区別できる。年 1 化、成虫は 9~10 月に出現する。
分布： 韓国、中国、台湾に分布する。国内では本州（東海地方以西）、四国、九州に局所的に分布し、県内では四日市市、鈴鹿市、伊勢市、鳥羽市（答志島、神島）の記録がある。
現況・減少要因： 自然林、丘陵地、公園などの開放的な草地で発見される。分布が限られ、各生息地の生息範囲は狭く、個体数も少ない。
保護対策： 現在の生息地はほぼ安定しているので、土地開発等の整備活動を行わずに、現環境を維持していく必要がある。
文献： 50. 51. 52. 80. 84.



(村井俊郎)

スズカササキリモドキ

バッタ目ササキリモドキ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Kinkiconocephalopsis matsuurai Kawakita

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点は 10 以下。紀伊半島東部のブナ帯に限って生息するので、生息範囲は限定される。

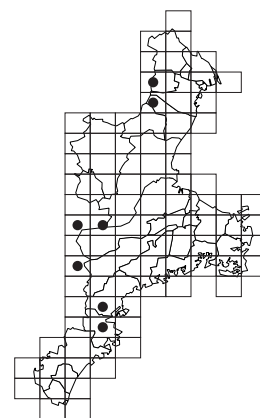
種の概要： 体長約 10 mm. 小型の短翅ササキリモドキ。緑色、前胸背に暗褐色帯があり、腹部背面に黄白帯がある。ブナ帯の樹上及び林内のササの群落に生息する。年 1 化、成虫は 7~9 月に出現する。

分布： 紀伊半島固有種。鈴鹿山脈、高見山地、台高山脈、大峰山脈から知られ、県内では菰野町、亀山市、津市、松阪市、大台町、尾鷲市から記録されている。

現況・減少要因： ブナ帯に限って生息するため、森林伐採により減少傾向にある。

保護対策： ブナ帯域の自然林の保全が必要である。

文献： 62. 63. 69. 81. 84.



(河北 均)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヤマトマダラバッタ

バッタ目バッタ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Epacromius japonicus (Shiraki)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 海岸、大河川の砂浜に生息し、全国的にも生息地は限定される。

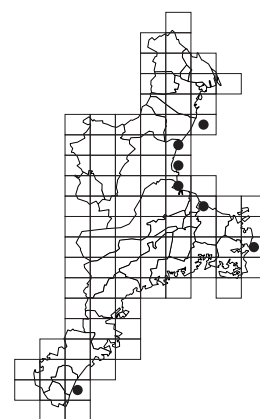
種の概要： 体長 30~35 mm. 中型のバッタ。体色は淡褐色で暗褐色の斑紋が点在し、砂地に対して保護色となっている。後翅は透明、基部は淡青色。年 1 化、成虫は 7~10 月に出現する。

分布： 北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、志摩市、御浜町、紀宝町の海岸から記録されている。

現況・減少要因： 砂浜に限って生息するため、自然海岸の減少により生息地と個体数が減少している。

保護対策： 本種の生息環境である海浜植物群落の保護、海岸への車輛乗入れの規制等の保護対策が必要である。

文献： 48. 64. 65. 70. 71. 74. 82. 84. 85. 89. 92.



(河北 均)

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イナゴモドキ

バッタ目バッタ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Mecostethus parapleurus (Hagenbach)

旧県：

選定理由： 山地草原的環境に局所的に分布し、確実な産地は 2 か所。

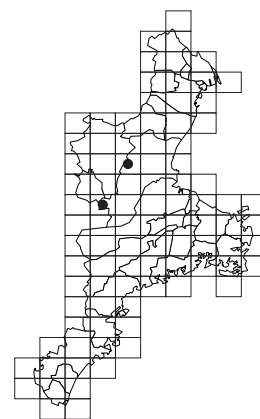
種の概要： 体長雄約 25~27 mm, 雌約 25~30 mm. 背の側面に黒帯があり、一見イナゴ類のようだが、前肢付け根の間の突起はない。黄褐色型が最も多く、淡褐色、褐色の色彩型がある。後翅は透明。体が細く、翅が長く後腿節を越える。6~8 月に成虫。西日本では局所的に分布。ヨーロッパと共通種。

分布： 北海道、本州、四国、九州、奥尻島、佐渡島、隠岐、対馬。県内では、青山高原、大洞山麓に生息する。

現況・減少要因： 環境が安定した冷涼な山地草原の遷移進行、草地開発などにより生息可能な環境が減少している。

保護対策： 山地高原の草原環境の維持が必要である。

文献： 84. 94.



(加納康嗣)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

ヒメフキバツタ

バツタ目バツタ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Parapodisma etsukoana Kobayashi

選定理由： 既知の生息地点は 10 以下，個体数も少ない。

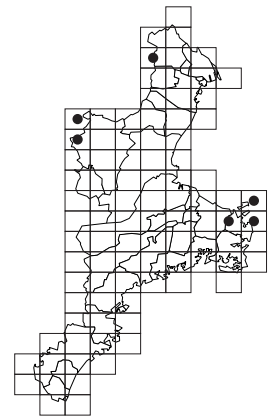
種の概要： 体長雄 19.5~24 mm，雌 24.6~37.2 mm，中型種。黄緑色。雄の黒側条は前胸背前縁部から中葉まで。雌では頭部のみ，時に前胸背前縁部まで。後腿節下面は紅色。雄の生殖下板は上方に短く突出し，背面内側に小さな背縁突起をもつ。前翅は側生する。雄の尾肢は，くの字形。成虫の出現期は他のフキバツタ類と比べて遅く，8 月中旬以降に見られる。北向き斜面や陰湿な溪流沿いの林縁，暗い林内の灌木上に生息する。キイチゴ類やアジサイ類を好む。卵越冬年 1 化。

分布： 日本固有種で本州中央部に分布の中心がある。三重県は分布の南西限になり，滋賀県境の伊賀北部，北勢地方北部並びに南勢地方に限定される。

現況・減少要因： 分布地が限定されるうえ，生息地の個体数が少ない。溪流沿いや林縁の灌木上にみられるが，森林の荒廃やシカの食草食害などにより生息域が狭められている。

保護対策： 分布地域の低山帯の環境維持が必要である。

文献： 60. 71. 75. 79. 84.



(加納康嗣)

ノセヒシバツタ

バツタ目ヒシバツタ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Alulatettix fornicatus (Ichikawa)

選定理由： 伊賀地域周辺に分布が限られ，既知の生息地点は 10 以下で，個体数は少ない。

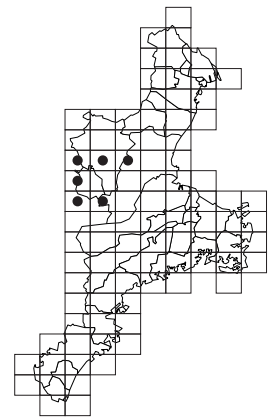
種の概要： 体長雄約 9.3~9.9 mm，雌約 9.8~11.8 mm。前胸背正中は著しくアーチ状に盛り上がり，前縁は三角状に突出。前後翅ともかなり退化し，前翅上側半分は前胸背板に隠れる。後翅は完全に隠れることが多い。前翅を入れる窪みは不明瞭。比較的明るい林床に棲む。晩春から初夏に成虫。

分布： 本州(愛知県以西)，四国，九州，隠岐に分布。県内では，布引山地，尼ヶ岳，名張周辺山地で確認されている。

現況・減少要因： 山林等の管理放棄により林床が隠ぺいされ暗くなった。

保護対策： 森林の適切な管理を行い，森林周辺の多様な環境が残るようにすることが必要である。

文献： 54. 55. 56. 84.



(加納康嗣)

チッチゼミ

カメムシ目セミ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Cicadetta radiator (Uhler)

選定理由： アカマツ林，スギ・ヒノキ造林地の荒廃により，生息基盤が危惧される。

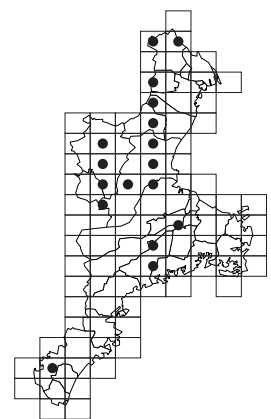
種の概要： 本土最小のセミで，体長(翅端まで) 30 mm 内外。背弁がなく，全体暗色で，中胸背に 1 対の暗黄色紋がある。成虫は 7 月下旬から 11 月上旬頃までみられる。

分布： 北海道から九州にかけて，県内では北中勢，伊賀，南勢，牟婁地域などに分布。

現況・減少要因： いなべ市，菰野町，亀山市，伊賀市，名張市，津市，大紀町などでは，丘陵地や山地の主としてアカマツ，スギ，ヒノキなど針葉樹林に生息する。アカマツ林は近年マツノザイセンチュウによって枯死が広域的に進行しており，また，スギ・ヒノキ造林地は放置化による荒廃地が目立っている。住宅・工業団地やゴルフ場建設などの諸開発による生息地の消滅と併せ，このような森林環境の変化が本種の生息基盤に大きく影響を与えているものと推察される。

保護対策： アカマツ林の保全，スギ・ヒノキ造林地の継続的な手入れ，管理が必要。

文献： 98. 99. 101. 128. 131. 132. 137. 139. 142. 146. 152. 156. 165. 166.



(富田靖男)

エゾハルゼミ

Terpnosia nigricosta (Motschulsky)

カメムシ目セミ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 戦後の拡大造林期以降、生息地であるブナ帯自然林の減少にともない、本種も減少傾向にある。

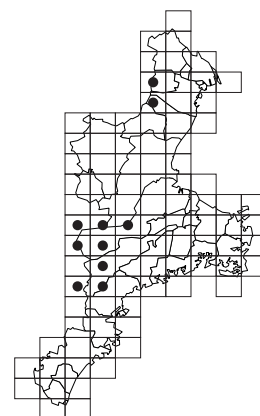
種の概要： 体長雄 31 mm (翅端まで 42 mm) 内外、雌 25 mm (40 mm) 内外。雌の産卵管はわずかししか裸出しない。成虫は 6 月から 7 月にかけて出現する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、国外では樺太、中国に分布。三重県では鈴鹿山系、三峰・台高山系などに分布する。

現況・減少要因： 三峰・台高山系では津市美杉町三重大学演習林、松阪市飯高町明神平、大台町宮川西谷、大台ヶ原などにパッチ上ではあるが広域的に分布する。鈴鹿山系では御在所岳、宮指路岳で記録されているが分布域は狭いようである。自然林の伐採・造林地化、観光地化などの人為的、および台風などの自然災害によるブナ帯自然林の減少が本種の動向に関与していると推察される。

保護対策： 現存するブナ帯自然林を保全するとともに、長期的に自然林の再生、復元を計る。

文献： 96. 104. 105. 106. 113. 116. 122. 145. 156.



(富田靖男)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

コエゾゼミ

Tibicen bihamatus (Motschulsky)

カメムシ目セミ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 戦後の拡大造林期以降、ブナ林の減少とともに、本種も減少傾向にある。

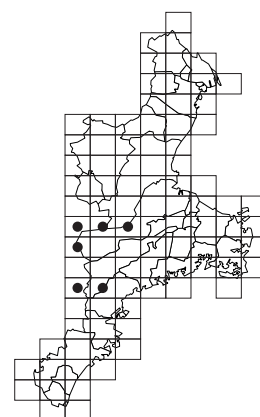
種の概要： エゾゼミ類の中では小型で、体長(翅端まで) 52 mm 内外。前胸背後縁付近の太い黄褐色帯は、通常黒紋で外縁の帯と切断される。雄の腹弁は長くて左右が離れ、第 4 腹板をこえる。成虫は 7~8 月に出現する。

分布： 北海道、本州、四国、国外では千島、樺太、シベリアに分布。県内では三峰・台高山系の自然林に分布する。

現況・減少要因： 三峰・大台山系では津市美杉町三重大学演習林、松阪市飯高町高見山、明神岳、大台町大台ヶ原・大杉谷などの主として標高 1,000 m 以上のブナ林に生息する。本種の分布の動向には戦後の拡大造林期以降行われてきた自然林の伐採、造林地化、観光地化などの人為的要因および自然災害などによるブナ帯自然林の減少が関与しているであろう。

保護対策： ブナ帯自然林を保全するとともに、長期的に自然林の再生、復元を計る。

文献： 96. 114. 116. 122. 148. 149. 164.



(富田靖男)

エゾゼミ

Tibicen japonicus (Kato)

カメムシ目セミ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息地の自然度の高い針葉樹林が減少傾向にあり、種の動向が危惧される。

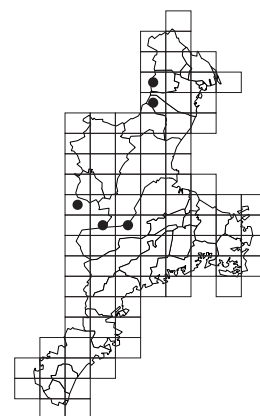
種の概要： 体長(翅端まで) 62 mm 内外。背面には黒地に褐色系の紋があり、中胸背の W 状紋上部と側縁の帯は白い。雄の腹弁は先端丸みを帯び、第 3 腹板に達す。成虫は 7 月下旬から 9 月下旬に出現する。

分布： 北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布する。県内ではこれまでに鈴鹿山系、室生山地および三峰山地から知られる。

現況・減少要因： 鈴鹿山系では御在所岳、鎌ヶ岳、入道岳、野登岳などの標高 800 m 付近より上部で、また、三峰山地では三重大学演習林の標高 600 m から 1,000 m 付近にかけて記録されている。本種の生息環境は自然度の高いマツやスギ、モミなどの針葉樹林であるが、自然災害も含めた山林の荒廃が種の生息基盤に影響を与えているものと推察される。

保護対策： 山林、特に自然度の高い自然林の保全管理、ならびに未記録地も含めた種の継続的な分布調査が必要である。

文献： 100. 103. 108. 114. 120. 121. 122. 139. 143. 156. 159.



(富田靖男)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

オオアメンボ

カメムシ目アメンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Aquarius elongatus (Uhler)

旧県：—

選定理由： かつては県内に広く生息していたが、近年生息地、個体数ともに減少している。

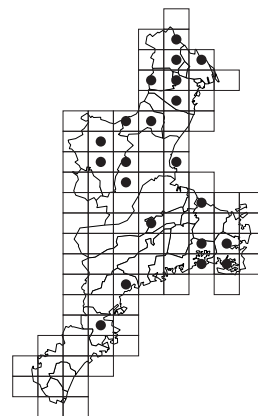
種の概要： 体長 20~25 mm 前後で、日本産最大のアメンボ類の一種である。体色は黒色あるいは暗褐色をしている。中・後脚は長く、雄成虫は雌よりやや大きい。

分布： 本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では四日市市、亀山市、津市、明和町、南伊勢町、尾鷲市から記録されている。

現況・減少要因： 生息範囲は広いが、いずれの既知生息地においても、近年生息地点、個体数が減少している。本種は低地の池沼、河川の静水域等に生息するが、樹木に覆われたうす暗い環境を好むようである。そのため水路や圃場の整備により、用排水分離が進んだことで、生育環境が激変していると思われる。

保護対策： 本種が生息可能な水辺環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 138. 158. 159. 160. 168.



(鈴木 賢)

シロウミアメンボ

カメムシ目アメンボ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Halobates matsumurai Esaki

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地が 10 以下で、生息範囲は局所的である。三重県 RDB2005 では情報が少なく DD であったが、その後データが蓄積され、NT にランク変更された。

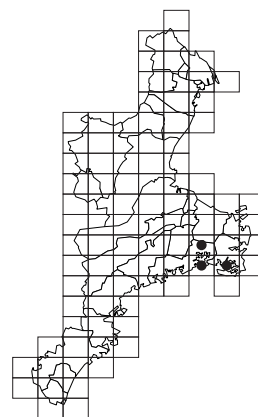
種の概要： 体長 5.0~6.0 mm の大型ウミアメンボで、背面は微毛により灰白色を呈する。前脚跗節の第 1 節は第 2 節より長い。

分布： 本州、九州北部、対馬の内湾の沿岸に分布し、県内では志摩市大王町、志摩町、浜島町の英虞湾および南伊勢町の五ヶ所湾で記録されている。

現況・減少要因： 英虞湾および五ヶ所湾で記録されているだけであり、生息地の範囲は狭い。内湾の汚染等、生息環境の悪化が減少要因となりうる。

保護対策： 内湾沿岸部の環境保全ならびに今後の継続的な調査が必要である。

文献： 111. 168.



(富田靖男)

コオイムシ

カメムシ目コオイムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Appasus japonicus Vuillefroy

旧県：—

選定理由： 現在のところ比較的広く分布しているが、生息環境の改変などにより、減少傾向にある。2005 年版では LC であったが NT にランク変更された。

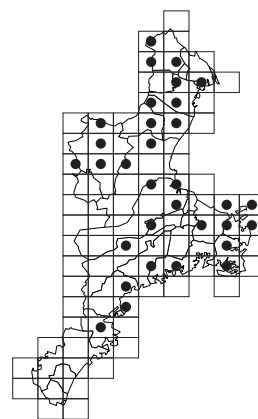
種の概要： 体長 17~20 mm で、オオコオイムシ (23~26 mm) と比べて一回り小さい。5~6 月頃に雌は雄の背面に卵を並べて産み付ける。浅い池沼や水田、休耕田、河川など、比較的開けた水域に生息する。

分布： 北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では、いなべ市、桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、松阪市、多気町、明和町、大台町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町および尾鷲市で記録されている。

現況・減少要因： 現在のところ県内には比較的広く生息している。しかしこれらの生息地はいずれも諸開発の影響を受けやすい地域であり、近年減少傾向にある。

保護対策： 池沼や湿地の開発抑止、水田、水路、河川の水質も含めた適切な管理、今後の継続的な調査が必要である。

文献： 112. 123. 124. 125. 126. 130. 131. 134. 135. 138. 141. 146. 152. 154. 155. 156. 157. 159. 160. 168.



(富田靖男)

ミゾナシミズムシ

カメムシ目ミズムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Cymatia apparens (Distant)

選定理由： 既知生息地は 10 以下で、いずれの池沼やワンドも生息地基盤が脆弱であることから新たに NT にランクされた。

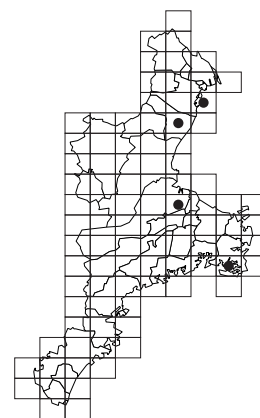
種の概要： 体長 5~6 mm の小型ミズムシで、顔面の下唇に横条を欠く。また、雌雄とも前脚跗節は細長い角状で、歯列 (ベグ列) が無い。

分布： 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し、県内では四日市市と鈴鹿市の鈴鹿川ワンドおよび松阪市, 志摩市の池沼で確認されている。

現況・減少要因： 上記のいずれの地域においても確認個体数は少ない。生息場所はヨシ, ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変, 水質汚染, 河川改修などが減少要因となりうる。

保護対策： 抽水植物の豊富な池沼やワンドの保全, 既知生息地も含めた池沼, 湿地等の開発抑止, 適切なる河川管理ならびに継続的な調査が必要である。

文献： 112, 156, 168.



(富田靖男)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

ホッケミズムシ

カメムシ目ミズムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Hesperocorixa distanti hokkensis (Matsumura)

選定理由： 既知生息地は 10 程度で、いずれの池沼やワンドも生息地基盤が脆弱である。三重県 RDB2005 では情報が少なく DD であったが、その後データが蓄積され、NT にランク変更された。

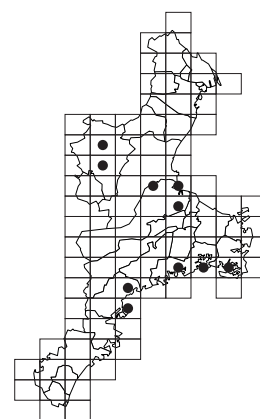
種の概要： 体長 10~11 mm の大型ミズムシで、雄の顔面のくぼみは中央部の複眼間にみられる。雄の前脚跗節内面の歯列 (ベグ列) は全長にわたり、30 個ほどの歯がみられる。

分布： 本州, 四国, 九州に分布し、県内では松阪市の雲出川と松阪市・多気町の橿田川の下流部河川敷および伊賀市, 志摩市, 南伊勢町, 紀北町などの池沼で記録されている。

現況・減少要因： 上記の市町で記録されているが、いずれも確認個体数は少ない。生息場所はヨシ, ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変, 水質汚染, 河川改修などが減少要因となりうる。

保護対策： 抽水植物の豊富な池沼やワンドの保全, 既知生息地も含めた池沼, 湿地等の開発抑止, 適切なる河川管理ならびに継続的な調査が必要である。

文献： 110, 112, 115, 160, 168.



(富田靖男)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ナガミズムシ

カメムシ目ミズムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Hesperocorixa mandshurica (Jaczewski)

選定理由： 既知生息地は 10 以下で、いずれの池沼やワンドも生息地基盤が脆弱であり、三重県 RDB2005 では DD であったが NT にランク変更された。

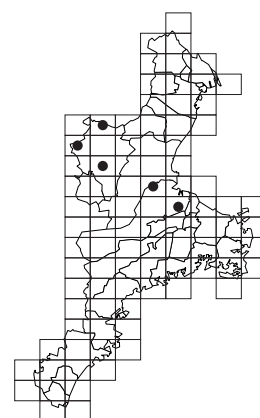
種の概要： 体長 10~11 mm の大型ミズムシで、ホッケミズムシと比べて体は細長く、両側は平行的である。雄の顔面のくぼみは大きく、幅は複眼に達する。雄の前脚跗節内面の歯列 (ベグ列) は跗節全長にわたる。

分布： 本州, 四国, 九州に分布し、県内では松阪市中村川のワンド, 津市一志町波瀬, 伊賀市諏訪, 比自岐, 上林および多気町西池上などの池沼で記録されている。

現況・減少要因： 上記の市町で記録されているが、いずれも確認個体数は少ない。生息場所はヨシ, ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変, 水質汚染, 河川改修などが減少要因となりうる。

保護対策： 抽水植物の豊富な池沼やワンドの保全, 既知生息地も含めた池沼, 湿地等の開発抑止, 適切なる河川管理ならびに継続的な調査が必要である。

文献： 110, 152, 161, 168.



(富田靖男)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ミヤケミズムシ

カメムシ目ミズムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Xenocorixa vittipennis (Horváth)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地は 15 以下で、いずれの池沼やワンドも生息地基盤が脆弱であり、三重県 RDB2005 では DD であったが NT にランク変更された。

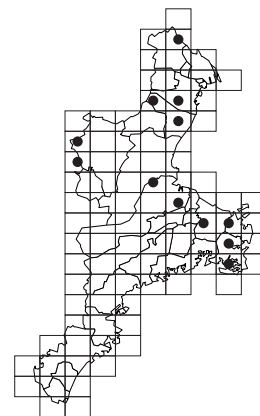
種の概要： 体長 7.5~9.0 mm の中型ミズムシで、体側はやや膨らみ丸味をおびる。前胸背の黒色黄帯は 6~8 本で、他の大中形種と比べて少ない。雄の前跗節内面の歯列(ペグ列)は跗節の前半部のみに見られ、歯は 14 個ほどで少ない。

分布： 本州、四国、九州に分布し、県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市および伊賀市で記録されている。

現況・減少要因： 県内では比較的多くの地域で記録されているが、いずれも確認个体数は少ない。生息場所はヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変、水質汚染、河川改修などが減少要因となりうる。

保護対策： 抽水植物の豊富な池沼やワンドの保全、既知生息地も含めた池沼、湿地等の開発抑止、適切なる河川管理ならびに継続的な調査が必要である。

文献： 151. 152. 156. 159. 161. 168.



(富田靖男)

ハマベツチカメムシ

カメムシ目ツチカメムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Psamnozetes ater Distant

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地が 10 以下で、生息範囲は海岸付近に限定され、かつ局所的である。

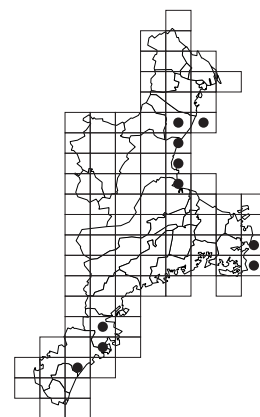
種の概要： 体長 3.5~4 mm で、体色は光沢のある褐色あるいは赤褐色である。海浜植物の株元などの砂中で生息している。

分布： 本州、四国、九州に分布する。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、明和町、鳥羽市、尾鷲市で記録があり、伊勢湾岸から熊野灘沿岸の海浜に広く分布していると考えられる。

現況・減少要因： 熊野灘沿岸の生息環境は比較的保全されている。しかしながら伊勢湾岸では工業生産活動やレジャー・スポーツ施設の建設、防災対策等により、生息環境が分断され個体数が減少する可能性が高いと考えられる。

保護対策： 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 136. 138. 156. 160.



(鈴木 賢)

シロヘリツチカメムシ

カメムシ目ツチカメムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Canthophorus niveimarginatus (Scott)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地が 5 以下で、生息範囲は限定され、かつ局所的である。

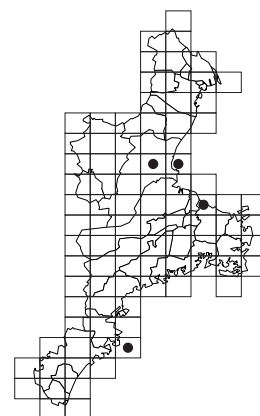
種の概要： 体長 7 mm 内外で、体色は光沢のある黒藍色で体側部に白色の縁取りがある。幼虫は特定の植物でのみ成長する。成虫は卵を保護する習性がある。

分布： 本州、四国、九州に分布する。県内では津市、伊勢市、紀北町から記録がある。

現況・減少要因： 生息環境は比較的保全されている。しかしながら防災対策等により、生息環境が激変する可能性が高いと考えられる。

保護対策： 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 127. 138.



(鈴木 賢)

ツノアカツノカメムシ カメムシ目ツノカメムシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Acanthosoma haemorrhoidale angulatum Jakovlev 旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地が5以下で、県中北部に分布するが、生息範囲が限定されている。

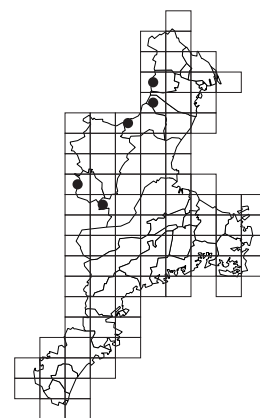
種の概要： 体長13~18 mmで、鮮やかな緑色に赤色と黒色の模様がある。前胸背側方に角があり、名の由来となっている。バラ科植物に寄生する。

分布： 本州、四国、九州に分布する。県内では菰野町、津市から記録がある。本県における分布は、紀伊半島東岸部における南限と考えられる。

現況・減少要因： 生息範囲は鈴鹿山系周辺地域であり、現状では環境は保全されている。しかし、比較的低山地帯で確認されることから、今後の土地開発により生息環境が激変する可能性が高いと考えられる。

保護対策： 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

文献： 133, 138.



(鈴木 賢)

コマダラウスバカゲロウ アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Dendroleon jesoensis Okamoto 旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知生息地は10程度で、生息環境が特殊であり、大気汚染や環境変化による減少が危惧される。2005年版DDからNTにランク変更された。

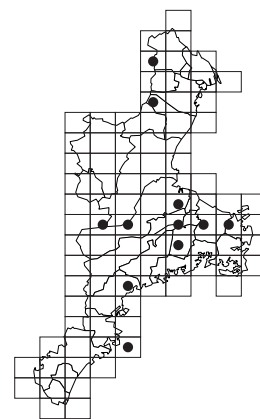
種の概要： 成虫は体長22 mm、前翅長28 mm程。幼虫は10 mm弱で、すり鉢状の穴(アリジゴク)をつくらず、森林内の岸壁や樹木の窪みで待ち伏せし、小昆虫を捕食する。背面には地衣類の微小片を付けてカムフラージュしている。

分布： 北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では、いなべ市、鈴鹿市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、紀北町および尾鷲市で記録されている。

現況・減少要因： 県内に点散的に分布するが、生息場所は地衣類の付着する岸壁など特殊な環境である。大気汚染の指標ともいわれる地衣類に依存していることから、大気汚染や森林の伐採など環境変化が減少要因となりうる。

保護対策： 大気汚染および森林伐採などの環境変化に留意するとともに、継続的な調査が必要である。

文献： 170, 173, 177, 178, 179.



(富田靖男)

オオツノトンボ アミメカゲロウ目ツノトンボ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Protidricerus japonicus (MacLachlan) 旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地が10余りであり、諸開発による種の動向が危惧される。

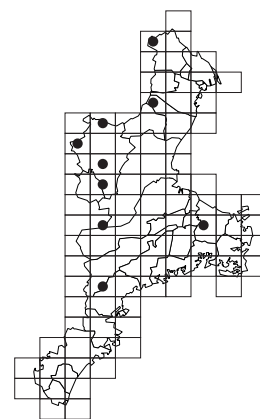
種の概要： 体長25~30 mm、前翅長35~40 mm。複眼はツノトンボのように小溝で上下に分割されず完全。成虫は6~8月頃に出現し、燈火にも飛来する。

分布： 日本固有種で本州、四国、九州に分布。県内では北勢、中勢、南勢および伊賀地域の丘陵地および山地の主としてススキ草原など草地的環境に生息する。幼虫は草の根ざわなどで小昆虫を捕食する。

現況・減少要因： いなべ市、四日市市、鈴鹿市などの鈴鹿山系、伊賀市の丘陵地、及び津市美杉町、大台町、伊勢市などで知られるが、いずれも散発的な記録である。鈴鹿山麓、伊賀丘陵地などでは住宅・工業団地、スポーツ・レジャー施設等諸開発による生息地の減少が種の動向に直接的に関与しているであろう。

保護対策： 丘陵・山地の過重開発の抑止および未調査地も含めた継続的調査が必要。

文献： 169, 170, 172, 176, 178, 180, 181, 182.



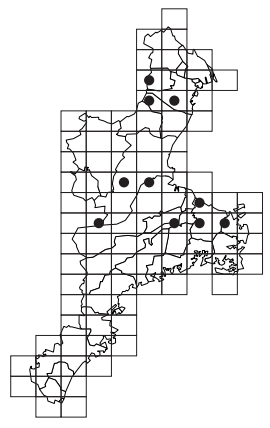
(富田靖男)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

コオナガミズスマシ コウチュウ目ミズスマシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：VU
Orectochilus punctipennis Sharp 旧県：—

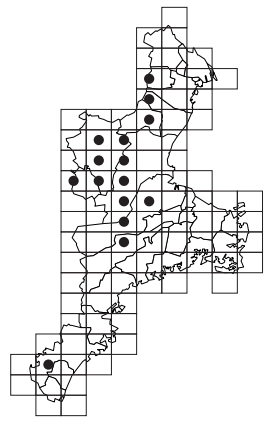
選定理由： 既知生息地点が 10 未満。近年減少傾向にあるものと思われる。
種の概要： 体長 5.5~6.2 mm。水質の良い河川の上流から中流に生息する。日中は岸辺近くの植物の根の間に潜んでいるのを見ることが多い。夕方になると水面を旋回する。
分布： 本州、四国、九州。三重県では、菰野町、四日市市、亀山市、津市、松阪市、伊勢市、度会町、鳥羽市などで確認されている。いずれも伊勢湾流入河川で、熊野灘沿岸や伊賀盆地では未記録である。
現況・減少要因： 津市の雲出川中流域には現在も個体数が多い地点があるが、他では非常に少ないようである。四日市市、菰野町の記録は 1960 年代以前のものである。河川の改修などがその減少要因であると考えられる。
保護対策： 河川の改修などには十分配慮すべきである。
文献： 444, 451, 489, 573.



(秋田勝己)

アイヌハンミョウ コウチュウ目オサムシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
Cicindela gemmata aino Lewis 旧県：—

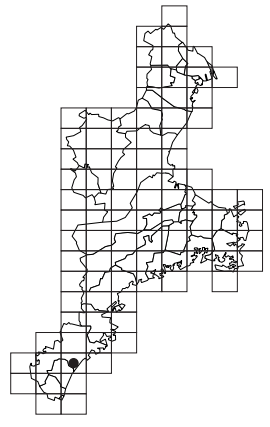
選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。河川の上中流域で生息するが、環境悪化により全国的に減少している。
種の概要： 体長 16~17 mm。河川敷の砂や小石のある河原に生息し、成虫、幼虫ともに肉食で小さな昆虫類などを捕食する。
分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では菰野町、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町、熊野市などで確認されている。
現況・減少要因： 生息地の河原は洪水などによる適度な攪乱が必要であり、常に不安定である。本種は適した環境を渡り歩くような移動を繰り返している。ダム建設や大きな河川改修工事は、本種に与えるダメージが大きい。
保護対策： 生息域の河川工事を行わず、自然に近い河川環境の保全が必要である。
文献： 225, 233, 265, 328, 374, 440, 443, 444, 489, 508.



(乙部 宏)

クマノヤマトオサムシ コウチュウ目オサムシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Carabus yamato kitai Imura 旧県：—

選定理由： 本県特産で分布域が局限される。個体群は安定しているようであるが、既知生息地点数は 1 地点のみである。
種の概要： 体長 18~22 mm。主食はフトミズ類と推定され、樹林内や林縁に生息する。北陸地方から近畿地方を中心に分布するヤマトオサムシ *Carabus yamato* (Nakane) の亜種で、交尾器形態等が特化しているとされる。ヤマトオサムシはこれまでに 6 亜種に分類されている。
分布： 日本（三重県）固有亜種で、熊野市、御浜町の長尾山周辺の限られた地域に分布する。北方にはミナミヤマトオサムシ *Carabus yamato kinkimontanus* Imura et Mizusawa の孤立分布域が点々と存在しており、本亜種の分布域との間に新たな産地が発見される可能性もある。
現況・減少要因： 分布域には樹林帯も多く、本亜種は人工林にも生息できるため、差し迫って絶滅や激減の恐れはない。しかし、分布範囲が限られているため、大規模な環境改変によってダメージを受ける可能性がある。
保護対策： 分布域内の環境改変をできるだけ避ける必要がある。
文献： 284.



(久保田耕平)

ヒョウタンゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Scarites aterrimus Morawitz

選定理由： 既知の生息点数は100地点以下。海浜のみに生息するが、砂浜の減少と環境悪化で減っている。

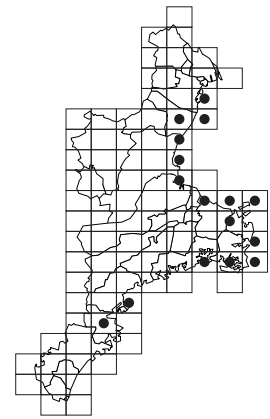
種の概要： 体長15~20 mm。体色は艶のある黒色で、鞘翅の肩部はなだらかな丸みがある。成虫は汀線付近からやや離れた範囲の流木や海草の下で発見される。

分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市で記録されている。

現況・減少要因： 草などに覆われない砂浜でしか生息できない。近年急激に行われているクロマツ植栽などは、本種にとって大きな打撃を与えている。また、浜への砂の供給が減っているため、砂浜海岸が痩せ細ってきているのも深刻である。

保護対策： 砂浜へのクロマツ植栽は行わず、生息地と隣接している植栽地はクロマツを撤去するのが好ましい。本来の砂浜海岸への環境復元を図る。

文献： 253. 262. 263. 266. 271. 274. 275. 368. 406. 435. 441. 443. 451. 455. 490. 545. 555. 572.



(乙部 宏)

コヤメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Trechiana apicedentatus S. Ueno

選定理由： 大紀町の石灰洞の1か所のみ生息する。

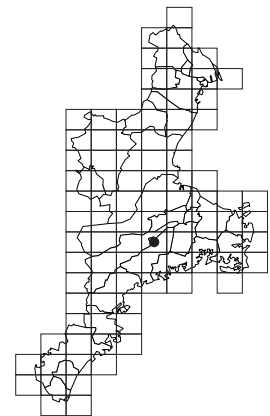
種の概要： 体長4.6~5.7 mm。複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色する、中型の洞窟性昆虫。

分布： 日本固有種で、三重県大紀町藤木屋の石灰洞「木屋のこうもり穴」にのみ生息する。

現況・減少要因： 入洞が安易なため、人為的な環境の変化、破壊が危惧される。

保護対策： 行政、地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる。

文献： 250. 545. 567.



(稲垣政志)

イマダテメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Trechiana imadatei (S. Ueno et Shibanaï)

選定理由： 伊勢市宇治館町と志摩市磯部町周辺の石灰洞にのみ生息する。

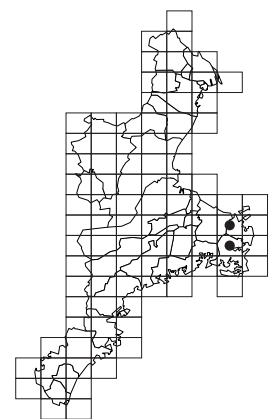
種の概要： 体長4.5~5.7 mm。複眼と後翅は退化し、体色はアメ色に退色する。石灰洞にのみ生息する洞窟性昆虫。

分布： 日本固有種で三重県の南勢地域にのみ分布する。伊勢市宇治館町「燧石の穴」、「五知越の横穴」、「旭の縦穴」、志摩市磯部町「大沢の風穴」、「廃釜の穴」の石灰洞で記録されている。

現況・減少要因： 伊勢市宇治館町の石灰洞は、神宮境内にあって管理されているため、本種の個体数は変化なく維持されている。一方、志摩市磯部町の石灰洞は、人的影響による環境破壊が考えられる。

保護対策： 伊勢市宇治館町の石灰洞は維持管理され種の絶滅から保護されているが、志摩市磯部町の石灰洞は、入洞者の制限が必要である。

文献： 251. 545. 564.



(稲垣政志)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

スズカメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Trechiana suzukaensis S. Ueno

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 鈴鹿山脈北部の石灰洞と鉱山跡の3か所から記録されている。

種の概要： 体長 5.1~6.0 mm。複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色している。

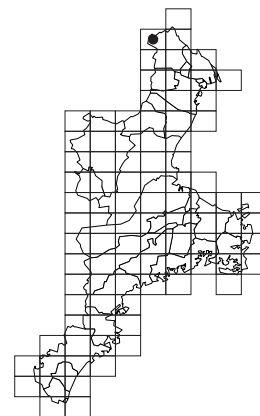
石灰洞とその周辺の鉱山跡に生息する。

分布： 日本固有種で、三重県と滋賀県との県境の中北部の石灰洞と鉱山跡に生息する。いなべ市藤原町の石灰洞「篠立の風穴」、鉱山跡「大貝戸抗」、同市北勢町鉱山跡「大通洞抗」から記録されている。

現況・減少要因： これらの石灰洞のうち、特に「篠立の風穴」は、最近洞窟内部の崩壊が進んできており、また洞窟内部の乾燥化も激しいために、これまでのように洞窟生物が生息できる環境ではなくなりつつある。

保護対策： 「篠立の風穴」は県の天然記念物として保護されているが、上記の自然崩壊による洞窟内部の環境変化のための対策が必要である。他の鉱山跡についても同様のことが言える。

文献： 257, 299, 568.



(稲垣政志)

ヒラケメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Kurasawatrechus hirakei S. Ueno

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 大紀町藤木屋の石灰洞1か所にのみ生息する。

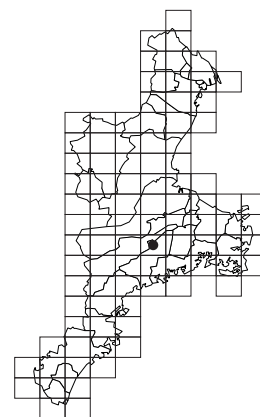
種の概要： 体長 2.5~3.1 mm。複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色する。洞窟性昆虫でも同じコヤマメクラチビゴミムシより特化した小型種で、洞窟のより深部に生息する。

分布： 日本固有種で三重県大紀町藤木屋「木屋のもうもり穴」のみに生息する。

現況・減少要因： 容易に入洞可能な洞窟であり、人為的な環境の変化、破壊が危惧される。

保護対策： 行政、地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる。

文献： 250, 567.



(稲垣政志)

シノダチメクラチビゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Kurasawatrechus ichihashii S. Ueno

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： いなべ市藤原町の石灰洞1か所にのみ生息する。

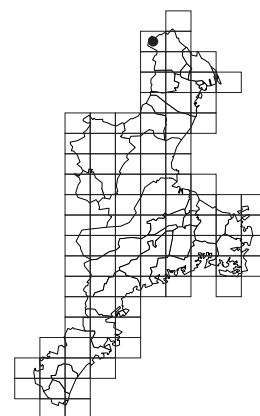
種の概要： 体長 3.1 mm。複眼と後翅は退化し、体色はアメ色に退色する。洞窟の深部に生息する小型種である。

分布： 日本固有種で三重県いなべ市藤原町「篠立の風穴」のみに生息する。この洞窟に生息するスズカメクラチビゴミムシより特化し、小型化してより深部に生息する。

現況・減少要因： 洞窟周辺の開発は現在一時的に止まっているが、洞窟そのものの内部崩壊が始まっており、特に最深部では崩落のために、これまでに比べて半分ほど埋まってしまった。洞窟全体の乾燥化も進んできており、本種の生息には極めて厳しい状況になりつつある。

保護対策： 無断で洞窟内部へ入る人があり、洞窟内部の環境汚染が進んでいる。篠立の風穴は県の天然記念物に指定保護されているが、これからも適切な維持管理が望まれる。

文献： 257, 261, 299, 566.



(稲垣政志)

イグチケブカゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Peronomerus auripilis Bates

選定理由： 近年の減少傾向が著しい。

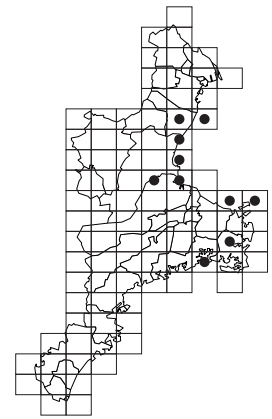
種の概要： 9~9.5 mm. 平地の河川敷や休耕田，水田の畔などの湿地に生息する。夜間に地表を歩行するほか，灯火に飛来する。河川敷湿地に生息することから洪水後の漂着物の中からしばしば発見される。冬季には湿地の朽木中から成虫が発見される。

分布： 北海道，本州，九州，日本固有種。三重県では，四日市市，鈴鹿市，津市，松阪市，伊勢市，鳥羽市，志摩市，南伊勢町で確認されている。

現況・減少要因： 記録は少ないものの，かつては県内の平野部に普通に生息していたものと推定される。近年の記録もあるが，生息地は限定される。水田は農薬散布がなされるうえに，圃場整備によって乾田化が進行した。現在生息している休耕田もそのままでは植物遷移とともに乾燥化が進行し，いずれ本種の生息に適した環境ではなくなる。ダム建設や河川改修によって河川敷の湿地は減少した。

保護対策： 河川改修には十分に配慮をする。生息地周辺水田の農薬散布などにも配慮が必要であろう。

文献： 271, 273, 275, 443, 451, 487, 553.



(秋田勝己)

ナガホラアナヒラタゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Jujiroa elongata S. Ueno

選定理由： 既知の生息地は6，石灰洞にのみ生息する。

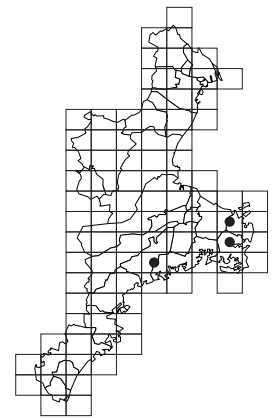
種の概要： 体長11.0~13.0 mm. 複眼は一部退化して小さくなっている。後翅も退化。退色もアメ色に退色している。洞窟性であるが，地下浅層にも生息する。

分布： 日本固有種で南勢地域に分布する。伊勢市，志摩市，大紀町の石灰洞に生息する。*Trechima* 属，*Kurawawatrechus* 属ほど特化しないが，洞窟の入り口に近い所に生息している。

現況・減少要因： 石灰岩の採石などによる開発による環境変化に最も影響を受ける。

保護対策： 行政，地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる。特に石灰岩採掘にあたっては，入念な調査が必要である。

文献： 241, 251, 545, 565.



(稲垣政志)

スズカオオズナガゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Pterostichus akitai Morita

選定理由： 既知の生息地点1，地中性の種で，生息範囲は局限される。

種の概要： 体長17~19 mm. 扁平で，感覚毛が発達，体色が薄く複眼が退化するなど，地中生活に適応した形態を持つ。著しく発達した左右不対称の大顎をもつことから，ガロアムシのようにかなり大型の動物を捕食しているものと推察される。晩秋に新成虫が出現し，成虫ではほぼ1年間生存する。

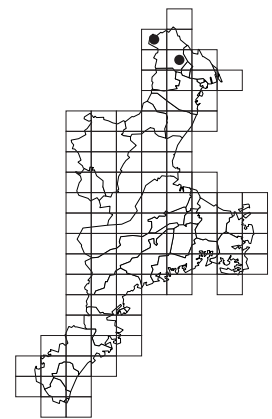
分布： 三重県いなべ市御池岳が唯一の既知生息地。鈴鹿山脈中部の花崗岩地帯がそれ以南への分布障壁となっているものと考えられる。

現況・減少要因： 標高600 m から900 m にかけての落葉広葉樹林。風化した石灰岩が厚く堆積した地下浅層中に生息している。

保護対策： 生息地そのものを消失させる石灰岩の採掘をしない。生息地の乾燥化を招く樹林の伐採をしないことで，生息地の保存ははかられる。

特記事項： 鈴鹿山脈北部の固有種。鈴鹿山脈の生物相の成り立ちを考える上で重要な種である。

文献： 390.



(秋田勝己)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

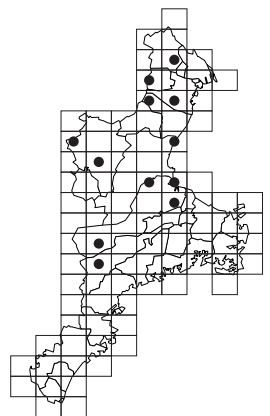
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

キベリマメゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Platambus fimbriatus Sharp

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点が 20 未満。近年減少傾向にある。
種の概要： 体長 6.5~8.0 mm。水質の良い河川の中流に生息する。岸辺近くの礫の間に潜んでいるのを見ることが多い。夜間灯火に飛来することがある。
分布： 北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国に分布。三重県では、いなべ市、菰野町、四日市市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、大台町で確認されている。いずれも伊勢湾流入河川で、熊野灘沿岸や伊賀盆地では未記録である。
現況・減少要因： 津市の雲出川中流域には現在も個体数が多い地点があるが、他では非常に少ないようである。いなべ市、菰野町の記録は 1960 年代以前のものである。河川の改修などがその減少要因であると考えられる。
保護対策： 河川の改修などには十分配慮すべきである。
文献： 264. 272. 281. 371. 444. 455. 489. 544. 573.



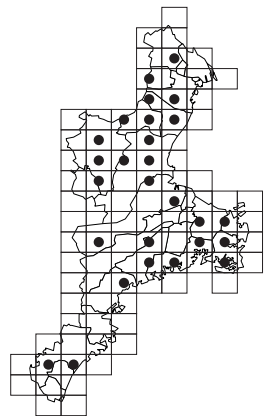
(秋田勝己)

シマゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科
Hydaticus bowringii Clark

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：NT

選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。緩やかな流れの川や池沼、水田などで見られたが、近年は激減している。
種の概要： 体長 12.5~14 mm。体型は卵形で、上翅は黒色に中央と側縁付近に淡黄色の縦筋がある。上翅開合部付近に淡黄色の円紋が 2 点ある。
分布： 北海道、本州、四国、九州、南西諸島。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大紀町、紀北町、熊野市、御浜町で記録されている。
現況・減少要因： 圃場整備や池沼の水質悪化。水田の箱苗剤（箱粒剤）の普及以降は急速に減少している。また生息地にアメリカザリガニなどの外来種の侵入なども脅威である。生息地周辺の灯火でも誘殺されている。
保護対策： 生息地の環境保全を行い、薬剤などの流入を防ぎ、侵略的外来種は駆除を実施する。周辺の灯火なども見直しが必要である。
文献： 215. 256. 270. 272. 273. 438. 440. 443. 444. 451. 535. 538. 540. 541. 544. 555. 557. 570. 573. 575. 579. 581.



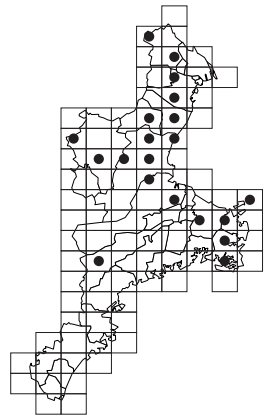
(乙部 宏)

コガムシ コウチュウ目ガムシ科
Hydrochara affinis Sharp

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：—

環境省：DD

選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。かつては普通に見られたが、近年は激減している。全国的にも同様である。
種の概要： 体長 16~18 mm。体型は紡錘形で体色は黒色、脚は赤褐色。平野部から低山地の水田や、緩やかな流れの用水路や、池沼の水位が浅く水生植物が繁茂する止水域に生息し、灯火にも来集する。
分布： 北海道、本州、四国、九州。県内では、いなべ市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市で記録されている。
現況・減少要因： 圃場整備や池沼の護岸工事、農薬や生活污水などによる水質悪化、生息地周辺の灯火設備や水草の減少、外来種などが影響している。特に、育苗箱施用剤の普及に伴い、本種の急激な減少が始まったと考えられる。
保護対策： 生息地の環境保全を行い、生活污水や薬剤などの流入を防ぎ、侵略的外来種は駆除する。
文献： 216. 225. 260. 272. 274. 443. 444. 451. 455. 570. 574.



(乙部 宏)

ガムシ

コウチュウ目ガムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Hydrophilus acuminatus Montschulsky

選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。緩やかな流れの川や池沼、水田などで見られたが、近年では減少している。

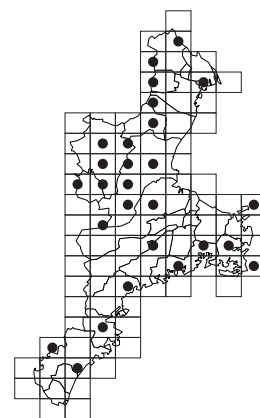
種の概要： 体長 33~40 mm。体型は紡錘形で体色は黒色。日本最大のガムシ類であり灯火にもよく集まる。幼虫はモノアライガイなどを捕食する肉食であるが、成虫は藻や水草を食する。

分布： 本州、四国、九州、南西諸島。県内ではいなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、大台町、紀北町、尾鷲市、御浜町で記録されている。

現況・減少要因： 圃場整備や池沼の護岸工事、農業や生活污水などによる水質悪化。また生息地でのアメリカザリガニなどの外来種の侵入なども脅威である。

保護対策： 生息地の環境保全を行い、薬剤などの流入を防ぎ、侵略的外来種は駆除を実施する。また、放棄水田などはビオトープして活用できれば水生生物全体にも有益になる。

文献： 204. 256. 262. 263. 272. 273. 282. 309. 438. 440. 442. 443. 444. 451. 455. 487. 527. 535. 538. 540. 541. 542. 554. 555. 557. 570. 573.



(乙部 宏)

コガタガムシ

コウチュウ目ガムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Hydrophilus bilineatus cashimirensis Redtenbacher

選定理由： 既知の生息点数は 100 地点以下。緩やかな流れの川や池沼などで見られたが、近年では減少している。

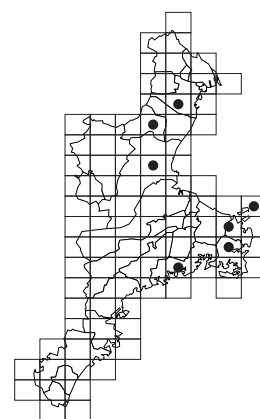
種の概要： 体長 23~28 mm。体型は紡錘形で体色は黒色。ガムシより一回り小さく、後基節突起が長い。緩やかな流れの用水路や池沼の水位が浅く水生植物が繁茂する止水域に生息し、灯火にも飛来する。

分布： 本州、四国、九州、琉球。県内では鈴鹿市、亀山市、津市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町で記録されているが、ガムシよりも生息地は限られている。

現況・減少要因： 圃場整備や池沼の護岸工事、農業や生活污水などによる水質悪化、生息地周辺の灯火設備や水草の減少などが影響している。

保護対策： 生息地の環境保全を行い、生活污水や薬剤などの流入を防ぎ、侵略的外来種は駆除する。

文献： 274. 281. 282. 443. 444. 451.



(乙部 宏)

アイヌコブスジコガネ

コウチュウ目コブスジコガネ目シ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Trox (Trox) setifer setifer Waterhouse

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下である。本種は自然度の高い湿潤な森林環境が生息域であり、全国的にも分布が限られている。

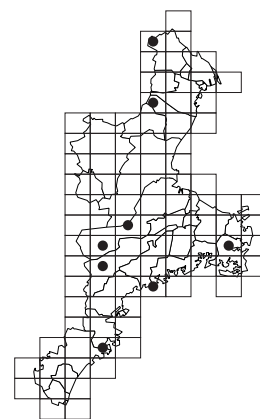
種の概要： 体長 10.5~12.0 mm。コブスジコガネ属の中では大型種であり、動物遺体の最終分解者として、野生鳥獣の羽、毛、皮、骨などを食べる。

分布： 北海道、本州、九州。県内ではいなべ市藤原町、亀山市、津市美杉町、大紀町、松阪市、大台町宮川、尾鷲市、熊野市から記録されるが、いずれも少数である。

現況・減少要因： 近年のニホンジカの個体数の増加に伴って、本種は一時的に個体数が増加傾向にある。ただしこれは一時的な現象と考えられ、本来は非常に生息数が少なく稀な種である。

保護対策： 生息地域の環境保全。ニホンジカの個体数の適正な調整が必要。

文献： 286. 288. 330. 439. 445. 502.



(稲垣政志)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

キンキコルリクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Platycerus takakuwai akitai Fujita

旧県：—

選定理由： 分布は広いが山地に限られ、局地的である。ニホンジカの食害等による減少が懸念される。

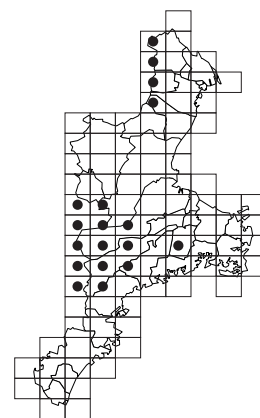
種の概要： 体長 8~12 mm. 関東地方南部、中部地方、近畿地方、四国の一部に分布するトウカイコルリクワガタの亜種で、亜種の分布域は北陸地方、近畿地方と四国の限られた地域である。主としてブナ林等の冷温帯広葉樹林に生息する。

分布： 県内では鈴鹿山脈、台高山脈等の山岳地帯に局地的に分布する。キンキコルリクワガタはミトコンドリア遺伝子が多様化しており、鈴鹿山脈に分布するものは北陸地方と共通のタイプ、台高山脈に分布するものは近畿地方の大半にみられるタイプに属する。

現況・減少要因： 幼虫は主として地表に存在する細く柔らかい広葉樹の腐朽材（白色腐朽、軟腐朽）に穿孔している。ニホンジカの食害によって地表が乾燥し、好適な条件の腐朽材が減少している上に、踏みつけによる破壊もおこっている。

保護対策： 冷温帯落葉広葉樹林の保全が必須である。

文献： 354.



(久保田耕平)

オニクワガタ

コウチュウ目クワガタムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Prismognathus angularis Waterhouse

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下。鈴鹿山系と台高山系の限られた地域に生息し、個体数も少なく、生息環境の軽微な変化で絶滅してしまうおそれがある。

種の概要： 体長 14~19 mm. 標高 600 m 以上のブナ帯で見られる。幼虫はブナなどの倒木の朽ちた部分を食すため、生息環境条件は限られる。

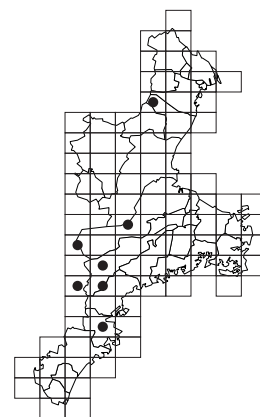
分布： 国内では北海道、本州、四国、九州、屋久島。国外ではサハリン。県内では亀山市、津市美杉町、松阪市飯高町、大台町宮川、尾鷲市。

現況・減少要因： 特に鈴鹿山系では本種の生息できる環境は極めて限定されている。本種は自然度の高いブナ林の多湿の環境でしか生息できないため、自然林の伐採によるブナ林の減少と林内のニホンジカの食害などによる乾燥化が減少要因と考えられる。

保護対策： 本種の生息する自然林の保全が急務である。

特記事項： 九州産は亜種キュウシュウオニクワガタ ssp. *morimotoi*、屋久島産は亜種ヤクシマオニクワガタ ssp. *tokui* とされている。

文献： 187, 209, 574.



(乙部 宏)

マルツヤマガソコガネ

コウチュウ目コガネムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Apodius (Sinodipterna) troitzkyi Jacobson

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下である。全国的にも局地的に分布し、いずれの生息地でも個体数は少ない。

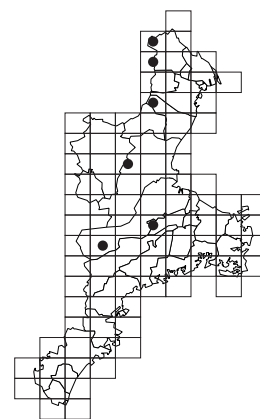
種の概要： 体長 4.0~5.7mm. 林内の鹿糞で見つかることが多い。オープンランドの放牧地でもしばしば得られる。広域分布種であるが、産地は局所的。春から初夏にかけて個体数を増す。

分布： 北海道、本州、四国、九州。国外ではサハリン、台湾、朝鮮半島、中国、シベリア(東部)。県内では鈴鹿山系、布引山系、櫛田川上流、大台町迷岳で記録されているが、いずれも少数である。

現況・減少要因： ニホンジカの頭数は増加しているが、本種はそれほど増加していない。

保護対策： 本種の生息する自然林の保護が必要である。

文献： 287, 291, 330, 412, 507, 561.



(稲垣政志)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

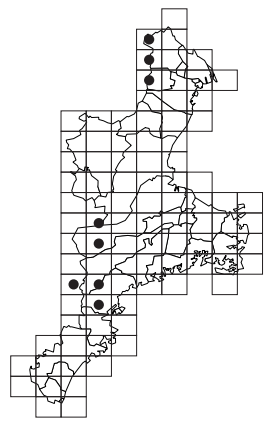
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオダイセマダラコガネ コウチュウ目コガネムシ科
Exomala ohdaiensis (Ssawada)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点 10 以下。新種基産地の大台ヶ原山を中心に数か所の限られた地域で記録がある。生息個体数自体も少ない。
種の概要： 体長 9.5~13.5 mm. 上翅の中央斜めに太く明瞭な黒い帯状紋がある。側縁隆起は後角に届かない。小楯板は黒色である。
分布： 日本固有種で本州、四国、九州に分布する。県内では鈴鹿山脈、津市美杉町、松阪市飯高町、大台町大杉谷、大台ヶ原山、大紀町、尾鷲市周辺から記録されているが、御在所岳を除き、生息数は極めて少ない。
現況・減少要因： 御在所岳 (1,212 m) では海拔 600 m 付近から山上にかけて、7 月中旬から 8 月上旬に発生し、リョウブの花に集まる。発生は毎年不安定であり、多くない。
保護対策： 御在所岳とその周辺の開発がこれ以上進められないこと。また、野生のニホンジカが年々増加し、これによるリョウブを中心に樹木の食害が目立つので、ニホンジカの個体数調節が必要である。
文献： 242, 263, 370, 573.



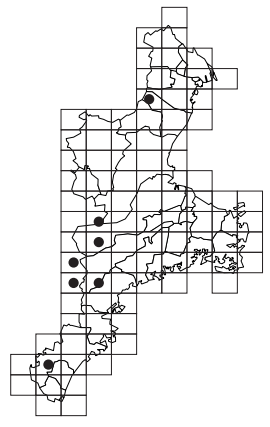
(稲垣政志)

ジュウシチホシハナムグリ コウチュウ目コガネムシ科
Paratrichius septemdecimguttatus (Snellen van Vollenhoven)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

選定理由： 既知の生息地点数は 10 以下であり、自然度の高い森林を好み、近畿、東海地方では特に限られた地域に分布。県内の個体密度はいずれも低い。
種の概要： 体長 10~14 mm. ハナムグリ類の中では小型種である。成虫は日中の高温時に活発に飛翔する。初夏、山間部の各種の花に集まる個体が観察されている。
分布： 本州、四国、九州、屋久島。国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では、鈴鹿市、津市、松阪市、大台町、熊野市で記録されている。
現況・減少要因： 中勢地方ではブナ帯、南勢地方では常緑広葉樹の自然林のみられる。これらの自然林の伐採による森林の減少と森林内のニホンジカの食害による乾燥化が減少要因と考えられる。
保護対策： 生息地の詳細な調査と生息環境の保全。
文献： 194, 209, 372, 454, 489, 517, 541, 574.



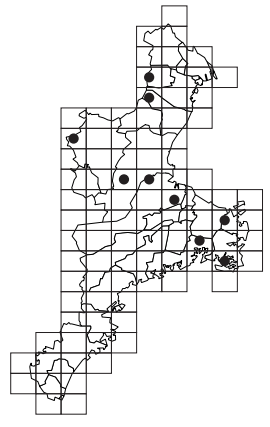
(乙部 宏)

アカマダラコガネ (アカマダラハナムグリ) コウチュウ目コガネムシ科
Poecilophilides rusticola (Burmeister)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：DD

選定理由： 生息地が局限され、個体数も少ない。近年の減少が著しい。
種の概要： 体長 14~20 mm. 低山地や丘陵地の雑木林に生息する。晩夏に新成虫が出現し、翌夏まで生存する。成虫はクヌギなどの樹液に集集する。幼虫はワシタカ類など大型鳥類の巣から発見され、食べ残しの昆虫などの死骸やペリット、古くなった巣材を食べているらしい。
分布： 本州、四国、九州。濟州島、朝鮮半島、シベリア東部、中国、モンゴル。県内では菰野町、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市などで確認されている。
現況・減少要因： 1980 年代以前の記録が多く、最近の確認例は少ない。本種の減少は、良好な里山の荒廃、狭小化とそれに伴う鳥類の生息数の減少が深く関与しているはずである。
保護対策： ワシタカ類をはじめとする多くの鳥類が生息できる里山を保全することである。また、成虫が集集するクヌギの多い雑木林の維持管理も必要であろう。
文献： 312, 363, 377, 446, 482, 483.

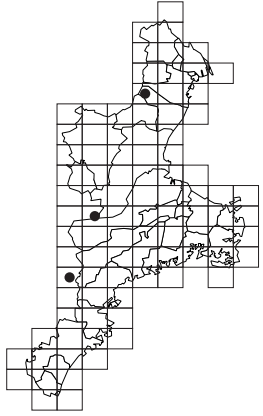


(秋田勝己)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマオオハナムグリ コウチュウ目コガネムシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Protaetia lugubris insperata (Lewis) 旧県：準絶滅危惧 (NT)

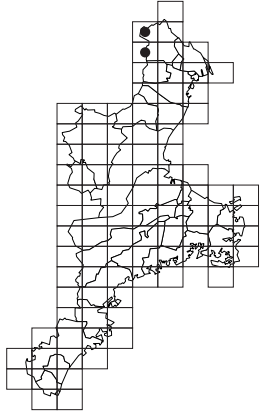
選定理由： 既知の生息地点 5 以下。生息地が局限され、個体数も少ない。
種の概要： 体長 19~23 mm。落葉広葉樹林に生息する。晩夏に新成虫が出現し、翌夏まで生存する。成虫はミズナラなどの樹液やリョウブ、ノリウツギなどの花に來集する。幼虫はミズナラ、ブナ、イタヤカエデなどの樹洞底部に堆積した腐植土を食する。
分布： 北海道、本州、四国、九州、サハリン。県内では鈴鹿山脈（亀山市）、紀伊山地（津市、大台町）で確認されている。
現況・減少要因： 本種の生息には、樹洞をもつ大木を多く含む自然度の高い落葉広葉樹林が必要不可欠である。しかし、過去の伐採によりそのような森林はわずかしか残されていない。また、近年ニホンジカの食害により森林が乾燥しつつあることも本種の生息には脅威となっている。
保護対策： ニホンジカの個体数管理を含む落葉広葉樹林の保全。
文献： 194, 198, 283, 290.



(秋田勝己)

オオヒラチャイロコガネ コウチュウ目コガネムシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Sericania ohirai Sawada 旧県：準絶滅危惧 (NT)

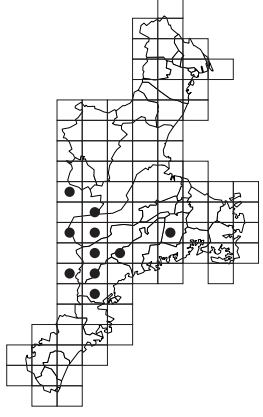
選定理由： 既知の生息地点 5 以下。生息地が局限され、個体数も少ない。
種の概要： 体長 9~12 mm。落葉広葉樹林に生息する。成虫は 5~6 月に出現。夜行性で、昼間は樹幹に生えたコケの中などから発見される。
分布： 本州。三重県ではいなべ市藤原町の藤原岳、御池岳など鈴鹿山脈北部のみで確認されている。
現況・減少要因： 自然度の高い落葉広葉樹林に生息する種であることから、森林伐採などは本種の生存にとって大きな脅威である。
保護対策： 生息地である落葉広葉樹林を伐採しないことである。
特記事項： 藤原岳をタイプロカリティーとして、フジワラチャイロコガネ *S. akitai* H. Hirasawa の名で記載されたが、濃尾平野を挟んで東に分布するオオヒラチャイロコガネ *S. ohirai* Sawada と同種であるとされた。
文献： 194, 226, 348, 549.



(秋田勝己)

セダカテントウダマシ コウチュウ目テントウダマシ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Bolbomorphus gibbosus Gorham 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 紀伊半島特産種で、既知の生息地点数は 20 以下である。
種の概要： 体長 7.0~9.0 mm。黒褐色で上翅に 4 個のオレンジ色の紋があり、体は丸く背面が大きく盛り上がっている。後翅は退化しており、飛ぶことができない。動作は緩慢で、驚かすと臭い黄色の液を出して威嚇する。
分布： 紀伊半島固有種。県内では名張市赤目、南伊勢町獅子ヶ岳、津市美杉町平倉演習林、松阪市国見山、蓮、青田、明神平、宮ノ谷、局ヶ岳、大紀町南赤山、大台町総門山、父ヶ谷、大台辻、大台ヶ原、迷岳、大杉谷、尾鷲市古和谷で記録されている。
現況・減少要因： 最近の調査では台高山脈以外でも生息地が確認されているが、いずれの生息地も自然度の高い広葉樹林である。
保護対策： 少なくとも既生息地の自然環境の保全が必要である。特に自然林の伐採、スギ・ヒノキの植林化等による生息域の減少が危惧される。
文献： 186, 211, 217, 220, 264, 283, 402, 411, 425, 426, 430, 448, 453, 489, 539, 574, 576, 578.



(生川展行)

ジュウクホシテントウ

コウチュウ目テントウムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Anisosticta kobensis Lewis

旧県：準絶滅危惧 (NT)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

選定理由： 自然度の高い湿地や河口，海岸の砂浜に生息しており，既知の生息地点数は20以下である。

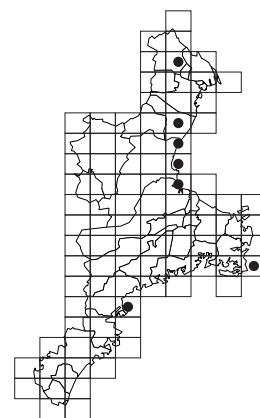
種の概要： 体長3.8~4.1 mm. 背面は淡黄色で，頭部に1対，前胸背に3対，上翅に19個の黒点がある。

分布： 北海道，本州，四国，九州. 国外では朝鮮半島，中国（北部），ウスリー. 県内では，いなべ市大安町両ヶ池，四日市市曾井町，鈴鹿市野町祇川池，鼓ヶ浦海岸，津市阿漕浦，河芸町田中川干潟，松阪市松名瀬海岸，櫛田川河口，志摩市大王町畦名，紀北町海山区相賀，船津，船津元谷川河口で記録されている。

現況・減少要因： 湿地や河口，海岸の砂浜の埋め立て，護岸整備などにより，生息地が減少している。

保護対策： 湿地や河口，海岸の砂浜の自然環境の保全が必要である。

文献： 255. 259. 274. 340. 431. 443. 864.



(生川展行)

オオマルチビゴミムシダマシ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Caedius maderi maderi Kaszab

旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は20以下である。

種の概要： 体長4.5~6.0 mm. 体は光沢のない黒色で，海岸の砂浜に生息している。

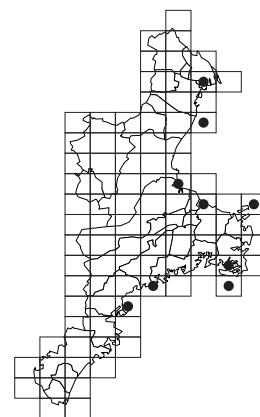
昼間は海浜性植物の根際などの砂の中に潜っており，夜間活動する。

分布： 本州，四国，九州，三宅島. 国外ではカンボジアに分布. 県内では川越町高松海岸，四日市市吉崎海岸，松阪市櫛田川河口，松名瀬海岸，伊勢市大湊海岸，鳥羽市神島，志摩市浜島町塩屋浜海岸，志摩町御座，大野浜，黒の浜，広の浜，和具大島，南伊勢町古和浦座佐池，大紀町芦浜，紀北町大島で記録されている。

現況・減少要因： 以前は県内の砂浜海岸に広く分布していたと考えられるが，海岸の護岸整備や埋め立てなどにより，生息範囲が減少してきている。既知生息地点の海岸の砂浜は大きな環境の変化はない。

保護対策： 少なくとも既地点の海岸の砂浜の保全が必要である。

文献： 194. 253. 270. 271. 274. 410. 431. 451. 490. 862. 865.



(生川展行)

ハネナシセスジキマワリ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Strongylium marseuli marseuli Lewis

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 紀伊半島では，和歌山県と三重県南部の熊野灘沿岸地域で記録されているだけで，既知の生息地点数も10以下である。

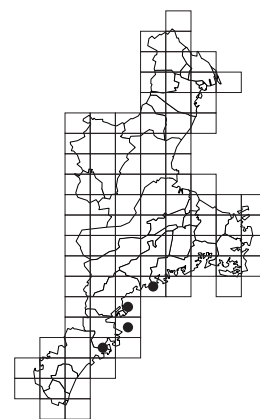
種の概要： 体長10~12 mm. 体は黒褐色で上翅間室は隆起する。照葉樹の自然林に生息しており，夜間活動する。後翅は退化して飛ぶことはできない。

分布： 本州，四国，九州，対馬，五島列島，大隅黒島，種子島，屋久島に分布. 県内では南伊勢町古和浦，大紀町錦向井，錦塩浜，紀北町紀伊長島区豊浦神社，尾鷲市九木崎，九木神社，熊野市楯ヶ崎で記録されている。

現況・減少要因： 紀伊長島町豊浦神社，尾鷲市九木神社は神社林として保全されている。熊野灘沿岸に広く分布していたと考えられるが，照葉樹の自然林の減少と共に生息域が減少してきた。

保護対策： 熊野灘沿岸の照葉樹林の保全が必要である。

文献： 270. 416. 441. 447. 451.



(生川展行)

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ヘリハネムシ

コウチュウ目アカハネムシ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Ischalia patagiata Lewis

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息密度が低く、既知の生息地点数は10地点以下である。

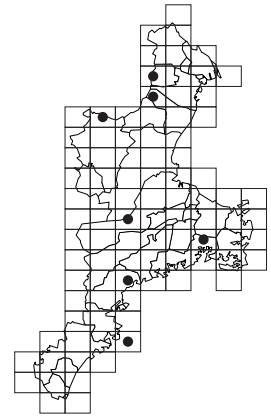
種の概要： 体長3.8~6.5 mm。夏期に林床のササや下草にとまっている個体が得られることが多い。

分布： 本州、四国、九州に分布。県内では、菰野町八風溪谷、湯の山、亀山市野登山、伊賀市湯舟、津市美杉町平倉、伊勢市五十鈴川、紀北町紀伊長島区名古屋浜、尾鷲市三木崎で記録されている。

現況・減少要因： 生息密度が低く、詳細な生態も判明していないため、県内のいずれの生息地も、継続的に生息が確認されていないが、近年は特にニホンジカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている。

保護対策： 少なくとも既生息地の自然環境の保全が必要である。

文献： 194. 322. 489. 525. 555. 582.



(生川展行)

クロオビホソアリモドキ

コウチュウ目アリモドキ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Anthicus protensus Marseul

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 海浜性の種で全国的に記録は少なく、既知の生息地点数は10以下である。

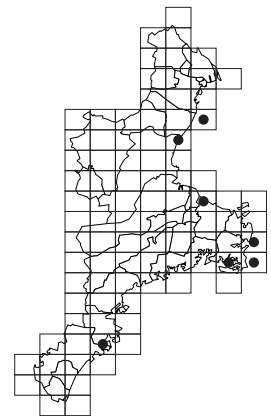
種の概要： 体長3.0~3.7 mm。体は赤褐色で上翅の肩部と中央部、翅端部には黒褐色の紋がある。

分布： 本州・四国・九州に分布。県内では四日市市楠町吉崎海岸、鈴鹿市磯山海岸、伊勢市東豊浜海岸、鳥羽市相差町、志摩市阿児町国府白浜、志摩市志摩町黒の浜、熊野市楯ヶ崎で記録されている。

現況・減少要因： 県内のいずれの生息地も大きな自然環境の変化はないが、全国的に個体数の少ない種であるため、環境の変化で減少あるいは絶滅する可能性がある。

保護対策： 砂浜海岸の自然環境の保全が必要である。

文献： 418. 421. 441. 451. 456. 490.



(生川展行)

クロスジイッカク

コウチュウ目アリモドキ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Notoxus haagi haagi Marseul

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息密度が低く、既知の生息地点数は10以下である。

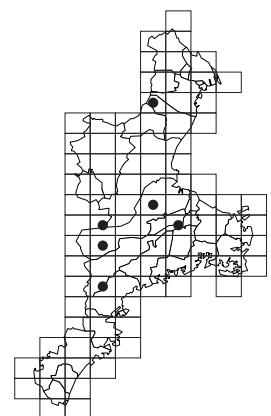
種の概要： 体長4.7~6.0 mm。体は赤褐色で、各上翅の側方には肩部から翅端上部まで伸びる黒褐色の紋があり、前胸背には前方に伸びる大きな突起がある。河川の上流から中流域の河原に生息している。

分布： 本州・四国に分布。県内では四日市市宮妻峽、津市美杉町太郎生、三重大学平倉演習林、松阪市飯高町蓮、度会町鮎川、大台町大杉谷で記録されており、松阪市庄町櫛田川でも確認された。

現況・減少要因： 既生息地での個体数は少ないため、河川上流から中流部の大規模な河川改修により、減少や絶滅する可能性がある。

保護対策： 河川改修には多自然型工法を導入するなどの注意をする必要がある。

文献： 372. 413. 432. 438. 440. 866.



(生川展行)

タケウチヒゲナガコバネカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Glaphyra takeuchii takeuchii (Ohbayashi)

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知生息地が10未満。生息基盤が弱い。

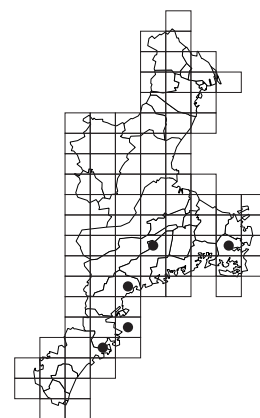
種の概要： 体長6.5~9.5mm。よく発達した照葉樹林に生息する。成虫は4~5月に出現し、シイなどを訪花する。幼虫はミミズバイやハイノキの枯れ枝の樹皮および辺材部を食べる。秋に成虫となり、そのまま越冬、春に出現する。

分布： 本州（静岡県以西）、四国、九州、対馬、甌島列島、種子島、屋久島、口永良部島、奄美諸島、沖縄島には別亜種が分布する。本州の記録はごくわずかである。三重県では、志摩市、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市から記録されている。

現況・減少要因： 自然度の高い照葉樹林に限って生息することから、過去の森林伐採によってその生息地の多くは消失したと思われる。現在生息しているのはある程度大きな面積を持つ社寺林などである。

保護対策： 生息地の森林を伐採しないことである。

文献： 194, 408, 441, 451.



(秋田勝己)

クビアカモブトホソカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Kururua rhopalophoroides Hayashi

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息点数は5地点以下。全国的に産地も限られている。県内では照葉樹林帯に極限されている。

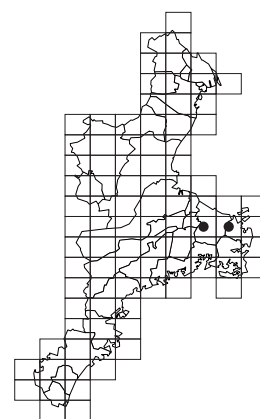
種の概要： 体長8~11mm。体型は細長く前胸部は橙赤色、上翅は灰色の微毛に覆われる。成虫は4~6月にかけてカマツカやシイなどの各種の花に集まり、幼虫はクロガネモチ、ソヨゴなどの枯れ枝に食入する。

分布： 本州（静岡県以西）、四国、九州。県内では伊勢市、鳥羽市、志摩市で確認されている。

現況・減少要因： 生息地の一部は開発などで環境悪化している。

保護対策： 生息地の照葉樹林を伐採しないことである。

文献： 451, 474, 528.



(乙部 宏)

イチハシシギゾウムシ コウチュウ目ゾウムシ科
Curculio ichihashii Morimoto

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 県内6か所から記録されており、毎年の発生状態が不安定である。

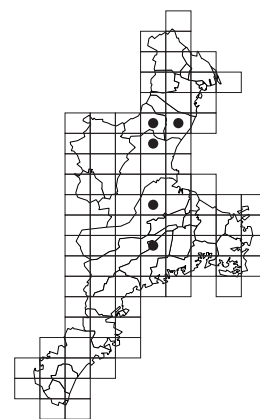
種の概要： 体長2.3mm。吻は円筒形で少し曲がり、前胸背に1対の白色条がある。前脛節端は外方へ広がらない。上翅中央に白色帯がある。

分布： 本州（三重県、和歌山県、広島県）に分布する。県内では鈴鹿市石薬師町・国府町・河田町・国分町・高塚町・長澤町・三宅町・安塚町・山本町、亀山市安坂山町・田村町・布気町、松阪市小阿坂町、大紀町から記録されている。

現況・減少要因： いずれも神社の社叢林から採集されており、毎年の発生数が極めて不安定である。主にサカキから採集されているが、生態は不明である。鈴鹿市の神社の社叢林に広く生息していることが確認されたが、鈴鹿市長沢町の生息地では、台風の影響で樹木が倒れ、その後広く伐採されて、個体数が激減した。

保護対策： 社叢林の保全管理が望まれる。

文献： 267, 386, 443, 444.



(官能健次・市橋 甫)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

タマサルゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科

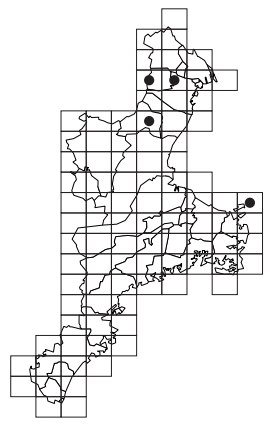
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Orobitis apicalis Kono

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 菰野町における 1956 年の記録以降、4 地域で記録されたのみである。
種の概要： 体長 2.1~2.3 mm. 体型は球形。背面は黒色で光沢がある。会合線は灰白色の鱗片に、体下面は密に灰色鱗片で覆われる。
分布： 本州、北海道、千島に分布する。県内では菰野町、四日市市小牧町、亀山市田村町、鳥羽市神島から記録される。
現況・減少要因： 田村町、神島では 4~5 月にタチツボスミレの花を餌としている。タチツボスミレの生育環境は改変を受けやすいが、田村町、神島は現在のところ比較的環境が保持されている。
保護対策： タチツボスミレの分布調査と、本種の再調査が必要である。
特記事項： 本州産の種が北海道、千島の種とは別の種に独立し、現在新しい独立種として研究中である。
文献： 266. 573.



(官能健次)

クマノヒゲボソゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科

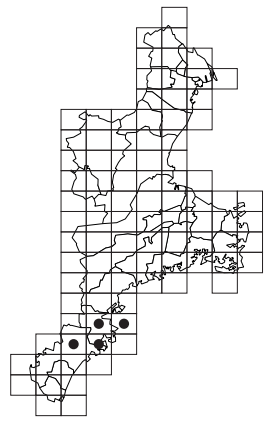
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Phyllobius kumanoensis Morimoto et Miyakawa

旧県：—

選定理由： 尾鷲市から旧熊野市にかけての地域だけに分布する固有種である。
種の概要： 体長 8.1~9.2 mm. 吻は短く、複眼は球状に隆起し、頭部は複眼後方で一様に隆起する。腿節の歯状突起は大きく、三角状。背面は緑色鱗片に被われる。
分布： 紀伊半島で多様化し、5 種に種分化した中の 1 種である。生息地は尾鷲市から熊野市にかけての地域で、5 種の中で最も狭い地域に分布している。尾鷲市松本・九鬼町九木崎・早田町ナサ崎・矢ノ川峠、熊野市二木島里町・飛鳥町大又から記録されている。
現況・減少要因： 2006 年に記載された種である。生息地は狭い範囲で点在し、分断傾向が顕著である。北部にイセヒゲボソゾウムシ、南部にマルムネヒゲボソゾウムシと分布を接している。
保護対策： 現状の自然環境を保全するとともに、分布境界では交雑の可能性が高く継続した調査が必要である。
特記事項： 尾鷲市産の個体群と熊野市側の個体群は形体から区別することができる。さらに、イセヒゲボソゾウムシとの分布境界付近に新種が生息することが発見された。近々、記載される予定である。
文献： 387.



(官能健次)

リュイスヒゲボソゾウムシ

コウチュウ目ゾウムシ科

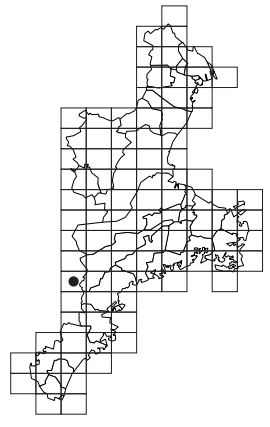
三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Phyllobius lewisi (Sharp)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 県内から 1 か所の記録があるのみである。
種の概要： 体長 5.8~6.4 mm. 雄の吻の先端に 1 対の角状突起をもつ。前腿節に大きな歯状突起をもち、前脛節は扁平で二湾状。背面は緑色鱗片に被われるが、脱落しやすい。成虫はシャクナゲ・ヤマツツジ・アセビなどの新葉を加害する。
分布： 紀伊半島固有種で、三重県、奈良県、和歌山県から記録されている。県内からは大台町宮川ひろくり谷で記録されている。他地域からの標本も検しているが、1896 年に記載されたタイプ標本写真と比べると、大台ヶ原・ひろくり谷産の標本がよく合致する。
現況・減少要因： 大台ヶ原周辺は、ニホンジカによる食害で環境が大きく変化しており、本種の生息環境に影響を及ぼしていると思われる。
保護対策： ニホンジカによる食害の防止による、自然林の保護が必要である。継続的な生息調査が必要である。
文献： 246.



(官能健次)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

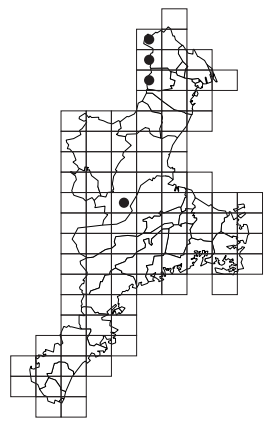
イワタシギクサアブ
Dialysis iwatai Nagatomi

ハエ目クサアブ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点は5以下。自然度の高い森林にのみ見られる。
種の概要： 体長は雄9.5~12 mm, 雌10~14 mm。黒色。触角は黄色。翅は暗色にくもり、脈とその周辺は黒褐色。地域的に大きな変異がみられる。成虫は、県内では6月下旬から7月に得られている。雄は早朝に群飛する。灯火にも飛来する。
分布： 本州（東京都、埼玉県、神奈川県、三重県、京都府、兵庫県）、四国から記録されている。県内ではいなべ市の藤原町・大安町石樽峠、菰野町県民の森、津市美杉町上多気で採集されている。
現況・減少要因： 全国的に記録は少なく、県内では4地点から10頭ほどが確認できているに過ぎず、近年は2地点から3頭の記録のみ。自然度の高い森林の減少。
保護対策： 自然度の高い森林の保全。
文献： 595. 620.



(大石久志・篠木善重)

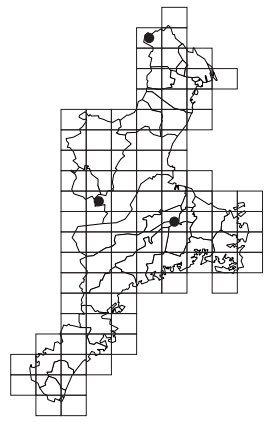
フトヒゲナガキアブモドキ
Solva procera (Frey)

ハエ目キアブモドキ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地点数は3で、これまでに3標本が得られているだけである。
種の概要： 体長13 mm内外。黒色。触角は黒色で、頭長の約4.5倍。腹部第1背板の膜質部は大きい。肢の基節は暗褐色。翅の第2基室の末方部の中央節は明瞭、つまりM3・M4脈は接合しない。コマルハナバチの巣から幼虫が得られたことがある。4~6月に出現。
分布： 本州（神奈川県、三重県、和歌山県、大阪府、京都府、兵庫県、山口県）、四国（徳島県、高知県、愛媛県）、九州（熊本県、宮崎県）。県内ではいなべ市藤原町、津市美杉町大洞山、度会町長原口池で採集されている。
現況・減少要因： 少ない種で、減少しつつあるらしく、調査を要する。
保護対策： 自然度の高い森林の保全。
文献： 595. 620.



(大石久志・篠木善重)

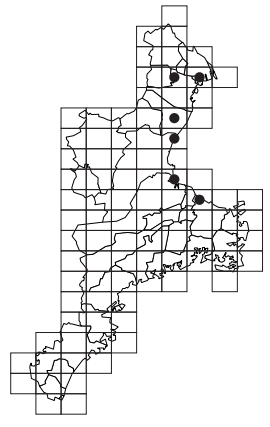
コガタミズアブ
Odontomyia garatas Walker

ハエ目ミズアブ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省：—

選定理由： 既知生息地点数は10以下。水田や湿地に固有の種で、環境指標性がある。全国的に個体数が著しく減少しており、県内でも局所的である。
種の概要： 中型種で、体は太く、やや扁平で黒色。胸部は光沢があり、側縁は黄色。腹部には、前縁が波打った顕著な斑紋があり、生時は青色の幻色を呈し、死後は黄色に変化する。翅は透明。幼虫はおそらく肉食で水性、尾端を水面に出して呼吸する。年1化、初夏のころ出現する。
分布： 日本全土。国外では中国大陸、台湾に分布。県内では川越町、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町から合わせて12頭の記録がある。
現況・減少要因： かつては水田に普通にみられたというが、全く姿を消し、現在は河川・湿地などで自然度の高い環境に局所的に分布している。おそらく水田への薬剤散布が最も大きな影響を与えたと推測される。あるいは排水等による水質の変化も影響を与えているかもしれない。
保護対策： 幼虫の生息環境の保全が最も重要。こうした環境は最も開発の影響を受けやすく、保全のための施策が必要である。
文献： 597. 605. 616. 620. 623.

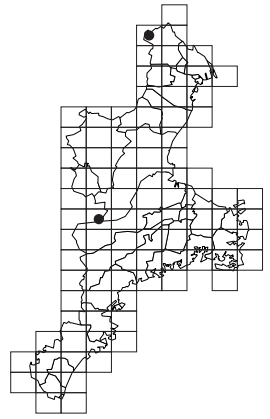


(大石久志・篠木善重)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ツノヒゲシギアブ *Arthroceras japonicum* Nagatomi
ハエ目シギアブ科
三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)
環境省：—

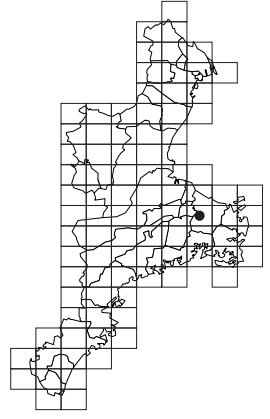
選定理由： 生息地点数は2で、雌2匹の記録のみ。生息地は局地的で、個体数も少ない。
種の概要： 体長は雄10~11 mm、雌10~14.5 mm。雌はより大型で、黒色味が強い。雌雄で大きく印象が異なる。雌雄ともに触角は短く、先端に向かって尖り、翅は褐色に曇る。雄の腹部基部は広く黄色。成虫は山地の溪流に見られ、林縁や林内の葉上に静止しているのが時折見出される。幼虫はおそらく水棲。成虫は5~6月に見られる。シギアブとしては、例外的な触角の形態で同定しやすい。
分布： 本州、四国、九州。県内ではいなべ市藤原町と津市美杉町から記録されている。
現況・減少要因： 溪流の劣化。
保護対策： 周囲の森林を含めた溪流の保全。
文献： 620.



(大石久志・篠木善重)

シギアブの一種 *Chrysopilus shibuyai* Nagatomi
ハエ目シギアブ科
三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—

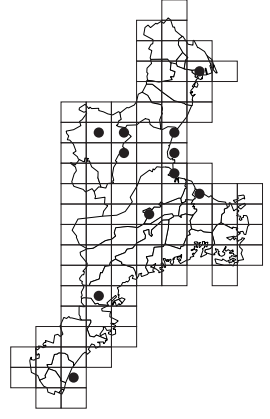
選定理由： 既知の生息地点は1か所である。自然度の高い環境にのみ生息している。
種の概要： 体長4~6 mmの小型種。体形はやや細長く、後方に向かって狭まる。体は黒色で灰色の微粉に覆われ、金色の毛を装う。翅は黒く、黒色がかかる。河岸の草地に見られるキョウトシギアブに酷似するが、この種は森林性。幼虫は水性と思われる。なお、屋久島の個体群と三重の個体群ではやや差異が認められ、分類は再検討が必要である。年1化、4~5月にかけて出現する。
分布： 日本固有種で、沖縄、屋久島、本州(三重県)に分布。いなべ市北勢町の記録は取り消されたので、県内では伊勢市外宮の記録のみ。
現況・減少要因： 生息地が1か所しか確認できておらず、分布域が低標高地に位置するところから、開発によって姿を消し、自然度の高い環境にわずかに残存していると考えられる。
保護対策： 生態等不明な点が多いので、詳細な調査が必要。特に幼虫の生態の調査によって生息域が明らかにされなければならない。
文献： 600. 620.



(大石久志・篠木善重)

トラフムシヒキ *Astochia virgatipes* Coquillett
ハエ目ムシヒキアブ科
三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—

選定理由： 自然度の高い海浜や、ときに広い河川の草地などに生息し、生息域が限定されているため減少の傾向が見られる。
種の概要： 体長19~28 mmほどの中型種。黒色で、胸部には黄白色の斑紋があり、腹部は黄色の長毛を密生し、各節の後縁には黄色粉を装う。成虫・幼虫ともに捕食性。シオヤアブに似るが翅脈によって区別できる。
分布： 本州、四国、九州。国外ではサハリン、モンゴル、台湾に分布。県内では高松海岸、豊津浦、松名瀬海岸、七里御浜など海浜からの記録のほか、伊賀市霊山、津市青山高原など山間部からの記録もある。
現況・減少要因： 生息域は、防波堤や道路の建設によって最も破壊されやすい所にある。高松海岸の生息環境は2014年に大きく壊され、町屋浦の生息環境は防波堤建設と生態系を無視したマツ植樹によって危機的状況にある。
保護対策： 生息域を保全する。ムシヒキアブは高密度で生息することができないので、生息域の縮小や減少は脅威となる。
文献： 594. 610. 613. 618. 620. 622.



(大石久志・篠木善重)

ハマベコムシヒキ

ハエ目ムシヒキアブ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Stichopogon infuscatus Bezzi

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下であり、自然度の高い砂浜にみられる。

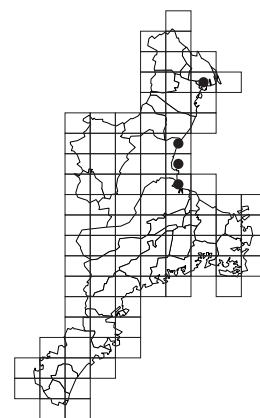
種の概要： 極めて小型の種。身体は灰白色で、黒色の斑紋がある。成虫は捕食性で、幼虫も同様と考えられる。海浜の砂地に固有であり、自然状態を残した海岸に広く分布している。

分布： 国外では台湾、日本では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では川越町、鈴鹿市、津市、松阪市の伊勢湾沿岸から記録されている。

現況・減少要因： 近年の海岸堤防工事や道路建設工事により数か所の生息地が壊滅的影響を受けている。また、生態系を無視した砂浜での清掃活動やマツなどの植樹活動が本種の生息環境を脅かしている。

保護対策： 砂浜環境の維持に留意する必要がある。

文献： 601, 605, 619, 620.



(大石久志・篠木善重)

ルリハナアブ

ハエ目ハナアブ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Kertesziomyia viridis (Coquillett)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： かつては水田の周囲などで普通にみられた種であるが、全国的に著しく減少している。

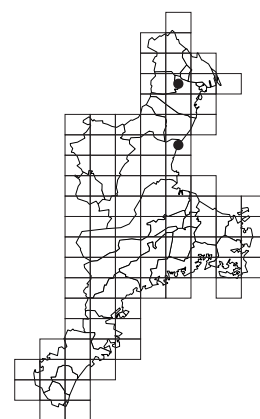
種の概要： 体長6~12 mmの中型種で、体は太く、黒色。腹部には金緑色の斑紋があって美麗。翅は透明。幼虫は水性で、腐食物を食すると思われる。年1化。春から夏に出現。

分布： 本州、四国、九州。国外では中国に分布。県内では四日市市小牧町、桑名市志知、津市河芸町での記録がある。

現況・減少要因： かつては水田等で市街地周辺でも普通に見られた種であったが、近年平地における採集例がほとんどなくなってきている。現在発見できるのは、山地の湿地など隔離された自然度の高い環境のみである。減少の状況からみて、水田への薬剤の散布だけでなく、水質の変化も関係しているものと思われる。

保護対策： 生息状況の調査が先決であるが、保護には生息環境の保全が重要。

文献： 596, 619, 620.



(大石久志・篠木善重)

カクモンハラブトハナアブ (カクモンアシブトハナアブ)

ハエ目ハナアブ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Mallota abdominalis (Sack)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点数は10以下。池や湿地および溪流に生息。特に平地の個体群は減少していると考えられる。

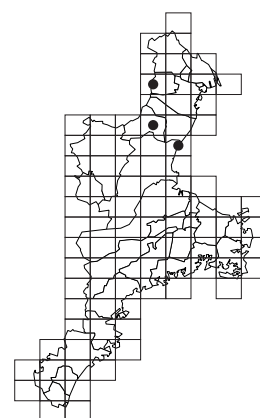
種の概要： 体長10~13 mm。5月~9月に、湿地周辺に出現する。胸背に縦筋はなく、小楯板は黒い。雄の後腿節の基部内面に突起がある。後腿節は雌雄ともに肥厚する。腹部の斑紋は橙黄から赤褐色だが、黄色い斑紋部が広い明色型の報告例もある。

分布： 本州、四国、九州、台湾、東南アジアに分布。県内では菰野町、鈴鹿市、津市、亀山市から記録されている。

現況・減少要因： 湿地的環境の減少。

保護対策： 里山周辺の湿地的環境を保全する。

文献： 614, 617, 619, 620.



(大石久志・篠木善重)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

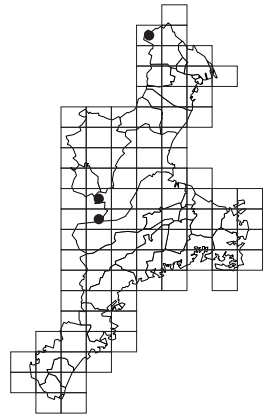
NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コシアキオオモブトハナアブ (コシアカモブトハナアブ) ハエ目ハナアブ科
三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
旧県：情報不足 (DD)

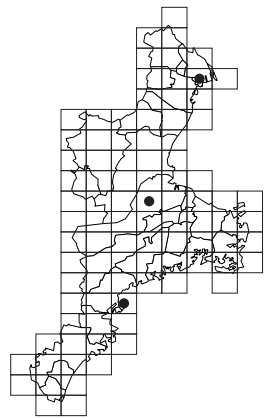
選定理由： 既知の生息地点数は3で、3個体が得られているのみ。生息地は局所的で、個体数はかなり減少しているらしい。
種の概要： 体長16~18 mm。マルハナバチ擬態の大型のハナアブ。後腿節は著しく太い。雄の後脛節末端に大きな三角状突起がある。平地から低山の特自然度の高い森林に生息し、4~6月に出現する。オオバアサガラ、コハウチワカエデ、サラサドウダン、ウツギなどへの訪花が確認されている。
分布： 本州（青森、岩手、宮城、茨城、栃木、埼玉、東京、三重、京都、大阪、兵庫、山口の各都府県）、四国、九州に分布。県内では津市美杉町といなべ市藤原町に分布。
現況・減少要因： 自然度の高い森林の減少。
保護対策： 自然度の高い森林の保全。
文献： 620.



(大石久志・篠木善重)

ニノミヤトビクチミギワバエ ハエ目ミギワバエ科
三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
旧県：準絶滅危惧 (NT)

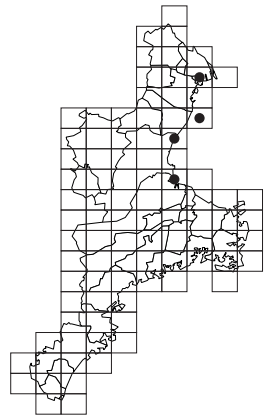
選定理由： かつては市街地にも分布するような種であったらしいが、環境の変化に特に敏感な種のように、現在は極めて分布が限られていて、そのいずれもが自然度の高い環境である。既知の生息地は3地点。
種の概要： 体長3.5 mm程度の小型種。やや幅広の体形をしている。胸部の背面は暗褐色。側面は灰色で、腹部は黒色で灰色の斑紋がある。口孔は著しく大きく前部は突出する。河川の溜まりや湿地等に生息し、成虫はしばしば水面に群集する。幼虫は水性、多化性で春から秋に出現する。
分布： 北海道、本州、四国、九州。国外では極東ロシア、イスラエル、台湾、中国、ハワイに分布。県内では四日市市、松阪市飯南町、紀北町で記録がある。
現況・減少要因： 分布状況から判断して、相当に減少したものと推測される。水質の汚濁等の環境の変化が原因と考えられるが詳細は不明。
保護対策： 開発によって最も消滅しやすい環境であり、また特に人的環境に接する生息地は、排水等を含めて環境の保全にも留意する必要がある。
文献： 606.



(大石久志・篠木善重)

ハイイロニセミギワバエ ハエ目ニセミギワバエ科
三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 既知の生息地点数は5以下で、自然度の高い河口の汽水域にみられる。
種の概要： 体長2 mm前後の小型種。身体は全体灰色の微粉におおわれる。翅は透明。汽水域の砂質又は泥質の砂州や干潟に生息する。
分布： 本州（京都府、三重県）、四国、九州、沖縄に分布。県内では高松海岸、鈴鹿川派川、田中川干潟、櫛田川河口干潟に生息している。京都府の記録は1例のみで、三重県は本州での確実かつ唯一の産地である。
現況・減少要因： 自然度の高い海岸（河口部の干潟）の減少。
保護対策： 河口部汽水域の環境を保全すること。
文献： 599. 602. 620.



(大石久志・篠木善重)

ゴマフツトガ

チョウ目ツトガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

Chilo pulveratus (Wileman et South)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息環境である湿地が激減している。

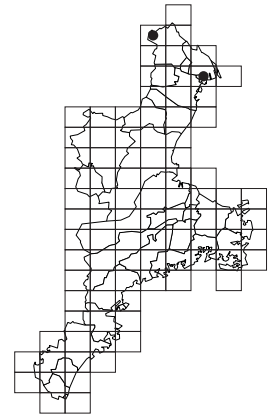
種の概要： 開張約 19 mm, 前翅は灰褐色の地に黒点を密生させた目立たない模様で後翅は白色をしている。これまでの記録は 6~7 月に集中し, 年 1 化と考えられる。食草は不明であるが明らかに低湿地性の蛾で局地的に分布する。

分布： 本州, 四国. 群馬県南部の記録を最北とし, 伊豆半島, 岐阜県, 愛知県, 三重県, 高知県に記録がある。県内ではいなべ市上相場, 四日市市大矢知町に記録がある。

現況・減少要因： 県内においては 2 か所しか記録がなく, いずれもその湿地環境が悪化して生息不能となっている。

保護対策： 良好な湿地環境を保全することが必要である。

文献： 698, 712.



(間野隆裕)

モウセンゴケトリバ

チョウ目トリバガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Buckleria paludum (Zeller)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息環境である湿地が激減している。

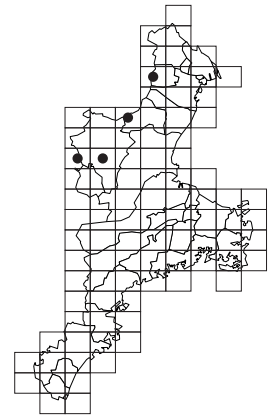
種の概要： 開張約 10 mm の小型のトリバガ科の一種で, 他の同属種と同様, 前翅 2 枚後翅 3 枚に切れ込んだ翅形をしている。斑紋は前後翅共に灰色地に黒条線がまだらにあるため従来はマダラトリバと称していた。幼虫は食虫植物であるモウセンゴケ類を食すという生態的に興味深い種で, そのため局地的に分布する。成虫は 5 月頃から 10 月まで見られ, 年数回発生するものと考えられる。

分布： 北海道, 本州 (岐阜県, 岡山県及び愛知県) で記録されており, 沖縄本島と西表島でも得られている。ヨーロッパでは広く分布する。三重県においては菰野町湯ノ山, 伊賀市の法花と比自岐から記録されている。

現況・減少要因： モウセンゴケの生育する湿地環境が減少してきた。

保護対策： モウセンゴケとその生育する湿地を保全する。

文献： 648, 667, 668, 669, 693, 702, 707, 726, 806.



(間野隆裕)

フジキオビ

チョウ目アゲハモドキガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Schistomitra funeralis Butler

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： ブナ帯の特異な食性を持つ希少種。

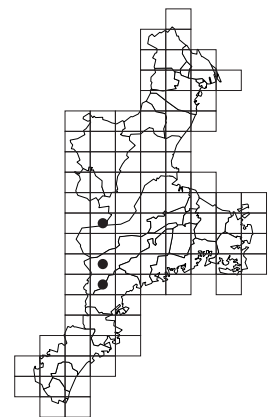
種の概要： 開張約 46 mm. アゲハモドキガ科に属する 1 属 1 種の日本固有種。年 1 回 6 月頃に成虫が出現し, 日中飛翔し特に午前中発見されやすい。幼虫はナツツバキを食すことが知られ, 良好なブナの森林が残されているところで記録されている。

分布： 新潟県から福島県付近を北限とし, 九州までの山地に分布する。東海地方ではこれまでブナ帯からわずかな記録が得られているにすぎない。三重県では津市美杉町平倉, 大台町宮川父ヶ谷から記録されている。

現況・減少要因： ブナ帯林の衰退に伴って減少すると考えられる。

保護対策： 食樹およびその周辺樹林の保全。

文献： 704, 708, 734.



(間野隆裕)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ゴマダラシャチホコ

チョウ目シャチホコガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Palaeostauropus obliteratus (Wileman et South)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息環境である山地のモミ林の減少。

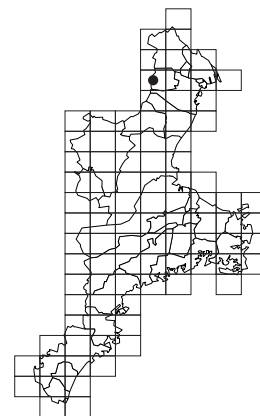
種の概要： 開張約 45 mm, 1 属 1 種の日本固有種で、翅の全体は灰白色で、前翅と後翅前縁部に小黑点を散布する。成虫は年 1 回夏に発生し、分布域が限られるためその記録は限定される。近年、幼虫はモミを食することが判明した。

分布： 関東以西の本州から九州まで局地的に分布する。三重県においては菰野町の記録が唯一である。

現況・減少要因： 今後モミ林を精査すれば、追記録を得ることも可能と考えられるが、極めてまれな種と思われる。

保護対策： 三重県にわずかしが残されていないモミの自然林を保全する。

文献： 642, 700.



(間野隆裕)

ナチアオシャチホコ

チョウ目シャチホコガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：

Syntypistis nachiensis (Marumo)

旧県：情報不足 (DD)

選定理由： 紀伊半島南部以南に分布し、熊野市紀和町が種の東限となっている。

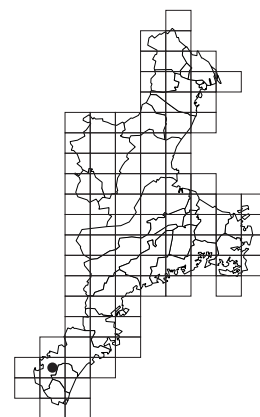
種の概要： 成虫は本州では春と夏に発生するが、食性等詳しい生活史は不明である。

分布： 本州の三重県（熊野市紀和町布引の滝）以南の太平洋側、四国、九州と、対馬、屋久島、南西諸島に分布する。

現況・減少要因： 豊かな照葉樹林が生息地であり、県内にはその環境が減少傾向であるため、生息が脅かされている。

保護対策： 照葉樹林の保全。

文献： 695.



(間野隆裕)

シラユキコヤガ

チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

Eulocastra sasakii Sugi

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 生息環境である湿地が激減している。

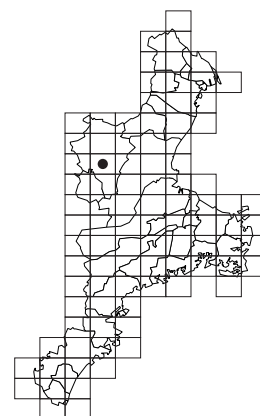
種の概要： 開張 13~15 mm, 頭部および胸背部は黒褐色、前翅は白地に外縁部と外横部に幅広の黒条線がある。後翅は純白。湿地のみから得られており、幼虫の食草としてヌマガヤが報告されている。

分布： 全国的にまれで、秋田県、愛知県、岐阜県などわずかな記録しか見られない。これまでのところ伊賀市が本種の西限の記録である。

現況・減少要因： 既知産地はいずれも貧栄養湿地で、その湿地環境の減少が、本種の減少要因として大きいと考えられる。

保護対策： 生息環境である湿地環境の保全。

文献： 647, 665, 707, 727, 777.



(間野隆裕)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

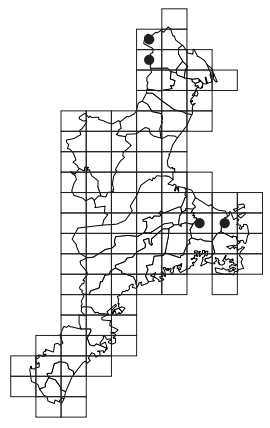
オオキイロアツバ
Pseudalelimma miwai Inoue

チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：

選定理由： 幼虫はツゲを食す石灰岩性の蛾で、藤原岳がタイプロカリティーになっており、環境変化に伴い減少する可能性がある。
種の概要： 幼虫はツゲを食す石灰岩（蛇紋岩）性の蛾類。成虫は夏と秋の年2回発生する。
分布： 三重県では藤原岳のほか、神宮林の一の瀬と伊勢市朝熊山でも記録されている。
現況・減少要因： 生息環境が石灰岩採掘などにより改変され、減少する。
保護対策： 生息環境の保全。
文献： 664. 710. 764. 808. 810.



(間野隆裕)

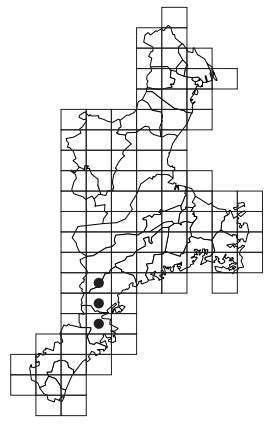
ヤクシマヒメキシタバ
Catocala tokui Sugi

チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：情報不足 (DD)

環境省：

選定理由： 豊かな照葉樹林にのみに生息するが、開発等により生息地が脅かされている。
種の概要： 南方系の局地的分布種。食性は不明であるがカシ類の自然林で記録されている。成虫は年1回7月に発生する。
分布： 紀北町不動谷、矢ノ川峠と宮川村大杉谷で記録されている。
現況・減少要因： 生息地である照葉樹林の開発等によって生息地が脅かされている。
保護対策： 生息地の保全。
文献： 691.



(間野隆裕)

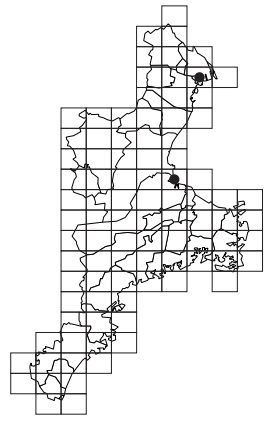
ヌマベウスキヨトウ
Chilodes pacificus Sugi

チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)
旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

選定理由： 生息環境である湿地の減少。
種の概要： 開張14~19mm、前後翅とも灰褐色の地色に斑紋のほとんどない地味な色彩の種である。これまで湿地で得られているが、食性は不明である。
分布： 北海道から大阪まで局地的に記録されている。三重県においては四日市と雲出川下流で記録されているが、四日市の湿地は造成のためなくなり現在本種は絶滅した。
現況・減少要因： 斑紋が地味なので県内の生息が見落とされている可能性もあるが、生息している湿地の減少が大きな打撃となる。
保護対策： 湿地環境の保全。
文献： 712.



(間野隆裕)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ガマヨトウ

Capsula aerata (Butler)

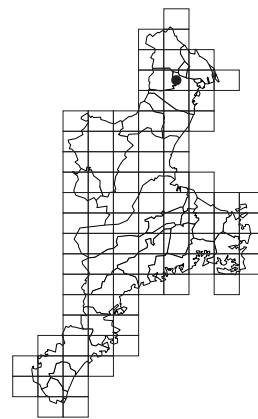
チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：VU

選定理由： 日本固有種。低湿地特有の蛾で環境改変に伴い生息が脅かされている。
種の概要： 幼虫はマコモを食べる。湿地性の蛾で、成虫は晩春から秋に発生する。
分布： 三重県では四日市大矢知町の記録が唯一である。
現況・減少要因： 生息地である湿地の減少に伴って減少していると考えられる。
保護対策： 生息地である湿地の保全。
文献： 712. 816.



(間野隆裕)

エチゴハガタヨトウ

Asidemia inexpecta (Sugi)

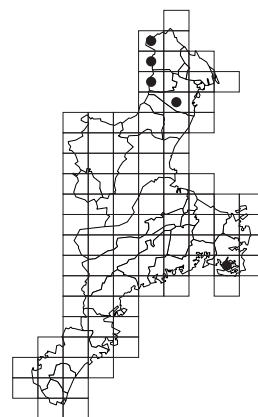
チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：

選定理由： 石灰岩（蛇紋岩）地帯という特異環境のみに生息する種である。
種の概要： 幼虫はツゲを食す石灰岩（蛇紋岩）性の蛾類。成虫は夏と秋の年2回発生する。
分布： 三重県では四日市市宮妻峡といなべ市藤原岳、菰野町御在所岳、志摩市大王町波切の記録がある。
現況・減少要因： 生息環境が石灰岩採掘などにより改変され、減少している。
保護対策： 生息環境の保全。
文献： 699. 710. 712. 717.



(間野隆裕)

エゾスジヨトウ

Doerriesa striata (Staudinger)

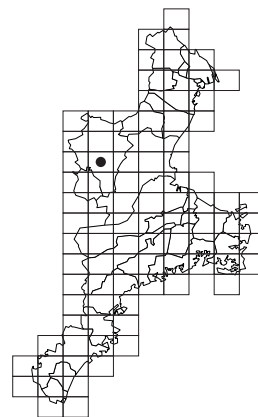
チョウ目ヤガ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：VU

選定理由： 生息環境である湿地が激減している。
種の概要： 開張 20~23 mm, 貧栄養湿地で7~8月に得られており、年1化と思われるが、食性等生活史は不明である。
分布： 北海道で得られた雄1頭で新種記載され、その後青森県、栃木県、岐阜県、愛知県、京都府など散発的な記録がある。三重県においては伊賀市沖で得られている。
現況・減少要因： 生活史が未知なこともあり県内分布の動向は不明な点が多いが、生息地である湿地の減少が最も危惧される。
保護対策： 生息環境である湿地の保全。
文献： 640. 645. 646. 672. 692. 696. 707. 719. 771. 815.

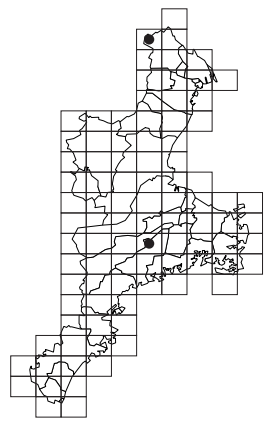


(間野隆裕)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イセキリガ *Agrochola sakabei* (Sugi) チョウ目ヤガ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：
旧県：情報不足 (DD)

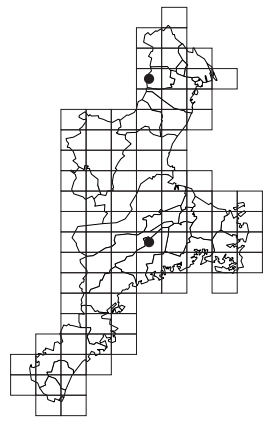
選定理由： 三重県大紀町がタイプロカリティーとなっており、石灰岩（蛇紋岩）地帯という特異環境のみに生息する種である。
種の概要： 幼虫はツゲのみを食すため、その分布に限定される。成虫は10月から11月に1回発生する。
分布： 本州（新潟県以南の数県）、四国（徳島県）に記録があるが、いずれの県でも局地的に生息し、三重県では大紀町大宮のほか、いなべ市坂本・河内谷の記録がある。
現況・減少要因： 生息環境が石灰岩採掘などにより改変され、減少している。
保護対策： 生息環境の保全。
文献： 711. 768.



(間野隆裕)

ヤマトハガタヨトウ *Nyctycia stenoptera* (Sugi) チョウ目ヤガ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：
旧県：情報不足 (DD)

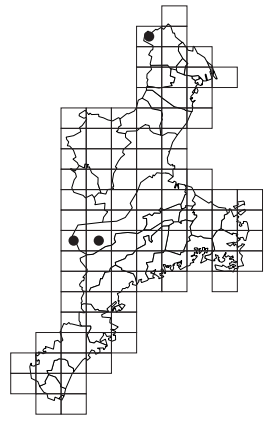
選定理由： 東海地方以西の平地から丘陵地で得られているまれな種。近年の記録がない。
種の概要： おそらく照葉樹林に生息する南方系種であるが、食性等詳しい生活史は不明。成虫は晩秋に1回発生する。現在確実に得られるのは九州の一部のみ。
分布： 静岡県以西の本州、四国、九州に記録が点在し局地的に分布する。県内では大紀町と菰野町湯ノ山に古い記録があるのみである。
現況・減少要因： 不明。
保護対策： 少なくとも豊かな照葉樹林の保全。
文献： 767. 807.



(間野隆裕)

オナガシジミ *Araragi enthea* (Janson) チョウ目シジミチョウ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：
旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知生息地点数は5以下。生息地間の個体の交流がないと考えられる。
種の概要： 開張30mm程の掲色のシジミチョウ。裏面地色は灰白色で褐色の紋を散らす。後翅に長い糸状の尾状突起がある。山岳渓谷のオニグルミに発生する。年1回7月頃にみられる。
分布： 中国大陸西部、ウスリー、アムール、朝鮮半島、台湾など。国内では北海道、本州、四国、九州。本州中部以北では生息地が多いが、西南日本の分布は不連続。県内では鈴鹿山系北部と櫛田川上流域の渓谷にのみ生息する。
現況・減少要因： 産地の立地条件から生息地は安定的、特に減少傾向は認められない。生息地点数が少ないので、その場所での環境改変が個体群全体への打撃となる可能性が高く、注意が必要である。
文献： 639. 812.



(中西元男)

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウラジロミドリシジミ

チョウ目シジミチョウ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Favonius saphirinus (Staudiger)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は比較的多いが、過去の減少傾向がやや高く、将来も減少すると考えられる。

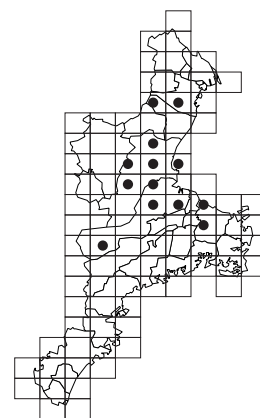
種の概要： 開張 30 mm ほどで、雄の翅表は青色の金属光沢がある、雌は褐色。翅裏面は雌雄とも灰白色。カシワ、ナラガシワの林に生息し、年 1 回 6 月に発生。

分布： ウスリー、アムール、朝鮮半島など。北海道、本州、九州、対馬。県内ではおもに中南勢地域と北勢の一部低地から丘陵地に生息する。

現況・減少要因： 雑木林に生息するが、三重県では本種の食樹となるナラガシワは、他のクヌギ、コナラなどに比べて利用される地域が狭く、また、より低地部で栽培される傾向が強いため、開発による減少率が高い。

保護対策： ナラガシワ林の保全と育成。林の老齢化による生息地条件劣化を防ぐために、定期的な伐採更新も必要である。

文献： 661. 676. 683. 728. 746. 751. 758. 797.



(中西元男)

ウラナミアカシジミ紀南亜種

チョウ目シジミチョウ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Japonica saepestriata gotohi Saigusa

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は比較的多いが、特定地域の特殊な環境にのみ生息。

種の概要： 斑紋パターンはウラナミアカシジミ原名亜種と基本的には同じ。翅裏面の黒色縦縞模様が太い、翅型が丸みを帯びる、尾状突起が相対的に長いなどの特徴がある。

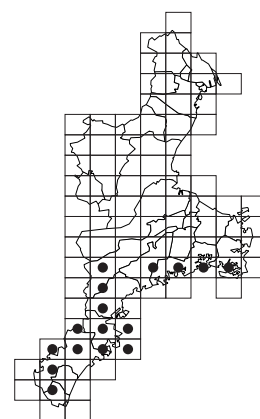
原名亜種より一般に小型、開張 30 mm 前後。山地から海岸の急峻な地形のウバメガシ林に生息する。年 1 回 5 月下旬頃から発生する。1993 年に新しく記載された亜種である。

分布： 本州南部の特産亜種。和歌山、奈良、三重の 3 県のみ生息。県内では志摩半島南部と宮川流域上流部の渓谷地帯、南部紀伊山地から熊野灘沿岸海岸に分布する。

現況・減少要因： 特殊な地形の地域に生息するため、生息地の状態は比較的安定的で、特に減少傾向はみられない。

保護対策： 生息地環境の現況保全。主に急峻な崖、渓谷に生息するため、人為の影響は及びにくいと思われるが、地域全体を改変するような大規模開発にさらされるような場合、生息地面積が狭いため亜種個体群全体への打撃が大きいと考えられる。

文献： 652. 655. 657. 658. 659. 673. 694. 736. 739. 743. 751. 760. 761. 766. 773. 798. 799. 800.



(中西元男)

フジミドリシジミ

チョウ目シジミチョウ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—

Sibatanzephyrus fujisanus (Matsumura)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

選定理由： 既知の生息地点数は比較的多いが、生息地は点在しており分断されている傾向がある。将来推定で減少傾向にあると考えられる。

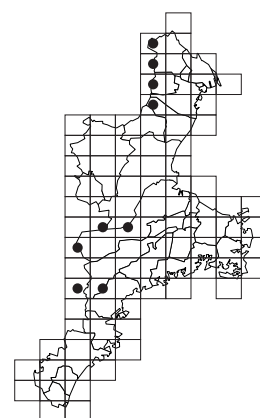
種の概要： 開張 30 mm ほどで、雄翅表は青色の金属光沢がある。雌は褐色、翅裏は灰白色に褐色の帯斑があり、雌の方が色調が暗い。高標高の山地に生息する。ブナ林の指標種。年 1 回 6 月に発生する。

分布： 北海道南部、本州、四国、九州の山地。県内では鈴鹿山系と高台山地の高標高地。

現況・減少要因： 生息地の立地条件から、特に減少傾向は認められない。ただし、三重県下のブナ林は成育限界に近く、本種の生息にあまり適しない尾根筋に形成されていたり、さらに近年は更新がされず老齢衰退傾向が認められるため、将来の推移に注意が必要である。

保護対策： さしあたってはブナ林の現況維持。温暖化によるブナ成育限界の北上といった大環境の変化が進行する場合には、個別的な対策はない。

文献： 641. 728. 746.



(中西元男)

ウラミスジシジミ

Wagimo signatus (Buter)

チョウ目シジミチョウ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：情報不足 (DD)

環境省：—

選定理由： 既知の生息地は 10 以下。生息地は点在しており分断傾向が強い。2005 年版では県内での生息確認から間がなくカテゴリ DD としたが、その後の調査でも確認例が少ないことからみて、県内の個体数は少ないと思われる。

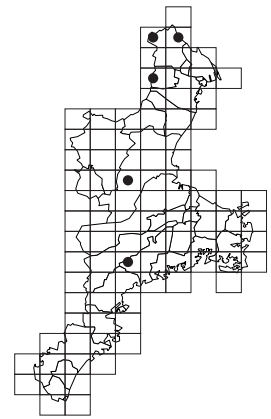
種の概要： 開張 30 mm 内外、暗褐色の翅中央部に青色斑、裏面は赤褐色の地に不規則な白条を表す。山地の広葉樹林に生息し、年 1 回初夏に発生する。

分布： 国内では北海道、本州、九州、国外は中国東北部、アムール、朝鮮半島の周日本海地域に分布する。県内では鈴鹿、養老と台高の山地帯から記録されている。

現況・減少要因： 比較的自然度が高いと考えられる広葉樹林から確認される。針葉樹植林造林の進んだ三重県には、本種の生息に適した地が少ないと考えられる。

保護対策： 山地に残存する自然林の保全。

文献： 754, 796.



(中西元男)

オオムラサキ

Sasakia charonda (Hewitson)

チョウ目タテハチョウ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：NT

選定理由： 既知生息地点数は多いが、過去、将来推定共減少傾向が大きい。

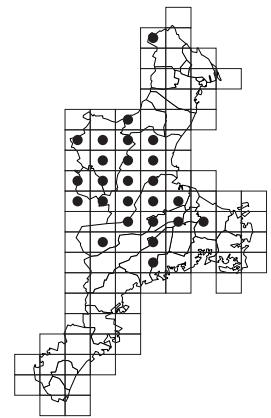
種の概要： 開張 100~130 mm ほどの大型のタテハチョウ。雄翅表の中心部は大きく紫の幻光色を発する。雌にはこの輝きがなく、地色の黒褐色に、白から黄色紋を散らした模様である。食樹はエノキ。年 1 回 6 月頃に、里山の雑木林に発生する。

分布： 中国大陸、朝鮮半島、台湾、北海道南部、本州、四国、九州。関東以東北のものは翅裏が黄色、日本の西南部の個体群では白銀色が主となる。県内では中勢地域の丘陵部、伊賀地域に生息。近年北勢地域からの確認例が増えているが、その由来については自然の分布拡大か、放蝶など人為行為かは未確定。

現況・減少要因： 里山の雑木林に広く生息していたが、近年は林の分断、管理放棄による荒廃により、限られた地域にしかみられない。本種のように大型で飛翔能力が大きく、雄の占有性が強いものでは、生息に適した環境が大きく連続している必要がある。

保護対策： 広範囲での里山雑木林の適正管理。特に林の連続性回復、回廊整備。また、誤った保護思想による放蝶、特に他産地のものを、安易に各地に放つ行為は重大な遺伝子汚染による弊害をもたらす危険性があり、注意が必要である。

文献： 634, 650, 675, 679, 681, 682, 684, 685, 753, 779, 780, 785, 789, 791.



(中西元男)

ホシアシブトハバチ

Agenocimbex jucunda Mocsary

ハチ目コンボウハバチ科

三重県：準絶滅危惧 (NT)

旧県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：DD

選定理由： 既知の生息地点数は 5 以下であり、食樹がエノキに限られ、環境変化の影響を大きく受けやすい。

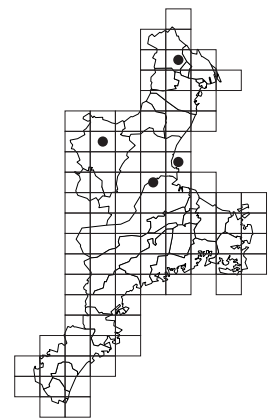
種の概要： 成虫の体長 20 mm ほどの黄色地に黒点のハチ。年 1 回発生で 4~5 月にエノキの葉に産卵する。成虫の発生期間が短いため幼虫の方が見つけやすい。幼虫は、白地に黒い水玉模様の体長 30 mm のイモムシ。

分布： 本州、四国、九州。県内では、北勢、中勢、伊賀で記録されている。

現況・減少要因： 2005 年以降確認報告は無いが、状況に変化は無いと考えられる。里山の開発による食樹エノキの減少に影響が心配される。

保護対策： 幼虫の餌となるエノキを確保するため、環境を保全する。

文献： 840, 846, 849.



(西田悦造)

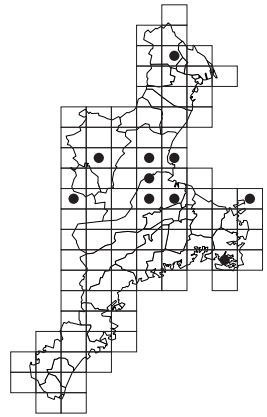
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

モンズズメバチ ハチ目スズメバチ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：DD
Vespa crabro flavofasciata Cameron 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

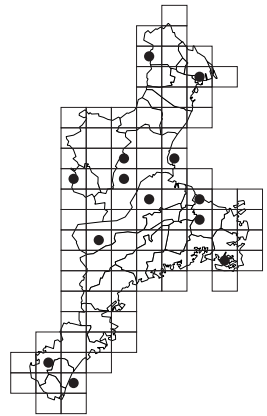
選定理由： 既知の生息地点数は 30 以下であり、近年減少してきている。
種の概要： 成虫の体長 30 mm ほどの黄色地に黒縞模様のハチ。主にセミやトンボなど昆虫を餌にし、木の洞や屋根裏などに 5 月中旬ごろから巣を作る。近年、北海道以外で数が減少してきている。
分布： 北海道、本州、四国、九州、ユーラシアの温帯地域。県内では、平野部から低山地にかけ記録されている。
現況・減少要因： 鈴鹿市、松阪市、鳥羽市、志摩市で生息が確認されている。県内では、もともと個体数が少なく、餌の昆虫が生息する里山が開発で減少したことが影響していると考えられる。
保護対策： 餌となる昆虫が豊富に生息する環境を保全する。
文献： 834. 843. 845. 848. 852. 858. 860.



(西田悦造)

キンモウアナバチ ハチ目アナバチ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：—
Sphex diabolicus Smith 旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

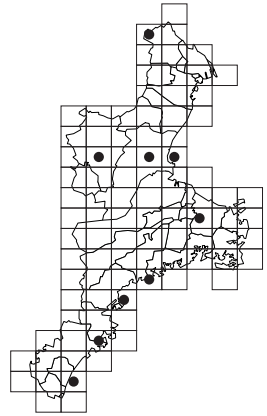
選定理由： 既知の生息地点数は 30 以下であり、餌や巣など生息地域が限られ、環境の変化に大きく影響を受け易い。
種の概要： 成虫の体長 40 mm ほどで全身黒色。胸部が金色の毛で覆われる。クダマキモドキなど直翅目昆虫を狩り、地面に穴を掘って巣を作る大型のカリバチ。県内では 7～8 月に見られる。
分布： 本州、九州、東アジア、東南アジア、南アジア。県内では、北勢、中勢、南勢、伊賀、紀州で記録されている。
現況・減少要因： いなべ市、桑名市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、名張市、紀宝町での生息が確認されている。餌となるクダマキモドキなどが生息する林地に隣接する砂地の減少など生息環境の変化を受け易いと考えられる。
保護対策： 餌となる直翅目の生息が可能な林地の確保と営巣のため林地に隣接した砂地を確保する。
文献： 831. 833. 839. 845. 851. 858. 859.



(西田悦造)

クロマルハナバチ ハチ目ミツバチ科 三重県：準絶滅危惧 (NT) 環境省：NT
Bombus ignitus Smith 旧県：絶滅危惧 II 類 (VU)

選定理由： 既知の生息地点数は 30 以下であり、県内では、少ない種類。
種の概要： 雌成虫は、体長 20 mm ほどで全身黒色。腹部背の先端がオレンジ色のハチ。雄成虫は、黄色で腹部と胸部に黒い帯がある。花の花粉を集めて巣を作る。
分布： 本州、四国、九州、朝鮮半島、中国。県内では、平野部から低山地まで記録されている。
現況・減少要因： 伊賀市、大紀町、紀北町、熊野市、紀宝町で確認されている。もともと本県での個体数が少ない種である。近年施設トマト栽培の授粉用として外来種セイヨウマルハナバチに代わって導入が進められているが、地元産でないため地域個体群遺伝子への影響が懸念されている。
保護対策： 餌源である野山の花の確保と営巣場所の環境を保全する。
文献： 836. 844.



(西田悦造)

キマダラカゲロウ カゲロウ目マダラカゲロウ科 <i>Ephemerella notata</i> Eaton	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
明和町の1地点の河川でのみで確認されている。 <div style="text-align: right;">(小川隆之)</div>		
クロハサミムシ ハサミムシ目クロハサミムシ科 <i>Nesogaster lewisi</i> (Bormans)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
三重県内では大台町から記録されているだけである。(文献：73.) <div style="text-align: right;">(河北 均)</div>		
マエグロハネナガウンカ カメムシ目ハネナガウンカ科 <i>Zoraida pterophoroides</i> (Westwood)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 DD	環境省：—
山地性の種でいなべ市藤原町、菰野町、津市美杉町などの記録をみるが、未調査地も含めた資料の蓄積が必要である。(文献：102.) <div style="text-align: right;">(富田靖男)</div>		
ハウチワウンカ カメムシ目ゲンバイウンカ科 <i>Trypetimorpha japonica</i> Ishihara	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：VU
体長1.5 mm内外。伊賀市から記録されているだけであり、未調査地域の資料蓄積が必要である。(文献：139, 166.) <div style="text-align: right;">(鈴木 賢)</div>		
オヨギカタビロアメンボ カメムシ目カタビロアメンボ科 <i>Xiphovelia japonica</i> Esaki et Miyamoto	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：NT
体長1.5 mm内外。鈴鹿市、志摩市、度会町で記録されているが、未調査地域の資料蓄積が必要である。(文献：168.) <div style="text-align: right;">(鈴木 賢)</div>		
ババアメンボ カメムシ目アメンボ科 <i>Gerris (Gerris) babai</i> Miyamoto	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：NT
体長6~8 mm。志摩市の記録だけであり、生息範囲は局限されていると思われる。(文献：168.) <div style="text-align: right;">(鈴木 賢)</div>		
ウミアメンボ カメムシ目アメンボ科 <i>Halobates japonicus</i> Esaki	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
体長5mm内外で無翅。沿岸性で志摩市阿児町・大王町の記録をみるが、未調査地域の資料の蓄積が必要である。(文献：127, 140.) <div style="text-align: right;">(富田靖男)</div>		
ヤマトセンブリ ヘビトンボ目センブリ科 <i>Sialis yamatoensis</i> Hayashi et Suda	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
いなべ市、津市の2地点の池で記録されている。(文献：171.) <div style="text-align: right;">(森田久幸)</div>		
チャマルチビヒョウタンゴミムシ コウチュウ目オサムシ科 <i>Dyschirius yanoi</i> Kult	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
紀伊半島の固有種。自然林の落葉下に生息する。県内では津市美杉町、松阪市飯高町、鳥羽市、大台町から記録されている。(文献：337, 580, 583.) <div style="text-align: right;">(秋田勝己)</div>		

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	クビナガキベリアオゴミムシ コウチュウ目オサムシ科 <i>Chlaenius prostenus</i> Bates	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
鳥類	伊賀市伊賀町，津市阿漕浦海岸，伊勢市内宮で記録されているだけである。(文献：540, 545.)		
爬虫類	(生川展行)		
両生類	スナハラゴミムシ コウチュウ目オサムシ科 <i>Diplocheila elonbata</i> (Bates)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：VU
汽水・淡水魚類	三重県では，伊賀市荒木で記録されているだけである。(文献：272.)		
昆虫類	(生川展行)		
クモ類	タナカツヤハネゴミムシ コウチュウ目オサムシ科 <i>Anisodactylus andrewesi</i> (Schauberg)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
貝類	水辺に生息している種で，三重県では鈴鹿市山本町椿溪谷，西庄内町，西庄内町小岐須溪谷で記録されているだけである。(文献：443, 543.)		
甲殻類	(生川展行)		
その他動物	オオトゲバゴマフガムシ コウチュウ目ガムシ科 <i>Berosus (Enoplurus) incretus</i> Orchymont	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
EX	志摩市大王の記録が，現在のところ本州唯一のものである。水田環境の悪化による減少が強く懸念される。(文献：471.)		
EW	(秋田勝己)		
CR	スジヒラタガムシ コウチュウ目ガムシ科 <i>Helochaeres striatus</i> Sharp	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：NT
EN	三重県では，鈴鹿市伊船町御幣川，西庄内町，伊賀市法花で記録されているだけである。(文献：272, 443.)		
VU	(生川展行)		
NT	オオサカスジコガネ コウチュウ目コガネムシ科 <i>Anomala osakana</i> Sawada	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
DD	日本固有種で本州（中部以西），九州に分布する。三重県では桑名市多度町の記録が唯一のものである。河川敷や海岸草地に生息する種である。(文献：198.)		
	(秋田勝己)		
	マツシタチャイロコガネ コウチュウ目コガネムシ科 <i>Sericania (fuscolineata) matusitai</i> Sawada	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
	1994年に尾鷲市にて1例のみ三重県初記録がなされた。その後の記録はない。同定の難しいグループなので見過ごされている可能性がある。(文献：295.)		
	(稲垣政志)		
	ホソヒメクロコメツキ コウチュウ目コメツキムシ科 <i>Ampedus otobei</i> Kishii	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
	大台町宮川で記載された種である。まれな種のようにその後の記録は，県外で1例追加されただけである。(文献：453.)		
	(乙部 宏)		
	ケスジドロムシ コウチュウ目ヒメドロムシ科 <i>Pseudamophilus japonicus</i> Nomura	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：VU
	三重県では，津市美杉町平倉演習林で記録されているだけである。(文献：459, 489.)		
	(生川展行)		

アキタクビボソジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) akitai</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
紀伊山地の固有種。大台町三津河落山で記録されるが、近年ニホンジカの食害による環境悪化が著しい。(文献：548.) (秋田勝己)		
ヒラクラクビボソジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) hirakura</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
津市美杉平倉と菰野町御在所岳の標本をもとに記載された種で、それ以外の産地は知られていない。(文献：548.) (秋田勝己)		
キタヤマクビボソジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) kitayamaensis</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
紀伊山地の固有種である。三重県では尾鷲市の標本がパラタイプに指定されている。(文献：548.) (秋田勝己)		
ノノボリクビボソジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Asiopodabrus (Japanopodabrus) nonoboriensis</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
亀山市野登山が唯一の既知産地。生息地はニホンジカの食害による環境の悪化が著しい。(文献：548.) (秋田勝己)		
オワセクビボソジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) owasensis</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
紀伊山地の固有種である。三重県では尾鷲市の標本がパラタイプに指定されている。(文献：548.) (秋田勝己)		
アキタキイロシリブトジョウカイ コウチュウ目ジョウカイボン科 <i>Yukikoa akitai</i> Takahashi	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
紀伊山地の固有種。大台町宮川大杉谷で4月に採集されたホロタイプの1雄のみが知られる。(文献：547.) (秋田勝己)		
イノウエホソカタムシ コウチュウ目ムキヒゲホソカタムシ科 <i>Antibothrus morimotoi</i> Sasaji	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
福井県と三重県津市美杉町平倉で得られた標本に基づいて、1997年に新種記載された種で、全国的に記録は稀である。(文献：420, 529.) (生川展行)		
ヤマトオサムシダマシ コウチュウ目ゴミムシダマシ科 <i>Blaps japonensis</i> Marseul	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：NT
三重県では鈴鹿市、亀山市、津市で記録されているだけである。(文献：407, 492, 522.) (生川展行)		
コモンキノコゴミムシダマシ コウチュウ目ゴミムシダマシ科 <i>Spiloscapa ichihashii</i> (Nakane)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
津市美杉町平倉演習林で採集された標本に基づき、1956年に新種記載された種で、三重県では平倉演習林で記録されているだけである。(文献：195, 315, 393.) (生川展行)		

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオクニイネゾウモドキ <i>Procas biguttatus</i> Faust	コウチュウ目イネゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
--	---------------	-----------------------	-------

北海道・本州に分布する北方系の種である。1961年に御在所岳で記録されて以後記録がない。(文献：573.)
(官能健次)

クロイネゾウモドキ <i>Notaris oryzae</i> (Ishida)	コウチュウ目イネゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
--	---------------	-----------------------	-------

北海道・本州・九州に分布している。1956, 1957年に津市津海岸・阿漕浦で採集された3頭の標本が確認された。
(官能健次)

ツルギトゲカタビロサルゾウムシ <i>Augustinus similis</i> (Chujo)	コウチュウ目ゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
---	-------------	-----------------------	--------

過去には県内山地で多く記録されていたが、ニホンジカの食害により、食草が減少し、生息数が減少している。(文献：489, 539, 573.)
(官能健次)

カギアシゾウムシ <i>Bagous bipunctatus</i> (Kono)	コウチュウ目ゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
---	-------------	-----------------------	-------

四日市市・津市・伊賀市・志摩市・紀北町・御浜町で記録があるが、池・河川の開発により減少している。(文献：272, 487, 555.)
(官能健次)

カワセタマノミゾウムシ <i>Sphaerorchestes kawasei</i> Morimoto	コウチュウ目ゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
---	-------------	-------------------------------	-------

暖地性の種で熊野市楯ヶ崎から新種として発表され、尾鷲市など沿岸沿いに少ない記録がある。(文献：339.)
(官能健次)

ミヤマカレキゾウムシ <i>Trachodes monticola</i> Morimoto et Miyakawa	コウチュウ目ゾウムシ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
--	-------------	-----------------------	-------

本州の針葉樹林帯に生息する種である。大台ヶ原のトウヒから採集された標本が確認されている。
(官能健次)

アシボソヒメフタマタアミカ <i>Philorus longirostris</i> Kitakami	ハエ目アミカ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
---	---------	-------------------------------	-------

記録の少ない種。幼虫は溪流にすむ。既知の産地では生息域は狭まる傾向にある。(文献：605, 620.)
(大石久志・篠木善重)

トワダオオカ <i>Toxorhynchites towadensis</i> (Matsumura)	ハエ目カ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
---	-------	-------------------------------	-------

日本最大の美しいカ。幼虫は樹洞にすむため、伐採によって生息環境は減りつつあるらしい。(文献：587, 591, 611, 612, 628.)
(大石久志・篠木善重)

ハマダラハルカ <i>Haruka elegans</i> Okada	ハエ目ハルカ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：DD
---	---------	-------------------------------	--------

第三紀周北極要素を示す種として学術的に貴重である。(文献：593, 605, 620, 626.)
(大石久志・篠木善重)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	ケジロキアブ <i>Xylophagus albopilosus</i> Miyatake	ハエ目キアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
鳥類	県内2か所から2頭の記録があるのみ。少ない種で、減少しつつあるようだが、より詳しい調査が必要である。(文献：620.)			
爬虫類	(大石久志・篠木善重)			
両生類	ネグロクサアブ <i>Coenomyia basalis</i> Matsumura	ハエ目クサアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
汽水・淡水魚類	県内では亀山市と多気町からの記録がある。自然度の高い環境に少数の個体が局所的に分布すると見なされる。(文献：620. 624. 627.)			
昆虫類	(大石久志・篠木善重)			
クモ類	ヒラヤマミズアブ <i>Odontomyia hirayamae</i> Matsumura	ハエ目ミズアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
貝類	県内では2か所から2頭が記録されるのみ。5~6月に低山か山手の湿地に出現するも個体数は極めて少ない。(文献：620.)			
甲殻類	(大石久志・篠木善重)			
その他動物	ミドロミズアブ <i>Odontomyia filipjewi</i> (Pleske)	ハエ目ミズアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
EX	全国的に記録の少ない種で、自然度の高い里山周辺の湿地環境に局所的にみられる。県内では2例の記録のみ。(文献：619. 620.)			
EW	(大石久志・篠木善重)			
CR	アシグルルリミズアブ <i>Sargus meracus</i> Nagatomi	ハエ目ミズアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
EN	全国的に産地の少ない種で、県内では8月に平倉演習林から1雄が記録されている。自然度の高い森林にみられる。(文献：603.)			
VU	(大石久志・篠木善重)			
NT	アカツリアブモドキ <i>Nycterimya fenestroinornata</i> Lichtwardt	ハエ目ツリアブモドキ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
DD	極めてまれな種で、県内では大台町大杉からの記録のみ。寄生性。早急調査が必要である。(文献：588. 630.)			
	(大石久志・篠木善重)			
	アメイロホソムシヒキ <i>Leptogaster trimucronata</i> Hermann	ハエ目ムシヒキアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
	県内では海浜の疎林内など3か所から記録されているが、高松海岸の産地は道路建設のため生息環境が破壊された。(文献：619. 620.)			
	(大石久志・篠木善重)			
	アシナガムシヒキ <i>Molobratia japonica</i> (Bigot)	ハエ目ムシヒキアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
	平地性の種。県内では50年以上も追加記録がなく、おそらく相当に減少していると考えられる。(文献：587. 629.)			
	(大石久志・篠木善重)			
	クロオビハラブトハナアブ <i>Mallota ambigua</i> (Shiraki)	ハエ目ハナアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
	平地から低山の自然度の高い森林に生息する。おそらく相当に減少の傾向にあると考えられる。(文献：620.)			
	(大石久志・篠木善重)			

コブアリノスアブ <i>Microdon shirakii</i> Reemer et Ståhls	ハエ目ハナアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
好蟻性。全国で数か所の産地しか知られていない極めて稀な種。県内では津市美杉町から雄1個体の記録のみ。(文献：604.)			
(大石久志・篠木善重)			
ハチモドキハナアブ <i>Monoceromyia pleuralis</i> (Coquillett)	ハエ目ハナアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
里山や低山地にみられ、樹液のしみてたクヌギに集まる。局地的に分布し、個体数も多くはない。(文献：590, 621.)			
(大石久志・篠木善重)			
コマバムツホシヒラタアブ <i>Scaeva komabensis</i> (Matsumura)	ハエ目ハナアブ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
少ない種で、夏期は山地にみられ、冬は平地で越冬するという移動性がある。県内では四日市市からのみ記録。(文献：620.)			
(大石久志・篠木善重)			
オオハチモドキバエ <i>Eupyrgota luteola</i> Coquillett	ハエ目デガシラバエ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
まれな種で、寄生性。生態を含め不明な点が多く、調査が必要である。近年、灯火採集で得られている。(文献：592, 608, 631.)			
(大石久志・篠木善重)			
ラカンミギワバエ <i>Dryxo nudicorpus</i> Miyagi	ハエ目ミギワバエ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
ミギワバエ中最大種で、清流に生息するが、生活用水の流れ込み等で富栄養化すると直ちに姿を消す。(文献：599, 620.)			
(大石久志・篠木善重)			
ハマベニクバエ <i>Leucomyia alba</i> (Schiner)	ハエ目ニクバエ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
海浜の砂地に生息し、海水浴場周辺でも見つかる。個体数は少なく、局所的に分布していると思われる。(文献：632, 633.)			
(大石久志・篠木善重)			
ウスマダラミズメイガ <i>Elophila orientalis</i> Filipjev	チョウ目ツトガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
伊賀市島ヶ原、いなべ市藤原町上相場から記録されている湿地性の蛾。幼虫はコナギを食す。貧栄養の湿地の減少に伴う生息環境の減少。(文献：814.)			
(間野隆裕)			
エンスイミズメイガ <i>Eristena argentata</i> Yoshiyasu	チョウ目ツトガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
海浜性の種で、木曾岬町鍋田川河口、海山町汐見、宮川河口、田中川干潟、鈴鹿川河口で得られている。幼虫は汽水域で蘚苔類を食す。汽水域の水質悪化と生息環境の減少。(文献：697, 776, 811, 813.)			
(間野隆裕)			
イブキスズメ <i>Hyles gallii</i> (Rotttemburg)	チョウ目スズメガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：—
幼虫はヤナギランやカワラマツバを食す山地草原性種で、東海地方では極めてまれな種。隣県の愛知県を含めて、いなべ市の記録が唯一。(文献：710.)			
(間野隆裕)			

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類	オオツバメエダシャク <i>Amblychia angeronaria</i> Guenée	チョウ目シャクガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
鳥類	紀伊半島以西に分布する南方系の種。大台町宮川大杉谷で記録されているが、生活史は不明である。(文献：714.) (間野隆裕)			
爬虫類				
両生類	キイロトゲエダシャク <i>Apochima praeacutaria</i> (Inoue)	チョウ目シャクガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
汽水・淡水魚類	紀北町海山区不動谷の記録が本州唯一の南方系種。照葉樹の豊かな環境で、年1回早春に発生するが食草は不明。 (文献：688. 690. 713.) (間野隆裕)			
昆虫類				
クモ類	ヤクシマギンツバメ <i>Pseudomicronia advocataria</i> (Walker)	チョウ目ツバメガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
貝類	紀伊半島以南に分布する南方系種。尾鷲市九鬼、大紀町錦峠に記録があるが、生活史は不明である。(文献：705. 770.) (間野隆裕)			
甲殻類				
その他動物	トリゲキシャチホコ <i>Torigea plumosa</i> (Leech)	チョウ目シャチホコガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
EX	日本固有種。本州、四国、九州のブナ帯に産し幼虫はクマザサ類を食す。菰野町湯ノ山の記録が県内唯一である。 (文献：663.) (間野隆裕)			
EW				
CR				
EN	クロモンオビリンガ <i>Gelastocera rubicundula</i> (Wileman)	チョウ目コブガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
VU	県内が東限となっている南方系種。熊野市楯ヶ崎と大紀町錦に記録があるが、生活史は不明である。(文献：689.) (間野隆裕)			
NT				
DD	シーモンアツバ <i>Sinarella c-album</i> Owada	チョウ目ヤガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
	全国的にまれな希少種。生活史は不明であるが、大台町宮川大和谷が県内唯一の記録。(文献：765.) (間野隆裕)			
	キュウシュウスジヨトウ <i>Doerriesa coenosa</i> Sugi	チョウ目ヤガ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：VU
	全国で志摩市大王町のほか、福岡県、対馬、千葉県のみで記録されている海浜性種。生活史は不明。(文献：701. 703.) (間野隆裕)			
	キバネセセリ <i>Bibasis aquilina chrysaeglia</i> (Butler)	チョウ目セセリチョウ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
	台高山系で少数の生息情報があるのみ。2000年におよそ50年ぶりで再発見された。(文献：716.) (中西元男)			
	イトウホソバトビケラ <i>Molannodes itoae</i> Fuller et Wiggins	トビケラ目ホソバトビケラ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：
	いなべ市、亀山市、津市の3地点の湿地で記録されている。(文献：822. 823. 827.) (森田久幸)			

クチキトビケラ <i>Ganonema uchidai</i> Iwata	トビケラ目アシエダトビケラ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：NT
伊勢市, 伊賀市, 南伊勢町の3地点で記録されている。(文献: 820, 827, 828.)			
(森田久幸)			
ツノカクツツトビケラ <i>Lepidostoma cornigerum</i> (Ulmer)	トビケラ目カクツツトビケラ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
菰野町, 志摩市の2地点でのみ記録されている。(文献: 824, 828, 829.)			
(森田久幸)			
オオセイボウ本土亜種 <i>Stilbum cyanurum pacificum</i> Linsenmaier	ハチ目セイボウ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
県内では志摩市で確認されている。(文献: 858.)			
(西田悦造)			
ケブカツヤオオアリ <i>Camponotus (Myrmentoma) nipponensis</i> Santschi	ハチ目アリ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：DD
丘陵地の雑木林の倒木に営巣し, 極めて局所的でコロニー数は少ない。(文献: 835.)			
(川添昭夫)			
ヤマトムカシアリ <i>Leptanilla japonica</i> Baroni Urbani	ハチ目アリ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
海岸線沿い照葉樹林の土中に生息しているが, 紀伊長島でしか記録がなく (1981), 極めて局所的である。(文献: 837.)			
(川添昭夫)			
モリシタカギバラアリ <i>Proceratium morisitai</i> Onoyama et Yoshimura	ハチ目アリ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：—
丘陵地の雑木林の土中に営巣し, 極めて局所的である。			
(川添昭夫)			
フタモンベッコウ <i>Parabatozonus hakodadi</i> (Dalla Torre)	ハチ目ベッコウバチ科 (クモバチ科)	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：NT
現在, 県内では, いなべ市, 四日市市, 松阪市で確認されている。(文献: 838.)			
(西田悦造)			
ヤマトスナハキバチ <i>Bembecinus hungaricus japonicus</i> (Sosan)	ハチ目ドロバチモドキ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
県内では, 四日市市, 津市, 明和町, 鳥羽市, 志摩市, 南伊勢町, 伊賀市, 尾鷲市, 熊野市で確認されている。(文献: 857, 859.)			
(西田悦造)			
キアシハナダカバチモドキ <i>Stizus pulcherrimus</i> (F.Smith)	ハチ目ドロバチモドキ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：VU
県内では, 伊賀市, 津市, 松阪市で確認されている。(文献: 859.)			
(西田悦造)			

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類	フクイアナバチ <i>Sphex inusitatus fukuianus</i> Tsuneki	ハチ目アナバチ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：情報不足 (DD)	環境省：NT
鳥類	県内では、いなべ市、四日市市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市、紀北町、熊野市から記録されている。 (文献：847, 854.)			
爬虫類	(西田悦造)			
両生類	クズハキリバチ <i>Megachile pseudomonticola</i> Hedicke	ハチ目ハキリバチ科	三重県：情報不足 (DD) 旧県：—	環境省：DD
汽水・淡水魚類	県内では、桑名市、亀山市、津市、松阪市で確認されている。(文献：853.)			
昆虫類	(西田悦造)			
クモ類				
貝類				
甲殻類				
その他動物				
EX				
EW				
CR				
EN				
VU				
NT				
DD				

文 献 (トンボ目)

1. 浅名正昌. 2007. 伊賀盆地にベニイトトンボ・コサナエ・ハネビロエゾトンボ・ムスジイトトンボの産地あり. 三重自然誌, 11: 100-103.
2. 浅名正昌. 2012. 伊賀盆地のトンボ その見分け方. 自費出版. 208 pp.
3. 林 憲一. 1958. 伊賀のトンボ3題. ひらくら, 3(32/33): 107-108.
4. 石田昇三. 1969. 原色日本昆虫生態図鑑Ⅱ. トンボ編. 保育社. 大阪: 269 pp. 64pls. 16figs.
5. 石田昇三. 1981. 虫の生活. 毎日新聞社四日市支局, 四日市, 61 pp.
6. 石田昇三. 1990. トンボ類 四日市市史 資料編 自然, pp. 320-334. 四日市市環境部環境保全課, 四日市.
7. 石田昇三. 1994. 三重県のトンボ類. 三重の生物, pp. 222-235. 三重生物教育会, 津.
8. 石田昇三. 2010. 県内におけるムカシトンボの最も早い採集記録. ひらくら, 54(4): 66.
9. 石田昇三. 2011. 菅島のトンボ相. 三重自然誌, 7: 42-44.
10. 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊. 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版会, 東京, 140 pp.
11. 石田昇三・中西元男. 2011. 志摩半島地域離島部のトンボ類. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp. 3-8. 三重昆虫談話会, 津.
12. 三重昆虫談話会編. 1961. 藤原岳の昆虫, 三岐鉄道, 四日市, 87 pp.
13. 三重昆虫談話会編. 1985. みえ昆虫記, 中日新聞本社, 名古屋, 275 pp.
14. 三重自然誌の会編. 1995. 自然のレッドデータブック・三重. 三重県教育文化研究所, 津, 183 pp.
15. 成田茂生. 1986. ハネビロエゾトンボの雌の摂食群飛. AESCHNA, 19: 15.
16. 西田時弘. 2012. 三重県津市におけるトンボ記録. Aeschna, 48: 1-15.
17. 小川隆之. 2007. 答志島の淡水産底生動物類. 三重自然誌, 11: 41-44.
18. 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司. 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学図書刊行会. 札幌, 917 pp.
19. 高崎保郎. 1963. オオキトンボの幼虫. 佳香蝶, 15(53): 1-3.
20. 富田靖男. 2004. 第6項昆虫類相 昆虫目録. 明和町史資料編第1巻 自然・考古, pp. 210-228. 明和町, 明和.
21. 富田靖男・市橋 甫・中西元男. 2012. 第5章昆虫類第1節 カゲロウ目・トンボ目・ゴキブリ目・カマキリ目・直翅目・ハサミムシ目・チャタテムシ目・脈翅目・膜翅目・長翅目・双翅目. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」調査報告書 (田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 215-227. 菰野町教育委員会, 菰野.
22. 刀根定良. 1992. 三重県松阪市のトンボ相(1). ひらくら, 36(6): 85-91.
23. 刀根定良. 1993. キイロヤマトンボ若干の目撃・採集記録. ひらくら, 37(4): 73.
24. 刀根定良. 1993. 志摩郡大王町でベッコウトンボを目撃. ひらくら, 37(1): 10.
25. 刀根定良. 2006. 熊野灘沿岸地域のトンボ. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 16-26. 三重昆虫談話会, 津.
26. 刀根定良. 2006. 伊賀市予野西出地域のナニワトンボ. ひらくら, 51(6): 98.
27. 刀根定良. 2007. 三重県のベニイトトンボの記録2000年~2007年. ひらくら, 51(5): 80.
28. 刀根定良. 2007. 松阪市櫛田川のゲンバイトンボ. ひらくら, 51(5): 80.
29. 475. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿市.
30. 八木孝彦. 1988. 三重県におけるオオサカサナエの観察記録若干. 1987. AESCHNA, 21: 12-15.
31. 八木孝彦. 1991. 三重県中勢地方で得られた注目すべきトンボ2種. 佳香蝶, 43(167): 39-42.
32. 八木孝彦. 2010. 三重県のトンボ記録(1). ひらくら, 54(4): 53-66.
33. 八木孝彦. 2010. 三重県のトンボ記録(2). ひらくら, 54(6): 89-97.
34. 八木孝彦. 2011. 三重県のトンボ記録(3). ひらくら, 55(2): 25-45.
35. 八木孝彦. 2011. 三重県のトンボ記録(4). ひらくら, 55(4): 73-97.
36. 八木孝彦. 2012. 三重県のトンボ記録(5). ひらくら, 56(2): 29-48.
37. 八木孝彦. 2013. 三重県のトンボ記録(7). ひらくら, 57(4): 73-94.
38. 八木孝彦. 2013. 三重県のトンボ記録(8). ひらくら, 58(2): 25-44.
39. 山口和洋. 2009. 熊野でみられるチョウトンボ. 三重県立熊野古道センター, 尾鷲市, 111 pp.
40. 山口和洋. 2012. 御浜町のモートンイトトンボ. ひらくら, 56(2): 50.
41. 山川昌宏. 1984. ゲンバイトンボを度会郡大宮町で採集. ひらくら, 28(5): 78-79.
42. 山本悠紀夫. 1983. 三重県におけるコサナエ属の分布. ひらくら, 28(5): 17-26.
43. 山本悠紀夫. 1991. 三重県櫛田川におけるオオサカサナエの分布と周伊勢湾地域の *Stylurus* 属サナエトンボの分布とその地史的背景. ひらくら, 35(5): 65-70.
44. 山本悠紀夫. 2004. 三重県志摩半島 (洪積統) 堆積域とその周辺に分布するトンボ. 佳香蝶, 56(219): 67-71.
45. 山本悠紀夫. 2005. 三重県伊勢市朝熊町のトンボ. 佳香蝶, 57(222): 35-39.
46. 山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明. 2009. 近畿のトンボ. ミナミヤンマクラブ, 東京, 239 pp.
47. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書. pp.119-288. 三重県自然科学研究会, 津.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・
淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他
動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献 (バッタ目・ハサミムシ目)

48. 直翅類研究グループ. 1983. 日本の直翅類 (大阪市立自然史博物館収蔵資料目録15集). 大阪市立自然史博物館, 大阪, 101 pp.
49. 古川晴男. 1948. うみべの直翅類. 新昆虫, 1(5): 8-12.
50. 橋本太郎. 1957. 私の観察記録から 伊勢市附近の昆虫季節 (続の1). 日本昆虫学会東海支部ニュース, 6: 10-12.
51. 橋本太郎. 1958. 三重県に棲息するコオロギ類の種類と分布について. ひらくら, 13: 3-11.
52. 橋本太郎・大川親雄・市橋 甫. 1973. 1955年鳥羽湾周辺の昆虫 (そのI). ひらくら, 17(11): 85-90.
53. 市橋 甫・今村 功・天春明吉・横関秀行. 1976. 篠立の風穴の昆虫類. 篠立風穴自然科学調査報告書, pp. 93-134. 藤原岳自然科学館, 藤原.
54. Ichikawa, A. 1993. Four new species of the genus *Tetrix* Latreille (Orthoptera, Tetrigidae) from Japan. *Akitu*, Kyoto, N.S., 135: 1-8.
55. 市川顕彦. 1992. 近畿地方のヒシバッタ類4. *Nature Study*, 38(6): 7-8.
56. 市川顕彦・富永修. 1992. 「近畿地方のヒシバッタ類」への追記と各種の分布図. *Nature Study*, 38(12): 3-6.
57. Ishikawa, H. 1998. A new *Parapodisma* species (Orthoptera, Acrididae, Catantopinae) from Shizuoka Prefecture Central Honshu Japan. *The Japanese Journal of Systematic Entomology*, 4(1): 173-178.
58. 磯野正次. 1940. 日本内地産コホロギ科に就いて. 三重博物, 3: 71-76.
59. 加納康嗣. 1982. 名張市周辺のみヤマフキバッタ (1). ひらくら, 26(2): 13-31.
60. 加納康嗣. 1987. 名張市周辺のみヤマフキバッタ (4). ひらくら, 31(1): 1-5.
61. Kanô, Y. 1996. A new genus of the tribe Melanoplini (Orthoptera, Acrididae) from Japan. *Tettigonia*, 1: 27-29.
62. 加納康嗣ほか. 1999. 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目. キリギリス科ヒメツコムシ亜科). *Tettigonia*, 1(2): 1-81.
63. 河北 均. 1978. スズカハダカササキリモドキ (仮称) について. *Nature Study*, 24(9): 15.
64. 河北 均. 1989. ヤマトマダラバッタを鈴鹿市で採集. ひらくら, 33(1): 15.
65. 河北 均. 1994. ヤマトマダラバッタを阿児町で採集. ひらくら, 38(2): 26.
66. 河北 均. 2000. ハマスズ紀宝町の記録. ひらくら, 44(5): 83.
67. 河北 均. 2000. コバネコロギスを志摩町で採集. ひらくら, 44(6): 98.
68. 河北 均. 2000. 直翅類. 三重県その自然と動物 (三重県その自然と動物編集委員会編), pp. 371-378. 三重県良書出版会, 津.
69. 河北 均. 2001. 飯高町明神平の直翅目2種. ひらくら, 45(1): 12.
70. 河北 均. 2010. 三重県におけるヤマトマダラバッタの分布について. ひらくら, 54(5): 73-87.
71. 河北 均. 2011. 志摩半島の直翅目. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp. 9-24. 三重昆虫談話会, 津.
72. 河北 均・中村泰. 2009. 宮川中流域におけるカワラバッタの分布について. ひらくら, 53(6): 73-87.
73. 河北 均・生川展行. 2014. クロハサミムシ大台町の記録. ひらくら, 58(1): 23.
74. 河北 均・西口恵子. 2012. 津市白塚海岸の野球場グラウンド跡のバッタ類 (2012年). 三重自然誌, 13: 65-67.
75. Kobayashi, M. 1986. A new *Parapodisma* species (Orthoptera, Acrididae) from Central Japan. *Kontyu*, 54: 513-518.
76. 松浦一郎. 1978. 日本産のコオロギ類 (4). 昆虫と自然, 13(2): 21.
77. 松浦一郎. 1985. オカメコオロギ属 (*Loxoblemmus* Orthoptera) の1新種. *New Entomol.*, 34(1/2): 11-13.
78. 三輪勇四郎. 1958. 津市を中心とした採集地めぐり. 新昆虫, 11(7): 29-31.
79. 宮武頼夫・加納康嗣編. 1992. セミ・バッタ. 保育社, 大阪, 214 pp.
80. 村井俊郎. 1971. 県内における直翅目三種の新産地. ひらくら, 15(8): 57-58.
81. 村井俊郎・河北 均. 1982. 尾鷲地域の直翅類相. 尾鷲地域野生生物調査報告書, pp. 385-408. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
82. 村井俊郎・河北 均. 2008. 鈴鹿市の直翅類. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 478-486. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
83. 中村 泰. 1993. 紀和町木津呂熊野川河原におけるカワラバッタの採集記録. ひらくら, 37(4): 77.
84. 日本直翅類学会編. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会, 札幌, 687 pp.
85. 野沢 登. 1950. 採集品同定の手引バッタの解説 (1). 新昆虫, 3(3): 25-27.
86. 大町文衛. 1939. 日本の蟋蟀. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 4: 1-12.
87. 大町文衛. 1941. 紀州に於いて発見されたる亜熱帯性直翅類昆虫. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 7: 233-241.
88. 坂部元宏. 1973. ハマスズの羽化期と性との関係. ひらくら, 17(5): 38-45.
89. 坂部元宏. 1973. 中南勢地区の海岸附近の昆虫. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 95-100. 三重県自然科学研究会, 津.
90. Shiraki, T. 1930. Orthoptera of the Japanese Empire, 1 (Gryllotalpidae and Gryllidae). *Insecta Matsumurana*, 4(4): 181-252.
91. Sugimoto, M. et A. Ichikawa. 2003. Review of Rhaphidophoridae (excluding Protrigophilinae) (Orthoptera) of Japan. *Tettigonia*, 5: 1-48.

92. 富田靖男・市橋甫. 2004. 昆虫類相. 明和町史資料編第1巻 自然・考古, pp. 195-228. 明和町, 明和.
 93. 上島法博. 1959. 飯南郡森村の直し類. ひらくら, 3(7): 89-90.
 94. 山下善平・村井俊郎. 1980. 伊勢神宮境内地の直翅類相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 227-248. 神宮司庁, 伊勢.
 95. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288, 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.

文 献 (カメムシ目)

96. 橋本太郎. 1955. 大台ヶ原・大杉谷の昆虫. 大杉谷・大台ヶ原山の自然, pp. 74-77. 大台・大杉自然科学調査団.
 97. 橋本太郎. 1958. 平倉演習林昆虫採集目録. ひらくら, 24: 135-136.
 98. 林 憲一. 1957. 伊賀のセミは. いがざさ, 5: 34p. (孔版).
 99. 林 憲一. 1959. チッチゼミを採る. いがざさ, 19: 159p. (孔版).
 100. 穂積俊文・中根敏勝・石田昇三. 1958. 続平倉演習林採集記. ひらくら, 22: 118-119.
 101. 市橋 甫. 1960. 御在所岳でチッチゼミを採集. ひらくら, 4(8): 54.
 102. 市橋 甫. 1967. マエグロハネナガウンカ御在所岳から採集. ひらくら, 11(7): 59.
 103. 市橋 甫. 1977. 御在所岳のエゾゼミについて. ひらくら, 21(2): 29.
 104. 市橋 甫. 1982. 御在所岳でエゾハルゼミを採集. ひらくら, 26(1): 1-2.
 105. 市橋 甫. 1991. 1991年鈴鹿山系のセミ類の初鳴きの記録. ひらくら, 35(5): 77.
 106. 市橋 甫. 1993. 御在所岳のエゾハルゼミの鳴き声について. ひらくら, 37(1): 14.
 107. 市橋 甫. 2004. ニシキキンカメムシを御在所岳で採集. ひらくら 48(4): 64-65.
 108. 市川 太・市橋 甫. 1999. エゾゼミの記録2例について. ひらくら, 43(5): 81.
 109. 石田和男. 2000. 雲出川下流部でネアカヨシヤンマ, エサキアメンボを採集. ひらくら, 44(4): 67.
 110. 石田和男・矢崎充彦. 2001. ホッケミズムシ・ナガミズムシ (半翅目: ミズムシ科) の採集例. ひらくら, 45(4): 154-155.
 111. 石田和男・矢崎充彦. 2002. シロウミアメンボを大王町で採集. ひらくら, 46(3): 54-55.
 112. 石田和男・矢崎充彦. 2005. 大王町船越池の水生半翅類, 水生甲虫類. ひらくら, 49(2): 17-24.
 113. 石田昇三・成瀬善一郎. 1958. 三重大学平倉演習林で観察された昆虫初見 (観) 日. ひらくら, 14: 21-22.
 114. 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇編著. 1977. 原色日本昆虫図鑑 (下), 保育社, 大阪: 385pp. 64pls.
 115. 粥見淳一. 1793. 中南勢の農耕地における昆虫の発生動向. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 101-111. 三重県自然科学研究会, 津.
 116. 川瀬英夫. 1996. 明神岳付近で採集したセミ2種. ひらくら, 40(6): 313.
 117. 桑名市教育委員会・環境科学株式会社名古屋事務所編. 2010. 桑名市指定天然記念物ヒメタイコウチ保存管理計画. 桑名市教育委員会, 桑名, 40 pp.
 118. 前川和則. 2008. ニシキキンカメムシの記録. ひらくら, 52(3): 39.
 119. 蒔田実造. 1984. ヒメタイコウチを四日市市で採集. ひらくら, 28(5): 77.
 120. 中根敏勝・石田昇三. 1958. 平倉演習林採集記. ひらくら, 2(21): 107-108.
 121. 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の一). 演習林で採った蝶とセミ. ひらくら, 3(6): 69-71
 122. 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の二). ひらくら, 3(11): 128-141.
 123. 小川隆之. 1995. 上野市法花湿地の水生昆虫調査報告. 三重自然誌, 2: 38-40.
 124. 小川隆之. 2000. 三重県海山町船越池の底生動物類. 三重自然誌, 6: 39-40.
 125. 小川隆之. 2001. 第17項 水生昆虫類. 紀勢町史 自然編, pp. 387-395. 紀勢町, 紀勢.
 126. 小川隆之. 2007. 菅島の淡水産底生動物類. 三重自然誌, 11: 41-44.
 127. 大川親雄. 1957. 三重県の異翅亜目目録. ひらくら, 10: 1-12.
 128. 大川親雄. 1958. 三重県産同翅目けいふん群目録. ひらくら, 17: 49-57.
 129. 大川親雄. 1958. 三重県にもヒメタイコウチ. ひらくら, 2(24): 143.
 130. 大川親雄. 1959. 三重県の水せい異し亜目第二報. ひらくら, 3(8/9): 109-110.
 131. 大川親雄. 1961. 半翅目. 藤原岳の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 20-23. 三岐鉄道, 四日市.
 132. 大川親雄. 1962. ほら穴採集記. ひらくら, 6(12): 130-134.
 133. 大川親雄. 1968. 平倉演習林のカメムシ類. ひらくら, 12(7): 51-57.
 134. 大川親雄. 1974. 鳥羽湾周辺地域のカメムシ類. ひらくら, 18(4): 26-32.
 135. 大川親雄. 1980. 伊勢神宮境内地の半翅目相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 249-274. 神宮司庁, 伊勢.
 136. 大川親雄. 1982. 尾鷲地域の半翅目相. 尾鷲地域野生生物調査報告書, pp. 409-426. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
 137. 大川親雄. 1986. IV. 生物. b. 動物. 8. カメムシ・セミ類 (半翅目). 大宮町史 自然編, pp. 288-301. 大宮町, 大宮.

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD

138. 大川親雄. 1996. 三重県の異翅半翅類 (A). ひらくら, 40(3): 73-264.
 139. 大川親雄. 2001. 三重県の同翅半翅類頸頭群目録. ひらくら, 45(3): 35-137.
 140. 大川親雄・河北 均. 1991. ウミアメンボを大王町で採集. ひらくら, 35(1): 15.
 141. 大町文衛・山下善平・市橋 甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 吉野熊野伊勢志摩両国立公園地域拡張調査書, pp. 189-236. 14pls. 三重県, 津.
 142. 乙部 宏. 1998. 上野市のチツゼミ. ひやくとりむし, 188: 9.
 143. 乙部 宏. 2003. 名張市のエゾゼミ. ひらくら, 47(5): 83-84.
 144. 乙部 宏. 2003. 宮川村のアカエゾゼミ. ひらくら, 47(6): 96.
 145. 坂部元宏. 1994. エゾハルゼミ飯高町蓮に分布す. ひらくら, 38(2): 23.
 146. 島地岩根・富田靖男・倉田 忠・小川隆之・山下善平・石田昇三・大川親雄・石田勝義. 1996. 上野市友生地区の昆虫相. 三重県自然科学研究会, 40 pp.
 147. 多田弘一. 1980. 1979年, 燈火に飛来したタガメの記録. ひらくら, 24(5): 81-82.
 148. 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しい昆虫. 三重博物, 3: 40-55.
 149. 富田靖男. 1974. 台高山脈北部および奥香肌峡の昆虫相. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告書. 三重県立博物館自然科学調査報告第5報: pp. 23-71.
 150. 富田靖男. 1977. 5. 松阪の動物. 松阪市史 第一巻 資料編 自然, pp. 465-636. 松阪市, 松阪.
 151. 富田靖男. 1980. ライト・トラップで調査された伊勢神宮境内地の半翅目昆虫群集. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 41-69. 神宮司庁, 伊勢.
 152. 富田靖男. 2004. カメムシ目・付編2昆虫目録カメムシ目. 上野市史 自然編 第5章 昆虫 第4節, pp. 684-687, 887-904. 上野市, 上野.
 153. 富田靖男. 2005. 上野市史自然編に記載したコオイムシ類について. ひらくら, 49(3): 54.
 154. 富田靖男. 2006. 熊野灘沿岸の半翅目昆虫相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 30-62. 三重昆虫談話会, 津.
 155. 富田靖男. 2007. 答志島・菅島・神島の半翅目昆虫の記録. 三重自然誌, 11: 72-74.
 156. 富田靖男. 2008. 第8節 鈴鹿市のカメムシ目. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 494-524. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
 157. 富田靖男. 2008. 四季の里の観察会. 三重動物学会会報, 31: 7-9.
 158. 富田靖男. 2008. 明和町の半翅目昆虫. ひらくら, 52(5): 69-83.
 159. 富田靖男. 2010. 第5節 亀山市の半翅目昆虫. 亀山市史 自然編, pp. 771-808. 亀山市, 亀山.
 160. 富田靖男. 2011. 鳥羽市・志摩市の半翅目昆虫相. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp. 34-65. 三重昆虫談話会, 津.
 161. 富田靖男. 2012. 津市域における半翅目昆虫の記録. 三重自然誌, 13: 68-75.
 162. 富田靖男・富田 傑. 2001. 第1編. 第3章. 勢和の動物. 勢和村史, pp. 54-177. 勢和村, 勢和.
 163. 刀根定良・八木孝彦. 1997. 大安町でコバンムシを採集. ひらくら, 41(4): 63.
 164. 戸澤信義. 1955. 大台・大杉の昆虫 序説. 大杉谷・大台ヶ原山の自然. pp. 32-37. 大台・大杉自然科学調査団.
 165. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
 166. 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査および影響評価報告書, pp. 189-301. 三重県自然科学研究会, 津.
 167. 矢崎充彦・石田和男. 2001. 度会郡南勢町で採集した注目すべき水生半翅類. ひらくら, 45(2): 29.
 168. 矢崎充彦・石田和男. 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60: 165-200.

文 献 (アミメカゲロウ目・ヘビトンボ目)

169. 石田昇三. 1990. 広翅・脈翅・長翅類. 四日市市史 第1巻 史料編 自然. pp.354-356. 四日市市, 四日市.
 170. 三輪勇四郎・大川親雄. 1958. 三重県の脈翅目. ひらくら, 2(18): 63-65.
 171. 森田久幸. 2013. ヤマトセンブリの記録. ひらくら, 57(2): 44.
 172. 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の二). ひらくら, 3(10/11): 128-141.
 173. 奥田貞助. 1998. コマダラウスバカゲロウの繭作り. ひらくら, 42(3): 35-39.
 174. 奥田貞助. 2003. オオウスバカゲロウの飼育と羽化. 自然誌だより, 55: 3-5.
 175. 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しい昆虫. 三重博物, 3: 40-55.
 176. 富田靖男. 2004. 第5節アミメカゲロウ目, シリアゲムシ目ならびにハエ目. 上野市史 自然編 第5章 昆虫, pp.688-689, p.905-908. 上野市, 上野.
 177. 富田靖男. 2006. 熊野灘沿岸の半翅目昆虫相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会編), pp. 30-62. 三重昆虫談話会, 津.
 178. 富田靖男. 2008. 第8節 鈴鹿市のカメムシ目. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境

政策課 編), pp. 494-524. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.

179. 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島臨海地域および島嶼の昆虫相. 紀伊長島町, 108pp.
180. 富田靖男・島地岩根. 1980. ライトトラップ法で調査された伊勢神宮境内地のチャタテムシ目, 脈翅目ならびに長翅目昆虫群集. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 71-91. 神宮司庁, 伊勢.
181. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
182. 山下善平・大川親雄・島地岩根・市橋 甫・村井俊郎・橋本理市・富田靖男・坂部元宏・中西元男・倉田 忠. 1972. 大杉谷および大台ヶ原山の昆虫ならびに樹上クモ類相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書, pp. 195-285. 9pls. 三重県自然科学研究会, 津.
183. 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査および影響評価報告書, pp. 189-301. 三重県自然科学研究会, 津.

文 献 (コウチュウ目)

184. 秋田勝己. 1984. 二見ヶ浦のオオヒョウタンゴムシ. ひらくら, 28(2): 24.
185. 秋田勝己. 1987. 美杉村平倉のトゲフタオタマムシ. ひらくら, 31(3): 45.
186. 秋田勝己. 1990. 赤目渓谷でセダカテントウダマシを採集. ひらくら, 34(6): 160.
187. 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (1). ひらくら, 39(1): 1-11.
188. 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (2). ひらくら, 39(2): 17-29.
189. 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (3). ひらくら, 39(3): 35-44.
190. 秋田勝己. 1996. 紀伊半島のキンモンナガタマムシ. 月刊むし, 310: 20.
191. 秋田勝己. 1997. 三重県のフタスジゴマフカミキリ. 月刊むし, 314: 37.
192. 秋田勝己. 1999. 三重県のオオトラカミキリ. 月刊むし, 341: 42.
193. 秋田勝己. 2001. 羽毛トラップにきたコブナシコブスジコガネ. 鯉角通信, 3: 58.
194. 秋田勝己. 2006. 三重県版レッドデータブック調査対象甲虫の記録. ひらくら, 50(3): 33-46.
195. 秋田勝己. 2008. 志摩市大王町船越池のゲンゴロウ類と捕食性外来動物について. 甲虫ニュース, 162: 31-34.
196. 秋田勝己. 2008. セスジマルドロムシの再発見. 甲虫ニュース, 164: 14-15.
197. 秋田勝己. 2012. 三重県でオオサカスジコガネを採集. 鯉角通信, 25: 44.
198. 秋田勝己. 2004. 三重県のミヤマオオハナムグリとムラサキツヤハナムグリ. ひらくら, 48(3): 47-48.
199. 秋田勝己・久保田耕平. 1985. クロカタピロオサムシを美杉村で採集. ひらくら, 29(5): 78.
200. 秋田勝己・森正人. 2011. クロシオガムシの本州における記録. さやばねニューシリーズ, 3:30-31.
201. 秋田勝己・締次美穂. 2011. キバネキバナガミズギワゴムシの生態観察例. さやばねニューシリーズ, 4: 12-14.
202. 秋田勝己・天満智憲. 1999. サツマヒメコバネカミキリ本州に産す. 月刊むし, 343: 43.
203. 浅野 隆・小山幸伯. 2001. 海山町のミヤマダイコクコガネ. ひらくら, 45(29): 24.
204. 馬場金太郎・佐藤正孝. 1962. 三重県南部の水棲甲虫類. ひらくら, 6(1): 1-3.
205. Balfour-Browne, J. et Satô, M. 1962. On the Japanese species of the genus *Hydrochus* Leach (Coleoptera Hydrophilidae). *Nipponius*, 1(19): 1-6.
206. Chujo et Morimoto. 1959. Curculionid-Beetles of Niigata Prefecture Collected by Dr. K. Baba (2nd report). *Kontyu*, 27: 146-155.
207. Chujo, M. et Voss. 1960. Neue Curculioniden-subfamilie gattungen und arten von Japan (Coleoptera, Curculionidae). *Mem. Fac. Liberal Art & Educ. Kagawa Univ.* II. 94: 1-17.
208. 藤原 均. 1993. 奈良県曾爾高原でヒメピロウドカミキリを採集. 月刊むし, 270: 40-41.
209. 藤岡昌介. 2001. 日本産コガネムシ上科総目録, コガネムシ研究会, 東京, 264 pp.
210. 後藤光男. 1961. 藤原岳の昆虫. 三岐鉄道, 四日市, 87 pp.
211. 春沢圭太郎. 1968. 古和谷 (尾鷲市) の甲虫類. ひらくら, 12(10): 75-76.
212. 長谷川道明・穂積俊文・川瀬英夫. 1993. カスリチビカミキリについての分類学的知見. 豊橋市自然史博研報, 3: 21-26.
213. 長谷川道明・桜丘高等学校生物部. 2014. 神島で確認されたシロヘリハンミョウ. 豊橋自然史博物館研報, 24: 31-32.
214. 橋本太郎. 1958. 平倉演習林昆虫目録. ひらくら, 2(23): 135-138.
215. 橋本太郎. 1960. 昆虫. 神宮宮城産生物目録Ⅶ, pp. 1-58. 神宮徴古館農業館, 伊勢.
216. 橋本太郎・大川親雄・市橋 甫. 1974. 1955年採集鳥羽湾周辺の昆虫 (そのII). ひらくら, 18(6): 43-51.
217. 林 秀雄. 1962. 三重県におけるテントウムシダマシ科の越冬について (越冬甲虫その1). ひらくら, 6(6): 73.
218. 林 秀雄. 1964. 大台ヶ原で採集したカミキリムシについて. ひらくら, 8(12): 107.
219. 林 秀雄. 1967. 赤目地域の甲虫類. ひらくら, 11(3): 19-32.
220. 林 匡夫. 1955. 大台ヶ原山・大杉谷の甲虫類. 大杉谷・大台ヶ原山の自然, pp. 38-59. 大台・大杉自然科学調査団.

221. 林 匡夫. 1955. 原色日本昆虫図鑑 (上) 甲虫編 (日本甲虫学会編), p. 166. 保育社, 大阪.
222. 林 匡夫. 1960. オオルリハムシを青山高原にとる. 昆虫学評論, 11(2): 70.
223. 林 匡夫・森本 桂・木元新作編著. 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV), 保育社. 大阪: 438pp.
224. 林 成多. 2004. 総説・日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告第7号, pp. 29-126. ホシザキグリーン財団. 島根.
225. 樋尾信也・篠木善重・尾崎美香・市橋 甫・前川和則・生川展行. 2009. 鈴鹿川流域の甲虫類. 鈴鹿川流域自然環境調査報告書, pp. 70-106. 鈴鹿市.
226. Hirasawa, H. 1987. オオヒラチャイロコガネの変異と新種記載を含むその近縁種・チャイロコガネ属の覚え書き I. *Lamellicornia*, 3: 11-20.
227. 広瀬正則. 1983. フタコブルリハナカミキリの採集記録. ひらくら, 27(6): 99.
228. 穂積俊文. 1952. 中部東海地方産天牛科目録. 佳香蝶, 4(19): 1-25.
229. 穂積俊文. 1960. 香良洲付近の雲出川原で採集したゴミムシについて. ひらくら, 4(12):90.
230. 穂積俊文・中根敏勝・石田昇三. 1958. 続平倉演習林採集記. ひらくら, 2(22): 118-119.
231. 市橋 甫. 1955. 三重大学農学部演習林の甲虫について (1955年の採集品より). 日本昆虫学会東海支部ニューズ, 4: 8-13.
232. 市橋 甫. 1958. 小岐須谷にもミヤマダイコクコガネ産する. ひらくら, 2(11): 129.
233. 市橋 甫. 1959. アイヌハンミョウの新産地. ひらくら, 3(5):62.
234. 市橋 甫. 1960. 御在所岳のミヤマダイコクコガネ. ひらくら, 4(7): 49.
235. 市橋甫. 1963. 大台ヶ原山. 大杉谷の珍しい甲虫2種. ひらくら, 7(9): 71-72.
236. 市橋甫. 1969. 三重県から未記録のオカモトツヤアナハネムシ. ひらくら, 13(12): 115.
237. 市橋甫. 1973. 津海岸のハマベゾウムシについて. ひらくら, 7(10): 79-83.
238. 市橋 甫. 1973. 津海岸をタイプロカリティの一つとするハマベゾウムシ. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp.116-117. 三重県自然科学研究会, 津.
239. 市橋甫. 1984. 四日市市内でホソハンミョウを採集. ひらくら, 28(5): 75.
240. 市橋甫. 1992. 三重県のミツギリゾウムシの記録と分布. ひらくら, 30(5): 76-78.
241. 市橋甫. 1996. 平倉演習林の思い出. ひらくら, 40(1): 2-4.
242. 市橋 甫. 1986. 石灰洞とそこに生息する動物. 大宮町史 自然編, pp.513-525. 大宮町, 大宮.
243. 市橋 甫. 1995. 御在所岳のオオダイセマダラコガネの大発生. ひらくら, 39(5): 77.
244. 市橋 甫. 1996. 多気郡宮川村からオカモトツヤアナハネムシを採集. ひらくら, 40(6): 304-305.
245. 市橋 甫. 1997. 1957「三重県の食糞コガネムシ」の食糞コガネムシの記録について. ひらくら, 41(3): 33-40.
246. 市橋 甫. 1997. リュイスヒゲボソゾウムシを宮川村で採集. ひらくら, 41(4): 56.
247. 市橋 甫. 1999. コクロオバポタル三重県から二番目の記録. ひらくら, 43(6): 87.
248. 市橋 甫. 2005. カワラゴミムシの採集記録. ひらくら, 49(3): 53.
249. 市橋 甫・赤塚敬一. 1959. オオヒョウタンゴミムシの発見. ひらくら, 3(3): 71.
250. 市橋 甫・天春明吉. 1980. 三重県南部の石灰洞から記載された3種の新しいメクラチビゴミムシ. ひらくら, 24(4): 65-67.
251. 市橋 甫・天春明吉. 1982. 伊勢神宮境内地の石灰洞に生息する節足動物. 神宮境内地昆虫調査報告, pp. 425-446. pls.2. 神宮司庁, 伊勢.
252. 市橋 甫・天春明吉. 1984. 四日市の昆虫の記録(4). 四日市の昆虫, 1(4): 26-30.
253. 市橋 甫・天春明吉. 1989. 四日市市周辺の海岸の冬の甲虫類. ひらくら, 33(1):1-3.
254. 市橋甫・天春明吉. 1995. ヒメシマチビゲンゴロウの記録と種名の訂正について. ひらくら, 39(6): 93-94.
255. 市橋甫・天春明吉・官能健次・市川太. 1999. 三重県北部のテントウムシ2種の記録. ひらくら, 43(2): 32.
256. 市橋 甫・天春明吉・生川展行・横関秀行. 2001. 鈴鹿郡関町の昆虫. 三重のむし, 5(1): 2-25.
257. 市橋 甫・天春明吉・清水 実. 1984. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域内の石灰洞及び鉾山跡洞穴に生息する節足動物. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域自然科学調査報告書, pp. 209-279. 藤原岳自然科学館, 藤原.
258. 市橋甫・天春明吉・横関秀行. 1996. 三重県の記録の少ない数種のカミキリムシ. ひらくら, 40(4): 277.
259. 市橋甫・天春明吉・横関秀行・川添昭夫・生川展行・中西元男・間野隆裕・森田久幸・官能健次・市川太. 2000. 員弁郡の昆虫類. 三重県環境保全事業団. 研究報告, 5: 67-117.
260. 市橋 甫・天春明吉・横関秀行・中西元男. 2000. 三重県海山町船越池の甲虫類. 三重自然誌, 6: 33-35.
261. 市橋甫・今村功・天春明吉・横関秀行. 1976. 篠立の風穴の昆虫類. 篠立風穴自然科学学術報告書, pp. 93-134.
262. 市橋 甫・今村隆一・天春明吉・横関秀行・中西元男. 2001. 鳥羽市菅島の甲虫類 (附トンボ, カメムシ, ハエ目リスト含む). 三重自然誌, 7: 29-41.
263. 市橋甫・川原 誠・前川和則・生川展行. 1982. 尾鷲地域の甲虫類. 尾鷲地域野生生物調査報告書, pp. 505-547. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
264. 市橋甫・的場孝郎・大川親雄. 1958. 大杉谷・大台ヶ原の甲虫類. 大杉大台ヶ原自然科学調査展示資料目録並びに調査報告, 1: 11-23.
265. 市橋甫・的場孝郎・大川親雄. 1959. 三重県産ハンミョウ科目録. ひらくら, 3(4): 44-45.
266. 市橋甫・中西元男・川添昭夫・天春明吉・横関秀行. 1992. 鳥羽市神島の昆虫. ひらくら, 36(4): 51-65.
267. 市橋甫・生川展行. 1986. 動物・甲虫類 (鞘翅目). 大宮町史. 自然編, pp.394-428. 大宮町, 大宮.

268. 市橋甫・生川展行. 1993. 伊勢市朝熊町（世界祝祭博覧会予定地）で採集された甲虫. ひらくら, 37(2): 17-29.
269. 市橋甫・生川展行・天春明吉. 1985. 三重県の記録の少ない甲虫. ひらくら, 29(3): 35-48.
270. 市橋甫・生川展行・天春明吉・官能健次・横関秀行. 2001. 第11章. 昆虫類（コウチュウ目）. 紀勢町史 自然編, pp. 247-312. 紀勢町, 紀勢.
271. 市橋甫・生川展行・天春明吉・中西元男・官能健次・市川太. 2003. 楠町吉崎海岸の昆虫. ひらくら, 47(5): 69-82.
272. 市橋甫・生川展行・天春明吉・横関秀行・官能健次・市川太. 2004. 第5章コウチュウ目付編2昆虫目録コウチュウ目. 上野市史 自然編: pp.689-978. 上野市, 上野.
273. 市橋甫・生川展行・横関秀行・秋田勝己・今村隆一・乙部宏. 1999. 南勢町押淵の甲虫類. 三重自然誌, 5:33-42.
274. 市橋甫・刀根定良・中西元男・生川展行. 1997. I-6 松名瀬海岸の昆虫. みえの生物定点調査報告書, pp.19-25. 三重自然誌の会, 津.
275. 市橋 甫・横関秀行・天春明吉・市川 太・稲垣政志・稲垣順子・官能健次. 2005. 集中豪雨により津市白塚に打ち上げられたゴミムシ類. ひらくら, 49(1): 1-9.
276. 伊賀市環境保全市民会議. 2006. 伊賀のレッドデータブック～伊賀の希少動植物～. 伊賀市, 伊賀. 242pp.
277. Ikeda H., Kagaya T., Kubota K. and Abe T. 2008. Evolutionary relationships among food habit, loss of flight, and reproductive traits: Life history evolution in the Silphinae (Coleoptera: Silphidae). *Evolution*, 62: 2065-2079.
278. Ikeda H., Kubota K., Cho Y.-B., Lian H. and Sota T. 2009. Different phylogeographic patterns in two *Silpha* species (Coleoptera: Silphidae) affected by climatic gradients and topography. *Biological Journal of the Linnean Society*, 98: 452-467.
279. 今村隆一. 1989. 宮川村父ヶ谷における甲虫（タマムシ, カミキリムシ, ゴウムシ）. ひらくら, 33(2): 28-30.
280. 今村隆一. 1989. 三重県で記録されたカミキリムシ2種. ひらくら, 33(4): 60-61.
281. 今村隆一. 2004. 嬉野町の昆虫類（甲虫）, 嬉野町昆虫類甲虫目録. 嬉野町史自然編, pp. 421-431.
282. 今村隆一・市橋 甫. 2007. 鳥羽市答志島の甲虫類（バッタ目・カメムシ目・ハチ目を含む）. 三重自然誌, 11: 45-57.
283. 今村隆一・市橋 甫・乙部 宏. 2009. 大台ヶ原地域の甲虫類. 三重自然誌, 12: 57-71.
284. Imura Y. (2004) An isolated new subspecies of *Ohomopterus yamato* (Coleoptera, Carabidae) discovered from the southeastern part of the Kii Peninsula. *Elytra*, 32: 3-4.
285. 稲垣順子. 2000. 野登山でムナコブハナカミキリを採集. ひらくら, 44(5)(366): 80.
286. 稲垣政志. 2000. アイヌコブスジコガネの2採集例. ひらくら, 44(6): 87.
287. 稲垣政志. 2002. FITに落ちた鈴鹿山脈の糞虫～1年間の経時的調査結果～. 鯉角通信, 5: 29-34.
288. 稲垣政志. 2003. 南部照葉樹林におけるアイヌコブスジコガネの記録. ひらくら, 47(5): 83.
289. 稲垣政志. 2003. 迷岳でムツコブスジコガネを採集. ひらくら, 47(4): 67.
290. 稲垣政志. 2004. ミヤマオオハナムグリを迷岳にて採集. ひらくら, 48(1): 8.
291. 稲垣政志. 2004. 三重県南部地域の食糞性コガネムシ類の季節推移について. 鯉角通信, 9: 25-34.
292. 稲垣政志. 2004. 尾鷲市のマルエンマコガネ. ひらくら, 48(5): 75.
293. 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のコツヤマグソコガネ. ひらくら, 49(4): 61.
294. 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のヌバタママグソコガネ. ひらくら, 49(4): 60.
295. 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のピロウドコガネ族. ひらくら, 49(1): 10-11.
296. 稲垣政志. 2006. 菰野町のヒメキイロマグソコガネ. ひらくら, 50(1): 4.
297. 稲垣政志. 2008. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakane の生態について（続報）. 鯉角通信, 16: 33-35.
298. 稲垣政志. 2013. 三重県でマルエンマコガネを採集. 鯉角通信, 26: 93-94.
299. 稲垣政志・市橋 甫・天春明吉・横関秀行・稲垣順子. 2008. 篠立の風穴の甲虫類. 第二次篠立の風穴自然科学調査報告書, pp. 91-97.
300. 稲垣政志・市川太. 2009. ヒメコエンマコガネの尾鷲市での記録. ひらくら, 53(5): 118.
301. 稲垣政志・稲垣信吾. 2007. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakane の生態について. 鯉角通信, 15: 7-10.
302. 稲垣政志・前川和則. 2003. コスジマグソコガネを勢和村で採集. ひらくら, 47(3): 46.
303. 稲垣政志・生川展行. 2013. 藤原町・菰野町でコツヤマグソコガネを採集. ひらくら, 57(3): 67-68.
304. 稲垣政志・横関秀行. 2011. 津市美杉町にてアイヌシマグソコガネを採集. ひらくら, 55(3): 68.
305. 稲垣政志・横関秀行. 2013. 藤原町でコブナシコブスジコガネを採集. ひらくら, 57(2): 41-42.
306. 石田和男. 2001. 雲出川河川敷でマダラコガシラミズムシを採集. ひらくら, 45(2): 28.
307. 石田和男・矢崎充彦. 2002. 上野市法花で採集した注目すべき水生昆虫類. ひらくら, 46(2): 30.
308. 石田和男・矢崎充彦. 2005. 大王町船越池の水生半翅類. 水生甲虫類. ひらくら, 49(2): 17-24.
309. 石田昇三. 1980. 名四国道で採れたオオクワガタ. ひらくら, 9(8): 125.
310. 石田昇三・市橋 甫・大川親雄・中根敏勝・成瀬善一郎・的場孝郎. 1959. 紀北・紀南調査会採集記. ひらくら, 3(1): 4-16.
311. 石田昇三・成瀬善一郎. 1957. 雲出川上流水棲昆虫採集記. ひらくら, 8: 1-4.
312. 石川 均・新井真. 2004. アカマダラハナムグリの一生態について. 甲虫ニュース, 148: 13.
313. Ishikawa, R. and K. Kubota. 1994. Geographical races of *Carabus maiyasanus* Bates and *C. arrowianus*

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- (Breuning) in Honshu, Japan. at tentative revision (Coleoptera, Carabidae). Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 49: 105 128.
314. Ishikawa, R. and K. Kubota. 1995. Geographical races of *Carabus iwawakianus* (Nakane) in Honshu, Japan. at tentative revision (Coleoptera, Carabidae). Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 50: 39 50.
315. 梶田 治. 1967. 平倉演習林とその附近で採集した甲虫2種. ひらくら, 11(12): 95.
316. 鎌苅哲二. 1982. 奈良県大台ヶ原山におけるクロソンホソハナカミキリの採集例. 月刊むし, 139: 30.
317. Kamiya, H. 1966. On the Coccinellidae attacking the scale insects and mites in Japan and the Ryukyus. Mushi, 39: 65 93.
318. 神吉正雄・石川延寛. 2014. 関西でクロカタビロオサムシ大発生(1). 昆虫と自然, 49(10): 28 33.
319. 金井直樹・堀口徹. 2005. クロモンマグソコガネの採集と生息状況. 鯉角通信, 10: 7 10.
320. 蟹江昇・横関秀行・生川展行. 1996. フタスジカタビロハナカミキリの採集例. ひらくら, 40(1): 13.
321. 官能健次. 2003. 迷岳でホソクリタマムシを採集. ひらくら, 47(2): 32.
322. 官能健次・生川展行. 1996. 鈴鹿山脈でヘリハネムシを採集. ひらくら, 40(5): 298.
323. 加藤敦史・水野弘造・岩田隆太郎. 1995. 奈良県のカミキリムシ. 関西甲虫談話会資料, 10: 1 140.
324. 粥見惇一. 1973. 中南勢の農耕地における昆虫の発生動向. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 101 111. 三重県自然科学研究会, 津.
325. 川原誠. 1980. ヒメヨツズジハナカミキリを尾鷲市で採集. ひらくら, 24(5): 79 80.
326. 川原誠. 1980. 津市とその周辺のカミキリムシ (6). ひらくら, 24(5): 77 79.
327. 川原誠. 1982. 三重県未記録のカミキリムシ2種の羽脱例. ひらくら, 26(2): 31 32.
328. 川原 誠・後藤 勇・中西元男. 1980. ひらくら採集会採集品. ひらくら, 24(1): 11 13.
329. 川原誠・大川親雄. 1981. 三重県のカミキリムシ. ひらくら, 25(1): 1 53.
330. 川井信矢・掘 繁久・河原正和・稲垣政志. 2005. 日本産コガネムシ上科図説第1巻食糞群. 昆虫文献六本脚, 東京, 189 pp.
331. 河路掛吾. 1980. セアカオサムシの採集一例. ひらくら, 24(5): 74 75.
332. 河路掛吾. 1988. 石樽峠でオオチャイロハナムグリを採集. ひらくら, 32(3): 41.
333. 河路掛吾. 1989. トゲフタオタマムシの羽脱記録. ひらくら, 33(3): 49.
334. 河路掛吾. 1989. 石樽峠の枯れ枝より羽脱したカミキリムシ. ひらくら, 33(4): 56 59.
335. 河路掛吾. 1991. 平倉採集会で得た材より羽脱したカミキリムシ. ひらくら, 35(2): 21 24.
336. 川瀬英夫. 1992. カミキリムシ数種の採集記録. ひらくら, 36(5): 80 81.
337. 川瀬英夫. 1994. チャマルチビヒョウタンゴミムシの採集記録. ひらくら, 38(5): 102.
338. 川瀬英夫. 1996. スゲ類で得たヒメゾウムシ亜科2種の採集記録. ひらくら, 40(4): 278 279.
339. 川瀬英夫. 1997. 熊野. 尾鷲市沿岸で採集したゾウムシ類. ひらくら, 41(4): 49 56.
340. 川瀬英夫. 1998. 秋のヨシ原に多かった甲虫について. ひらくら, 42(5): 81.
341. 川瀬英夫. 1998. 明神岳でオオクボカミキリを採集. ひらくら, 42(2): 33.
342. 川瀬英夫. 2001. 1993年平倉採集会での昆虫3種. ひらくら, 45(5): 166.
343. 木元達之助. 2004. クチキムシ亜科甲虫の分布記録. 甲虫ニュース, 145: 7 14.
344. 近畿オサムシ研究グループ. 1979. 近畿地方のオサムシ. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第11集. 大阪自然史博物館, 大阪, 83pp.
345. 桐山 功. 2000. 三重県産ジョウカイボン科の記録. ひらくら, 44(1): 1 8.
346. 岸井尚. 2001. 三重県産コメツキムシの記録 (8) 横関秀行氏の蒐集資料について. ねじればね, 95: 9 12.
347. 北山昭・森正人. 1992. マダラシマゲンゴロウの近年の採集例. 月刊むし, 255: 38.
348. 小林裕和・藤岡昌介. 2008. 日本産チャイロコガネ属 (コフキコガネ亜科ピロウドコガネ族)について. Kogane Supplement, 2:35 76.
349. 小林伸郎. 1966. クロカタビロオサムシを津で採集. ひらくら, 10(11): 98.
350. 窪木幹夫. 1984. イヨヒメハナカミキリ三重県下の記録. ひらくら, 28(2): 17.
351. 窪木幹夫. 2000. 大台ヶ原山からオオミネヒメハナカミキリを採集. 甲虫ニュース, 129: 12.
352. 久保田耕平. 1996. ホソハンミョウを鈴鹿市内で採集. ひらくら, 40(4): 280.
353. Kubota K., Kubota N., Akita K. and Otobe H. 2007. The easternmost record of *Figulus punctatus* (Coleoptera, Lucanidae) in Honshu and its host woody materials. Biogeography, 9: 77 82.
354. Kubota K., Nagahata Y., Ikeda H., Kubota N., Otobe H. and Umetsu K. 2011. Diversification process of stag beetles belonging to the genus *Platycerus* Geoffroy (Coleoptera: Lucanidae) in Japan based on nuclear and mitochondrial genes. Entomological Science, 14: 411 427.
355. Kubota, K. et K. Yahiro. 2003. Description of an isolated and specialized population of *Carabus arrowianus* (Breuning, 1934) (Coleoptera, Carabidae) discovered in the southernmost part of Mie Prefecture, Japan, as a new subspecies, with analyses of its morphological features. Biogeography, 5: 9 15.
356. 工藤雄太. 2013. ず〜っと, 水の中でも大丈夫!? キボシチビコツブゲンゴロウのなぞ. 北九州市立いのちのたび博物館 特別展「世界の昆虫展」内 大微小種展 GUIDE BOOK. pp.60 61.
357. 倉田 忠. 1969. 経ヶ峰オサ掘り報告. ひらくら, 13(6): 64.

358. 倉田忠. 1970. ミヤマダイコクコガネを野登山で採る. ひらくら, 14(10): 89.
359. Kurosawa, Y., 1963. Buprestid-fauna of eastern Asia, (Coleoptra)(5). Bull. natn. Sci. Mus., 6(2):90-111.
360. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ), 保育社, 大阪, 500 pp.
361. 草間慶一・高桑正敏・窪木幹夫・小宮次郎・榎原寛・大林延夫. 1984. 日本鞘翅目学会(編)日本産カミキリ大図鑑, 講談社, 東京, 565 pp.+96pl.
362. 前川和則. 1981. 津市栗真海岸で得たオオヒョウタンゴミムシ. ひらくら, 25(2): 63.
363. 榎原寛ほか. 2004. ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, 148: 21-23.
364. 蒔田実造. 1997. 湯ノ山のムナコブハナカミキリ. ひらくら, 41(5): 79.
365. 蒔田実造. 1999. 美杉村でオオキノコムシを採集. ひらくら, 43(1): 8.
366. 蒔田実造・生川展行. 1983. セアカオサムシの新産地. ひらくら, 27(4): 70-71.
367. 的場孝郎. 1956. 三重県における珍しい甲虫二種. 日本昆虫学会東海支部ニュース, 5: 6.
368. 的場孝郎. 1960. 阿漕浦海岸の甲虫(鞘翅目) I. ひらくら, 4(1): 34
369. 的場孝郎. 1960. 三重県産のシデムシ科甲虫. ひらくら, 4(8): 56-58.
370. 的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・市橋甫. 1959. 飯南郡森村付近のクワガタムシ・コガネムシ. ひらくら, 3(3): 31-32.
371. 的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・市橋甫. 1959. 飯南郡森村付近の飽食亜目甲虫類. ひらくら, 3(4): 41-43.
372. 的場孝郎・中根敏勝・成瀬喜一郎・市橋甫. 1959. 飯南郡森村付近の甲虫類(六). ひらくら, 3(8/9): 91-99.
373. 松井弘見. 1984. セアカオサムシの一記録. ひらくら, 28(1): 7.
374. 松井弘見. 1984. アイヌハンミョウの採集記録. ひらくら, 28(5): 75-76.
375. 松井弘見. 1984. アオヘリアオゴミムシ津市の記録. ひらくら, 28(5): 76.
376. 松井弘見. 1984. シラフチビサビキコリを津市で記録. ひらくら, 28(5): 77-78.
377. 松井弘見. 1984. 津市長谷山のコガネムシの記録2題. ひらくら, 28(1): 7.
378. 松井弘見. 1984. 四日市のゴミムシ科甲虫若干の記録. 四日市の昆虫, 1(3): 21.
379. 三重県. 2001. 中勢沿岸下水道(志登茂川処理区)浄化センター設置に伴うカワラハンミョウ(幼虫)生息場所調査報告書.
380. 三重県. 2014. 中勢沿岸下水道(志登茂川処理区)浄化センター設置に伴う工事中における事後調査報告書.
381. 三重自然誌の会編. 1995. 自然のレッドデータブック・三重. 三重県教育文化研究所, 津, 183 pp.
382. 南敏行(2014)伊賀市岡波でクロカタピロオサムシを採集. ひらくら, 58(1):18.
383. 水田國雄. 2002. キマダラマダゴソコガネ三重県大台町で採集される. 鯉角通信, 5: 22.
384. 森 正人・北山 昭. 1993. 図説 日本のゲンゴロウ. 文一総合出版社, 東京, 217pp.
385. 森 正人・北山 昭. 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ, 文一総合出版, 東京, 223 pp.
386. Morimoto, K. 1962. Revision of the Subfamily Curculionidae from Japan II (Coleoptera). Mushi, 36(4): 21-39 + pl.6.
387. Morimoto K, H. Kojima & S. Miyakawa. 2006. The Insects of Japan 3. 日本昆虫学会, 406pp.
388. 森田誠司. 1975. ウミホソチビゴミムシの新産地. 甲虫ニュース, 29/30:5.
389. Morita, S. 1989. A new *Apatrobus* (Coleoptera, Carabidae) from the Suzuka Mountain Range. Central Japan. Elytra, 17(2): 143-146.
390. Morita, S. 2004. A New *Pterostichus* (Coleoptera, Carabidae) from the Suzuka Mountains. Central Japan. Elytra, 32(1): 29-33.
391. 村木武則. 1992. 各種甲虫類の記録. ひらくら, 36(1): 14.
392. Nagata N., Kubota K., Takami Y. and Sota T. 2009. Historical divergence of mechanical isolation agents in the ground beetle *Carabus arrowianus* as revealed by phylogeographic analyses. Molecular Ecology, 18: 1408-1421.
393. Nakane, T. 1956. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XIII. Sic. Rep. Saikyo Univ. (Nat. Sic. & Liv. Sic.), 2(3): 29-44.
394. 中根猛彦. 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆蟲, 32(2): 61-67.
395. Nakane, T. 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XX. Fragm. Coleopt., 8: 31-40.
396. Nakane, T. 1969. Lycidae. In Fauna Japonica, pp. 1-224, Pl.8.
397. 中根敏勝・石田昇三. 1958. 平倉演習林採集記. ひらくら, 2(21): 107-108.
398. Nakane, T. et K. Ohbayashi. 1949. Description of a new species of the genus *Lucidina* from Japan (Coleoptera, Lampyridae). Entom. Rev. Japan. 1(2): 34-35.
399. 中西智恵美. 1985. セアカオサムシ・エゾカタピロオサムシを北勢町で採集. ひらくら, 29(6): 86.
400. 中野 東. 1965. 赤目甲虫採集目録. ひらくら, 9(11): 143-149.
401. 中谷和夫. 1959. カミキリ数種の採集記録. ひらくら, 3(8/9): 100.
402. 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録(其の二). ひらくら, 3(10/11): 128-141
403. 中谷和夫. 1960. クロサワヒメコバネカミキリ平倉に産す. ひらくら, 4(9): 63-64
404. 中谷和夫. 1961. 平倉演習林で新しく確認した鞘翅目. ひらくら, 5(1): 1-4.
405. 生川展行. 1981. ヒサゴゴミムシダマシ鈴鹿山脈に産す. ひらくら, 25(6): 108.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD

406. 生川展行. 1982. 鈴鹿市千代崎海岸の甲虫. ひらくら, 26(5): 57-60.
 407. 生川展行. 1983. 三重県から未記録のゴミムシダマシ. ひらくら, 27(1): 11.
 408. 生川展行. 1986. 三重県未記録のタケウチヒゲナガコバネカミキリを採集. ひらくら,
 409. 生川展行. 1987. 三重県内で得たオオキノコムシの記録. ひらくら, 31(1): 8-11.
 410. 生川展行. 1987. 紀伊長島町で得られた注目すべき甲虫2種. ひらくら, 31(5): 78-80.
 411. 生川展行. 1988. 三重県のテントウダマシ科 (主に文献記録のまとめ). ひらくら, 32(2): 17-24.
 412. 生川展行. 1990. 鈴鹿山脈北部で得た食糞コガネ. ひらくら, 34(4): 64-65.
 413. 生川展行. 1992. 大川親雄氏採集のアリモドキ・ニセクビボソムシ. ひらくら, 36(5): 79-80.
 414. 生川展行. 1993. 三重県のゴミムシダマシ (主に文献記録のまとめ). ひらくら, 37(3): 35-61.
 415. 生川展行. 1995. 三重県初記録のルリキオビジョウカイモドキ. ひらくら, 39(5): 73.
 416. 生川展行. 1995. 1993年~1994年に採集した興味深い甲虫. ひらくら, 39(6): 85-88.
 417. 生川展行. 1997. アバタツヤナガヒラタホソカタムシを三重県で採集. ねじればね, 76: 4-5.
 418. 生川展行. 1997. アリモドキ科2種の記録. ひらくら, 41(6): 90.
 419. 生川展行. 2000. アバタツヤナガヒラタホソカタムシの採集記録. ねじればね, 86: 7-8.
 420. 生川展行. 2000. ホソカタムシの記録若干. 北九州の昆虫, 47(1): 4, pl. 2.
 421. 生川展行. 2000. 興味深い甲虫3種の記録. ひらくら, 44(3): 45.
 422. 生川展行. 2001. 明神岳で得られた興味深い甲虫2種. ねじればね, 96: 15.
 423. Narukawa, N.. 2002. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera; Bothrideridae) from Japan. Ent. Rev. Japan, 57(2): 123-126.
 424. 生川展行. 2002. 興味深い海浜性アリモドキ3種の記録. ひらくら, 46(5): 88.
 425. 生川展行. 2002. 三重県南亦山で採集したヒラタムシ上科 (1). 北九州の昆虫, 49(2): 97-102.
 426. 生川展行. 2003. 総門山で得たヒラタムシ上科若干. ひらくら, 47(6): 97-99.
 427. 生川展行. 2004. 三重県のヒラタムシ上科の記録若干 (1). ひらくら, 48(3): 43-46.
 428. 生川展行. 2004. 桧塚奥峰でオオダイルリヒラタコメツキを採集. ひらくら, 48(5): 70.
 429. 生川展行. 2004. 菰野町庵座谷で採集した甲虫若干. ひらくら, 48(5): 77-78.
 430. 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録 (1). ひらくら, 49(1): 14-15.
 431. 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録 (2). ひらくら, 49(4): 61-62.
 432. 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録 (3). ひらくら, 49(6): 95-96.
 433. 生川展行. 2005. 迷岳で採集したオオキノコムシ. ひらくら, 49(5): 76-78.
 434. 生川展行. 2007. 四日市市のキバネキバナガミズギワゴミムシ. ひらくら, 51(5): 79.
 435. 生川展行. 2008. 鈴鹿市の海岸で採集した甲虫. ひらくら, 52(4): 56-60
 436. 生川展行. 2011. 2009~2010年に採集したホソカタムシ. ひらくら, 55(3): 65-66.
 437. 生川展行. 2012. イチハシホソカタムシの追加記録. ひらくら, 56(1): 24.
 438. 生川展行・秋田勝己・市橋甫・今村隆一・久保田耕平・島地岩根. 1989. 平倉演習林の甲虫. ひらくら, 33(6): 88-141.
 439. 生川展行・秋田勝己・市橋甫・今村隆一・久保田耕平・島地岩根. 1990. 平倉演習林の甲虫II. ひらくら, 34(2): 19-23.
 440. 生川展行・天春明吉・今村隆一・市橋甫・久保田耕平・松井弘見・前川和則・山崎浩一. 1984. 比奈知地域 (三重県名張市) の甲虫相. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書, pp. 137-191. 三重県昆虫談話会, 津.
 441. 生川展行・市橋甫・天春明吉・市川太・稲垣政志・官能健次・前川和則・横関秀行. 2006. 熊野灘沿岸照葉樹林の甲虫類. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重県昆虫談話会 編), pp.63-187. 三重県昆虫談話会, 津.
 442. 生川展行・市橋甫・天春明吉・横関秀行. 2001. 四日市市曾井町の甲虫. 三重のむし, 5(2): 29-49.
 443. 生川展行・市橋甫・横関秀行・天春明吉・稲垣政志・前川和則・村木武則・官能健次・市川太・久保田耕平・稲垣順子. 2008. 第7節 鈴鹿市のコウチュウ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—, pp. 525-691. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
 444. 生川展行・市橋甫・横関秀行・官能健次・稲垣政志・稲垣順子・天春明吉・市川太. 2011. 亀山市のコウチュウ目. 亀山市史 自然編, pp. 821-941. 亀山市, 亀山.
 445. 生川展行・市岡孝朗. 1984. コブスジコガネ科甲虫2種の記録. ひらくら, 28(1): 9.
 446. 生川展行・河北均・天春明吉. 1984. 三重県のコガネムシ主科11種の分布記録. ひらくら, 28(4): 49-52.
 447. 生川展行・川瀬英夫. 1994. 三重県未記録のゴミムシダマシ3種の記録. ひらくら, 38(2): 25.
 448. 生川展行・村木武則・若林成和. 1985. 大台ヶ原で採集した甲虫. ひらくら, 29(6): 88-90.
 449. 生川展行・中山 惇. 2006. 志摩市で採集した注目すべき甲虫. ひらくら, 50(6): 93-95.
 450. 生川展行・中山 惇・岡 由佳理. 2007. 志摩半島のイソジョウカイモドキ. ひらくら, 51(3): 40.
 451. 生川展行・中山 惇・岡 由佳理・横関秀行・稲垣政志・官能健次・市川太. 2011. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp. 66-195. 三重県昆虫談話会, 津.
 452. 生川展行・岡 由佳理. 2007. 志摩市でニセマゲソコガネダマシを採集. ひらくら, 51(3): 41-42.
 453. 生川展行・乙部宏. 1987. 多気郡宮川村父ヶ谷で得た甲虫. ひらくら, 31(2): 19-30.
 454. 生川展行・乙部宏・今村隆一. 1989. 宮川村狸峠で得た甲虫. ひらくら, 33(2): 17-28.
 455. 生川展行・乙部 宏・篠木善重. 2012. 津市自然ガイドブックの調査で得られた甲虫. 三重自然誌, 13: 76-86.

456. 生川展行・尾崎美香. 2009. 鈴鹿市磯山海岸でクロオビホソアリモドキを採集. ひらくら, 53(2): 83.
457. 生川展行・山崎浩一. 1982. セアカオサムシを採集. ひらくら, 26(1):8.
458. 生川展行・山崎浩一・市岡孝郎. 1982. オオヒョウタンゴミムシを鼓ヶ浦海岸で採集. ひらくら, 26(6): 90.
459. 成瀬善一郎. 1957. 雲出川上流下瀬戸橋附近の水棲甲虫. ひらくら, 11: 6.
460. 成瀬善一郎. 1958. 員弁川の水棲甲虫. ひらくら, 19: 84.
461. 成瀬善一郎. 1958. 栗の花にて採集せる甲虫類 (三重県美杉村にて). 佳香蝶, 10(35): 28-53.
462. 成瀬善一郎. 1958. 尾平山にマダラシマゲンゴロウ. ひらくら, 2(13): 15.
463. 成瀬善一郎. 1959. 津阿漕浦海岸で採集したゲンゴロウ2種. ひらくら, 3(3): 38.
464. 成瀬善一郎. 1960. 雨の員弁川採集報告. ひらくら4(1/2)(37/38): 6.
465. 成瀬善一郎. 1960. 湯の山でキボシツブゲンゴロウを採集. ひらくら, 4(7): 48.
466. 成瀬善一郎. 1962. キボシケシゲンゴロウの斑紋の変化について. ひらくら, 6(1): 6.
467. 新美宣之. 1979. 松阪市におけるたまむし科の記録. ひらくら, 23(6): 87-89.
468. 西川正明. 2014. シデムシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3) (初宿成彦編), pp.5-46. 大阪自然史博物館, 大阪.
469. Nishikawa M., Ikeda H., Kubota K. and Sota T. 2010. Taxonomic redifinition and natural history of the endemic silphic beetle *Silpha longicornis* (Coleoptera, Silphidae) of Japan, with an analysis of its geographic variation. Zootaxa, 2648: 1-31.
470. 西村照雄. 1975. 多気郡宮川村のフン虫. ひらくら, 19(4): 61.
471. 新田涼平・吉富博之. 2012. 日本産ゴマフガムシ属 (コウチュウ目, ガムシ科) の分類学的再検討. さやばねニューシリーズ(7): 18-31.
472. 野尻湖昆虫グループ. 1979. アトラス日本のネクイハムシ. 野尻湖昆虫グループ, 大阪, 182 pp.
473. Teruo Ochi, Masakazu Kawahara and Masashi Inagaki. 2011. Taxonomic notes on some Japanese corprophagous lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeoidea)Ⅷ. Description of a new species of the genus *Psammodymus* and a new species of the genus *Trichiorhyssemus* (Aphodiidae) from Tanegashima Is., Southwest Japan. Kogane, Tokyo, 12: 69-77.
474. 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三. 1992. 日本産カミキリムシ検索図説. 東海大学出版会. 東京, 695 pp.
475. 大鐘裕道・福富宏和. 2002. アカガネエグリタマムシを鳥羽市で採集. ひらくら, 46(5): 84.
476. 大平仁夫・市橋甫. 1975. 三重県のコメツキムシ2. 市橋甫採集のコメツキムシ標本. ひらくら, 19(6): 87-101.
477. 大平仁夫・市橋甫. 1999. 三重県産コメツキムシ類の分布資料. ひらくら, 43(4): 51-66.
478. 大平仁夫・川瀬英夫. 1995. 三重県のコメツキムシの記録3. ひらくら, 39(5): 67-73.
479. 大平仁夫・大川親雄・的場孝郎. 1976. 三重県のコメツキムシ3. 大川親雄. 的場孝郎所蔵のコメツキムシ科標本. ひらくら, 20(1): 1-13.
480. 大平仁夫・島地岩根. 1975. 三重県のコメツキムシ1. 平倉演習林で灯火に飛来したコメツキムシ. ひらくら, 19(4): 44-53.
481. 大川親雄. 1955. 三重県産鞘翅目について. 日本昆虫学会東海支部ニュース. (2): 8-9.
482. 大川親雄. 1959. 矢頭山採集記. ひらくら, 3(8/9): 113-114.
483. 大川親雄. 1960. 志摩病院の甲虫. ひらくら, 4(3): 13-18.
484. 大川親雄. 1960. マグラシマゲンゴロウの新産地. ひらくら, 4(7): 48.
485. 大川親雄. 1961. 大杉谷採集記. ひらくら, 5(11): 91-92.
486. 大川親雄. 1965. カワラハンミョウ三重県に産す. ひらくら, 9(3): 24.
487. 大川親雄. 1973. 戦災前後電灯に飛来した鞘翅目について. ひらくら, 17(8): 59-72.
488. 大町文衛・山下善平・市橋甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 熊野灘沿岸国立公園地域拡張調書, pp. 189-236. 三重県. 津.
489. 大町文衛・山下善平・市橋甫・成瀬善一郎. 1960. 平倉演習林の昆虫相. 第1報鞘翅目. 三重大学農学部演習林報告, 4: 1-58.
490. 岡 由香理・生川展行. 2008. 志摩半島周辺の海岸で採集した甲虫. ひらくら, 52(1): 1-11.
491. 岡田昌悦. 1982. "三重県のカミキリムシ"に未発表のカミキリムシの産地について. ひらくら, 26(3): 33-38.
492. 乙部 宏. 1984. 鈴鹿郡のヤマトオサムシダマシ. ひらくら, 28(1): 8.
493. 乙部宏. 1984. 南勢町のゲンゴロウ. ひらくら, 28(1): 14.
494. 乙部宏. 1985. 三重県でツヤハダクワガタを採集. ひらくら, 29(6): 83.
495. 乙部宏. 1988. 国見山の灯火採集で得られた甲虫若干ひらくら, 32(1): 13.
496. 乙部宏. 1990. 御池岳のヘリトゲコブスジコガネ. ひらくら, 34(2): 33.
497. 乙部宏. 1991. 青山町でガガブタネクイハムシを採集. ひらくら, 35(2): 24.
498. 乙部宏. 1992. 国見山のヨコヤマヒゲナガカミキリ. ひらくら, 36(6): 98.
499. 乙部宏. 1994. 三重県のマルコガタノゲンゴロウ. 月刊むし, (282): 35.
500. 乙部 宏. 1995. カワラハンミョウ. 自然のレッドデータブック・三重 (三重自然誌の会 編), p. 107. 三重県教育文化研究所, 津.
501. 乙部宏. 1995. 三重県のカワラハンミョウ. ひらくら, 39(1): 12.
502. 乙部宏. 1996. 野登山のアイヌコブスジコガネ. ひらくら, 40(6): 307.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD

503. 乙部宏. 1997. 阿山町のヤマトエンマコガネ. ひらくら, 41(1): 8.
 504. 乙部宏. 1999. 古ヶ丸山のクワガタムシ. ひらくら, 43(6): 88.
 505. 乙部宏. 2000. ネクイハムシ3種の記録. ひらくら, 44(3): 43.
 506. 乙部宏. 2000. 志摩半島のシロヘリハンミョウ. ひらくら, 44(4): 58.
 507. 乙部宏. 2001. 青山高原のマルツヤマグソコガネ. ひらくら, 45(1): 9.
 508. 乙部 宏. 2001. 上野市のアイヌハンミョウ. ひらくら, 45(2): 26-27.
 509. 乙部宏. 2002. 雲出川河川敷における甲虫の記録若干. ひらくら, 46(6): 101.
 510. 乙部 宏. 2002. 宮川村のヒゲジロホソコバネカミキリ, ひらくら, 46(6): 103.
 511. 乙部宏. 2003. 紀和町のカラカネナカボソタマムシ. ひらくら, 47(1): 15.
 512. 乙部宏. 2003. 三重県大台町におけるキマダラマグソコガネの追加記録. 鯉角通信, 6: 43.
 513. 乙部宏. 2004. 河芸町のカワラハンミョウ. ひらくら, 48(6): 95.
 514. 乙部宏. 2004. 大内山村のヨコヤマヒゲナガカミキリ. ひらくら, 48(6): 96.
 515. 乙部 宏. 2005. 美里村のカツラネクイハムシ. ひらくら, 49(1): 13.
 516. 乙部宏. 2005. 津市のアオヘリアオゴミムシ. ひらくら, 49(1): 15.
 517. 乙部 宏. 2006. 熊野川河川敷で得られたコガネムシ類. ひらくら, 50(5): 79.
 518. 乙部 宏. 2006. 三重県でセラネクハムシを発見. 月刊むし, 430: 4-5.
 519. 乙部 宏. 2010. 津市のダイミョウアトキリゴミムシ. ひらくら, 54(5):88.
 520. 乙部 宏. 2011. 櫛田川上流域のヒゲジロホソコバネカミキリ, ひらくら, 55(3): 68-69.
 521. 乙部 宏・中西元男. 1999. 宮川村のムツコブスジコガネ. ひらくら, 43(1): 9
 522. 乙部 宏・生川展行. 1984. ヤマトオサムシダマシの新産地. ひらくら, 28(1): 8.
 523. 乙部宏・岡村純. 1990. 名張市のクロマダラタマムシ. ひらくら, 34(2): 33.
 524. 乙部宏・城殿浩. 2002. 迷岳のルリクワガタ属. ひらくら, 46(2): 32.
 525. Saito, M. 1994. A revisional study of the Japanese species of the family Ischaliidae (Coleoptera, Heteromera). Elytra, 22(2): 335-343.
 526. 齊藤昌弘・生川展行. 1986. 三重県内で得られた注目すべき甲虫. ひらくら, 30(2): 36-37.
 527. 桜谷鎮雄. 1975. 伊勢神宮林の甲虫類. ひらくら, 19(1):2-14.
 528. 桜谷鎮雄・宗林正人. 1983. クビアカモボトカミキリの採集記録. ひらくら, 27(3): 50-51.
 529. Sasaji, H. 1997. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrideridae) from Japan, with notes on the Japanese Bothrideridae. Esakia, 37: 111-116.
 530. 佐藤正孝. 1957. *Neptosternus nipponensis* Kamiya の新産地. ひらくら, 8: 5-6.
 531. Satô, M. 1972. The georissid beetls of Japan. J. Nagoya Womens Coll., 18: 207-213.
 532. Satô, M. 1976. New Cantharidae from Japan. Trans. Shikoku Ent. Soc., 13: 53.
 533. 佐藤正孝. 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, 40: 1-3.
 534. 佐藤正孝. 1981. 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, 53: 1-4.
 535. 佐藤真矢. 1993. 亀山市におけるゲンゴロウ類の記録. ひらくら, 37(6): 101.
 536. Sato, M. et H. Yoshitomi. 2004. Discovery of a second representative of the genus *Horelophopsis* (Coleoptera, Hydrophilidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. Elytra, Tokyo, 32:41-49.
 537. 佐藤正孝・吉富博之. 2005. 日本産水棲昆虫の分類学的覚え書きIV. 甲虫ニュース, 151:1-6.
 538. 島地岩根. 1963. 平倉演習林の昆虫記録(2) 1963年の甲虫採集記録. ひらくら, 7(12): 93-96.
 539. 島地岩根. 1974. 台高山脈北部および奥香肌峡の鞘翅目昆虫相. 三重県立博物館自然科学調査報告, 5: 72-94.
 540. 島地岩根. 1980. 伊勢神宮境内地の鞘翅目相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp.349-411. 神宮司庁, 伊勢.
 541. 島地岩根・富田靖男. 1988. 紀和町とその周辺の鞘翅目昆虫相. ひらくら, 32(5): 65-83.
 542. 島地岩根・富田靖男・倉田 忠・小川隆之・山下善平・石田昇三・大川親雄・後藤 勇・石田勝義. 1996. 上野市友生地区の昆虫相, pp. 1-40. 三重県自然科学研究会.
 543. 篠木善重・尾崎美香・田中晃詞・辻 尚道・生川展行. 2012. 鈴鹿市西部鈴鹿山脈の甲虫. 重要生態系地域の自然環境調査報告書, pp. 41-94. 鈴鹿市.
 544. 初宿成彦. 2011. ゲンゴロウ上科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3) (初宿成彦編), pp. 3-28. 大阪自然史博物館, 大阪.
 545. 初宿成彦・安井通宏・高橋 徹・水野弘造. 2012. ゴミムシ類, カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属, ハムシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(2), 大阪自然史博物館, 大阪, 372pp.
 546. 杉浦真治・大築正弘. 1993. 近畿地方でエゾコガムシを発見. 月刊むし, 265: 36-37.
 547. Takahashi, K. 2003. A revision of the Japanese genus *Yukikoa* (Coleoptera, Cantharidae) with reference to the systematic position and speciation. Jpn. J. syst. Ent., 9(1): 81-100.
 548. Takahashi, K., 2012. A Taxinomic Study on The Genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae) of Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology Monographic Series (4). 359pp.
 549. 高井泰・青木哲郎. 2005. 岐阜県産チャイロコガネ2種の記録. 月刊むし, 413: 47.
 550. 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しい昆虫. 三重博物, 3: 40-55.
 551. 谷口真理. 2013. 三重県津市美杉町で発見したゲンゴロウ. 自然誌だより, 96: 8.
 552. 天満智憲. 2001. 須賀利大池・小池周辺の昆虫. 平成13年度「地域で守りたい自然」動植物調査結果

553. 富田靖男. 1966. 答志島における昆虫夜間採集品目録 (答志島総合調査・昆虫関係報告). ひらくら, 10(2): 13-18.
554. 富田靖男. 1977. 松阪の動物. 松阪市史第1巻資料編, p. 540. 松阪市, 松阪.
555. 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島町臨海地域および島嶼の昆虫相. pp. 1-101.
556. 富田靖男・島地岩根・中西元男. 1973. 中勢地区の里山昆虫相 岩内, 観音岳, 堀坂山および阿坂周辺地域について 中勢地区における昆虫生息状況に関する調査報告書.
557. 富田靖男・富田 傑. 2001. 第1編勢和の自然環境, 第3章勢和の動物. 勢和村史, pp. 54-177. 勢和村, 勢和.
558. 辻 尚道. 2008. 菰野町でルリキオビジョウカイモドキを採集. ひらくら, 52(4): 62.
559. 辻 尚道. 2008. 津市白塚海岸でマルエンマコガネを採集. ひらくら, 52(6): 97.
560. 塚本圭一. 2003. 日本フン虫誌 (1) ヤマトエンマコガネ. 鯉角通信, 4: 1-4.
561. 塚本圭一. 2003. 日本列島フン虫記. 青土社, 東京, 225 pp.
562. 塚本圭一・稲垣政志・河原正和・森正人. 2009. ふんコロ昆虫記. トンボ出版, 大阪, 176 pp.
563. 塚本圭一・井上宗二・岸井 尚. 1960. (15) 三重県神島及び愛知県三河湾内の諸小島嶼の昆虫類に就いて. 日本列島周辺の小島嶼の生物地理学的研究・第2報 三重県 (志摩国) 神島及び愛知県 (三河国) 渥美湾の小島嶼群. 平安学園研究会, 4: 77-83.
564. Ueno, S.-I. 1954. Studies on the Japanese Trechinae (II) (Coleoptera, Harpalidae). Mem. Coll. Sei. Univ. Kyoto. (B), 21(1): 29-37.
565. Ueno, S.-I. 1955. New cave dwelling Anchomenids of Japan. Opusc. Ent. Lund, 20: 56-64. pl.1.
566. Ueno, S.-I. 1959. New cave trechids from the eastern foot of Suzuka Mountain Renge, Japan. Mem. Coll. Sei. Univ. Kyoto, (B), 26(3): 93-134. 299-304.
567. Ueno, S.-I. 1979. New Cave-dwelling Trechine Beetles from the Eastern Part of the Kii Peninsula. Central Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (A), 5: 115-126.
568. Ueno, S.-I. 1980. The Anophthalmic Trechine Beetles of the Groep *Trechiana ohshimai*. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (A), 6: 195-275.
569. 上野市法花湿地昆虫調査班. 1995. 上野市法花湿地の昆虫類. 三重自然誌, 2: 25-37.
570. 和田隆史. 1996. 電灯火に飛来する昆虫類の消長. 三重自然誌, 3: 31-38.
571. 山田充哉・北井誠也・石橋 亮. 2012. 三重県鳥羽市におけるコガタノゲンゴロウの採集記録. 月刊むし, 493: 46.
572. 山下善平・大川親雄・石田昇三・成瀬善一郎・村井俊郎・佐藤正孝. 1965. 伊勢志摩国立公園の昆虫 1. 英虞湾周辺の昆虫. 伊勢志摩国立公園自然科学調査書, pp. 1-19. 三重県, 津.
573. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
574. 山下善平・大川親雄・島地岩根・市橋甫・村井俊郎・橋本理市・富田靖男・坂部元宏・中西元男・倉田忠. 1972. 大杉谷および大台ヶ原の昆虫相ならびに樹上のクモ類相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書, pp. 195-285. 9pls. 三重県自然科学研究会.
575. 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査及び影響評価報告書, pp. 189-301. 上野市, 上野.
576. 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田忠・大川親雄・坂部元宏・大久保憲秀・杉山章・中西万年. 1975. 父ヶ谷地域の昆虫相. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷自然地域環境調査報告書, pp. 231-326. 三重県自然科学研究会, 津.
577. 四日市市教育委員会. 1983. 国指定天然記念物 御池沼沢植物群落環境整備事業報告書. 四日市市教育委員会, 四日市市, 264 pp.
578. 横関秀行. 2001. 2月に採集されたセダカテントウダマシ. ひらくら, 45(2): 25.
579. 横関秀行. 2012. 菰野町田光の甲虫. 三重自然誌, 13: 140-142.
580. 横関秀行. 2013. 大台町 (旧宮川村) の甲虫. ひらくら, 57(1): 1-8.
581. 横関秀行・市橋 甫・天春明吉. 2012. 第5章昆虫類第4節コウチュウ目. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」自然科学調査報告書 (田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 253-287. 菰野町教育委員会, 菰野.
582. 横関秀行・市川太. 1997. ヘリハネムシの採集記録. ひらくら, 41(6): 90.
583. 横関秀行・今村隆一. 2012. 鳥羽市神島の甲虫. 三重自然誌, 13: 34-35.
584. 吉田信代・山下伸夫・岩佐光啓・渡邊彰. 2004. 駆虫剤を投与した牛の糞は糞虫を誘引するとともに幼虫生存率を低下させる. 東北農業研究成果情報, 18: 376-377.
585. Yoshihara et Morimoto. 1994. A Revision of the Baridinae Weevils of the Genus *Limnobaris* Bedel (Coleoptera, Curculionidae) from Japan and Neighbouring Countries. Jpn. J. Ent, 62(3): 445-456.
586. 吉富博之ほか. 2001. レッドデータ水生甲虫類の分布記録 I エゾコガムシの分布記録のまとめ. 甲虫ニュース, 135: 7-9.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献 (ハエ目)

587. 橋本太郎. 1960. 神宮宮域産生物目録Ⅶ. 昆虫類. 神宮農業館, 伊勢, 58 pp.
588. 今村 功. 1986. 三重県で再度記録したアカツリアブモドキ. ひらくら, 30(3): 65.
589. 加納康嗣. 1999. オウゴンアリノスアブを三重県名張市で採集. はなあぶ, 8: 62.
590. 河北 均. 2014. 明和町でハチモドキハナアブを採集. ひらくら, 58(2): 47.
591. 川瀬英夫. 1998. トワダオオカの採集記録. ひらくら, 42(6): 98.
592. 蒔田実造. 2000. 三重北部のデガシラバエ科4種. ひらくら, 44(4): 65-66.
593. 蒔田実造. 2001. ハマダラハルカを藤原町で採集. ひらくら, 45(5): 171.
594. 蒔田実造. 2002. トラフムシヒキを三重郡川越町で採集. ひらくら, 46(1): 23.
595. 蒔田実造. 2005. 藤原町の双翅目2種. ひらくら, 49(5): 85.
596. 蒔田実造. 2005. ルリハナアブを四日市市で採集. ひらくら, 49(6): 101.
597. 蒔田実造. 2005. 四日市市富田のコガタノミズアブとミズアブ. ひらくら, 49(5): 83.
598. Maruyama M. and Hironaga T. 2004. *Microdon katsurai*, a New Species of *Myrmecophilous* hoverfly (Diptera, Syrphidae) from Japan, Associated with *Polyrhachis lamellidens* (Hymenoptera, Formicidae). Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology 30(4), 173-179.
599. 松本吏樹郎編. 2013. 大阪自然史博物館所蔵双翅目目録 (1). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 45: 1-100.
600. Nagatomi, A. 1978. The Japanese *Chrysopilus* (3) (Diptera, Rhagionidae). Kontyu 46(3): 450-451.
601. 大石久志・乙部宏. 2003. 三重の海浜性ムシヒキアブ. はなあぶ, 16: 49-52.
602. 大石久志・乙部宏・蒔田実造. 2007. 三重のニセミギワバエとイソババエ. はなあぶ, 23: 71-77.
603. 大石久志・蒔田実造. 1999. アシグロルリミズアブ(新称)について. はなあぶ, 8: 35-39.
604. 大石久志・蒔田実造. 2002. コブアリノスアブを三重県で採集. はなあぶ, 14: 51-52.
605. 大石久志・蒔田実造. 2008. 第10節鈴鹿市のハエ目. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 711-717. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
606. 大石久志・篠木善重・蒔田実造. 2012. 三重県のミギワバエ. はなあぶ, 33: 82-88.
607. 大石久志・篠木善重・別府隆守. 2010. 日本産 *Acrosathe* 属(ツルギアブ科)の新知見. はなあぶ, 30: 31-46.
608. 大川親雄. 1957. 三重県の採集品について. 新昆虫, 10(12): 32-33.
609. 大川親雄. 1959. 志摩の昆虫. ひらくら, 3(10/11): 115-119.
610. 大川親雄. 1960. 霊山採集記. ひらくら, 4(5): 35.
611. 大川親雄. 1961. トワダオオカの1産地. ひらくら, 5(5): 34.
612. 大川親雄. 1963. トワダオオカを津市内で採る. ひらくら, 7(10): 82.
613. 大町文衛・山下善平・市橋甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 熊野灘沿岸国立公園地域拡張調査書, pp. 189-236. 三重県, 津.
614. 乙部宏. 2003. カクモンハラブトハナアブを三重県で採集. はなあぶ, 16: 48.
615. Shiraki, T.. 1956. Studies on the Syrphidae. 5. Two new Japanese species, presented by Dr. C. Okawa. Insecta Matsumurana. 20(1-2): 1-5.
616. 篠木善重. 2011. マサキに訪花したコガタノミズアブ. ひらくら, 55(1): 21-22.
617. 篠木善重. 2011. カクモンハラブトハナアブの採集記録. ひらくら, 55(2): 46-47.
618. 篠木善重. 2013. トラフムシヒキの生態観察と記録. はなあぶ, 35: 10-11.
619. 篠木善重・大石久志. 2012. 津市の双翅目(ハエ目). 三重自然誌, 13: 92-113.
620. 篠木善重・大石久志・蒔田実造. 2014. 三重県産双翅目RDB種の記録. はなあぶ, 37: 92-99.
621. 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しい昆虫. 三重博物, 3: 40-55.
622. 富田靖男. 2004. アミメカゲロウ目, シリアゲムシ目ならびにハエ目 付編2昆虫目録. 上野市史自然編, pp. 905-908. 上野市, 上野.
623. 富田靖男. 2010. 明和町の膜翅目昆虫・双翅目昆虫ならびに鱗翅目昆虫蛾類若干. ひらくら, 54(2): 21-34.
624. 富田靖男. 2010. 第4章 第6節 亀山市の等翅目, チャタテムシ目, 広翅目, 脈翅目, 長翅目ならびに双翅目昆虫若干. 亀山市史自然編, pp. 809-820. 亀山市, 亀山.
625. 富田靖男・市橋甫・宮本佳典. 2003. MECビオトープで確認された哺乳類, 爬虫類, 両生類ならびに昆虫類. (財)三重県環境保全事業団研究報告, 9: 75-92.
626. 富田靖男・市橋甫・中西元男. 2012. 第5章昆虫類第1節カゲロウ目・トンボ目・ゴキブリ目・カマキリ目・直翅目・ハサミムシ目・チャタテムシ目・脈翅目・膜翅目・長翅目・双翅目昆虫. 国指定天然記念物田光のシデコブシ及び湿地植物群落自然科学調査報告書(田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 215-227. 菰野町教育委員会, 菰野.
627. 富田靖男・富田傑. 2001. 第3章勢和の動物, 勢和村史資料編二, pp. 53-177. 勢和村, 勢和.
628. 山下善平. 1974. 外宮でトワダオオカを採集. ひらくら, 18(6): 51.
629. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288. 三重県自然科学研究会, 津.
630. 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田忠・大川親雄・坂部元宏・大久保憲秀・杉山章・中西万年. 1975. 父ヶ谷地域域の昆虫相. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書, pp. 231-326. 三重県自然科学研究会,

津.

631. 山下善平・白井重雄・山本潔美・宗林正人・三島敏夫・大川親雄・石田昇三・島地岩根・市橋甫・村井俊郎・成瀬善一郎・石塚三郎・富田靖男・灰谷輝男・松浦誠・坂部元宏. 1968. 平倉演習林の昆虫目録. 三重大学農学部演習林資料, 94 pp.
632. 吉田浩史. 2008. 紀伊半島におけるニクバエ科の採集記録. はなあぶ, 25: 46-47.
633. 吉田浩史. 2011. 近畿地方産ニクバエ科分布資料. はなあぶ, 32: 34-37.

文 献 (チョウ目)

634. 秋田勝己. 1984. 雲出川流域におけるオオムラサキとゴマダラチョウの分布. ひらくら, 28(3): 33-43.
635. 秋田勝己. 1985. 蝶類採集ノート No.21 (1984. 7. 4. ~1985. 12. 27.). だんごむし, 25-26: 295-304.
636. 秋田勝己. 1988. 三重県下におけるギンイチモンジセセリの分布. ひゃくとりむし, 37: 433.
637. 朝日延太郎. 1990. 宮崎県北部から得られた注目すべき蛾類 (VI). 誘蛾燈, 120: 63-64.
638. 浅野 隆. 2007. ツマジロウラジャノメの産卵数. ひゃくとりむし, 275: 3290.
639. 浅野 隆・高坂 寿. 1985. 三重県でオナガシジミを採集. 住香蝶, 141: 15.
640. 尾藤成人・遠藤弘志・笠井初志・藤原麒一朗. 1988. 岐阜県におけるエゾスジヨトウの記録こつて. 誘蛾燈, 111: 33.
641. 藤枝俊英. 2006. 大和谷でフジドリシジミを採集. めもてふ, 226: 2500.
642. 藤平 暁・藤平千鶴子. 2000. ゴマダラシャチホコの採卵飼育. 蛾類通信, 208: 153-154.
643. 藤岡知夫・美ノ谷憲久・福田晴男. 1999. 四国産ホシミスジの地理変異 1新亜種の記載を含む. 月刊むし, 343: 2-8.
644. 福田晴男. 2012. 日本産ホシミスジの現状と課題Ⅱ. やどりが, 233:16-34.
645. 船越進太郎. 1983. 岐阜県産ヤガ21種の追加記録. 誘蛾燈, 83: 129-133.
646. 船越進太郎. 1984. 岐阜県美濃市休耕田の蛾類. 誘蛾燈, 97: 117-127.
647. 船越進太郎・今井滋行. 1991. スゲドクガ, シラクキコヤガ岐阜県における記録. 誘蛾燈, 125: 99-100.
648. 船越進太郎・今井滋行・仁科成香. 1992. 前沢湿地 (岐阜県) の夏の蛾. 誘蛾燈, 127: 11-16.
649. 後藤 勇. 1976. 伊勢神宮のルーミスジジミはどうなったのか ひらくら1975年度総会の話から . ひらくら, 20(3): 53-56.
650. 後藤 勇・今村隆一. 2008. 大川親雄昆虫標本目録チョウ目チョウ類. 三重県立博物館収蔵資料目録 大川親雄昆虫標本目録第1集, pp. 4-5, 30-38. 三重県立博物館, 津.
651. 長谷川好昭. 2006. ツマジロウラジャノメの蛹・松阪市. めもてふ, 210: 2292-2293.
652. 長谷川好昭. 2008. 紀北町のウラナミアカシジミ. めもてふ, 245: 2742.
653. 長谷川好昭. 2008. ウラナミアカシジミ南紀亜種の記録. めもてふ, 255: 2866.
654. 長谷川好昭. 2008. 大紀町のウラナミアカシジミ. ひゃくとりむし, 304: 3645.
655. 長谷川好昭. 2009. ウラナミアカシジミ (南紀亜種) を志摩市で採集. めもてふ, 267: 2984.
656. 長谷川好昭. 2010. ウラナミアカシジミの幼虫を度会町で採集(2). めもてふ, 274: 3061.
657. 長谷川好昭. 2010. ウラナミアカシジミ (南紀亜種) を志摩市で採集. めもてふ, 275: 3069.
658. 長谷川好昭. 2010. ウラナミアカシジミ (南紀亜種) の幼虫を南伊勢町で採集. めもてふ, 275: 3069-3070.
659. 長谷川好昭. 2010. ウラナミアカシジミ (紀南亜種) の幼虫を大紀町で採集. めもてふ, 275: 3070.
660. 長谷川好昭・阿江 茂・中島悦雄. 2005. 大紀町のウラナミアカシジミ (ゼフィルス) 調査記録. ひらくら, 395: 67-68.
661. 長谷川好昭・野村賢二. 2012. ウラジロミドリシジミの新産地・明和町. めもてふ, 294: 3263.
662. 林 憲一・三山勲夫. 1962. 伊賀の蝶. ひらくら, 64: 41-58.
663. 市橋 甫・富田靖男. 2004. 御在所の「マレーズトラップ」により採集された昆虫類. (財) 三重県環境事業団研究報告. 10: 101-116.
664. Inoue, H.1965. A new genus and species of the Herminiinae, Noctuidae, from Japan (Lepidoptera). Kontyu, 33(2): 221-222.
665. 井上寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守. 1982. 日本産蛾類大図鑑. 講談社, 東京, 552p+966+pls.392.
666. 伊藤 寿. 2009. 三重県伊賀市でホシミスジを採集. 月刊むし, 461: 60.
667. 亀田 満. 1991. 北海道長万部町静狩湿地の蛾類Ⅰ. 誘蛾燈, 126: 119-124.
668. 亀田 満. 2001. 北海道長万部町静狩湿地の蛾類ⅡⅢ. 誘蛾燈, 164: 43-48.
669. 金沢 至・佐藤力夫・中臣謙太郎・清野昭夫・藤巻雄一. 1984. 西表島12月の蛾. 蛾類通信, 128: 35-42.
670. 神戸 尚. 1958. 両郡橋 (櫛田川) のガ. ひらくら, 2(21): 99-101.
671. 加納康嗣. 2000. 伊賀地方のギフチョウ. Insecta Miyatakeana. 101-120.
672. 葛西 充. 1988. 「青森県の蛾 (VI) の追加記録. 誘蛾燈, 113: 99-190.
673. 加藤昭彦. 2005. 尾鷲市近辺のウラナミアカシジミ. めもてふ, 201: 2177.
674. 河本 実. 2004. 鈴鹿山系 (三重県) のクロシジミ近況報告. ひゃくとりむし, 251: 3004-3006.

675. 河本 実. 2005. オオムラサキ越冬幼虫の採集記録. めもてふ, 207: 2256.
 676. 河本 実. 2005. 2005年ゼフィルスの採集記録・三重県北中部. めもてふ, 208: 2270-2271.
 677. 河本 実. 2006. 小岐須溪谷のクロシジミ. ひゃくとりむし, 266: 3183.
 678. 河本 実. 2007. ウラナミアカシジミ幼虫の採集記録・中勢. めもてふ, 227: 2506.
 679. 河本 実. 2007. オオムラサキ越冬幼虫の採集記録・伊賀地方. めもてふ, 228: 2517.
 680. 河本 実. 2008. 野登山のクロシジミ. ひゃくとりむし, 293: 3511.
 681. 河本 実. 2008. オオムラサキ越冬幼虫の採集記録・伊賀地方. めもてふ, 246: 2757-2754.
 682. 河本 実. 2011. いなべ市でオオムラサキを目撃. めもてふ, 279: 3104.
 683. 河本 実. 2011. 藤原岳自然科学館「ボクと私の昆虫展」に出品された蝶の記録. めもてふ, 283: 3143-3151.
 684. 河本 実. 2012. 伊賀市のゴマダラチョウとオオムラサキ越冬幼虫の記録. めもてふ, 291: 3230.
 685. 河本 実・田中晃詞・村田真理・鈴木洋子. 2010. オオムラサキ越冬幼虫の記録・伊賀市. めもてふ, 277: 3083-3084.
 686. 北脇和光. 1986. 三重県におけるキマダラルリツバメの再発見. 蝶研フィールド, 1: 30.
 687. 児島 毅. 2005. 紀和町でウラナミアカシジミの異常型を採集. めもてふ, 197: 2120.
 688. 小山幸伯. 1992. 三重県南部でキイロトゲエダシャクを記録. 誘蛾燈, 128: 25-26.
 689. 小山幸伯. 1992. 三重県熊野市でクロモンオビリングを採集. 誘蛾燈, 128: 26.
 690. 小山幸伯. 1993. キイロトゲエダシャクの追加記録. 誘蛾燈, 132: 43-44.
 691. 小山幸伯・間野隆裕・水野利彦. 1992. 三重県におけるヤクシマヒメキシタバの記録. 蛾類通信, 171: 373.
 692. 工藤広悦. 1990. ワタナベカレハとエゾスジヨトウの分布記録. 月刊むし, 231: 37.
 693. 工藤広悦. 1997. モウセンゴケトリバの沖縄からの発見. 月刊むし, 322: 28-29.
 694. 京都大学蝶類研究会. 2005.2004年日本産蝶類採集情報. Spinda, 20: 106-142.
 695. 間野隆裕. 1986. 紀伊半島南部の注目すべき蛾 I. 蛾類通信, 138: 193-194.
 696. 間野隆裕. 1987. エゾスジヨトウ愛知県で採集. 誘蛾燈, 110: 126.
 697. 間野隆裕. 1987. 木曾川河口の湿地の蛾. 蛾類通信, 143: 283-287.
 698. 間野隆裕. 1989. 三重県北部の注目すべき蛾. 蛾類通信, 152: 24-26.
 699. 間野隆裕. 1991. ガ類. 菰野町史 自然編 V動物 9昆虫類(6). pp. 392-397,451,471-486. 菰野町, 菰野.
 700. 間野隆裕. 1991. 三重県菰野町で得られた興味深い蛾. 誘蛾燈, 124: 45-48.
 701. 間野隆裕. 1993. 対馬で8月に採集した蛾. 蛾類通信, 173: 412-415.
 702. 間野隆裕. 1996. 三重県上野市法花の湿地のガ. 蛾類通信, 187: 184-188.
 703. 間野隆裕. 1999. 大王町船越池の蛾類. 三重自然誌, 5: 45-50.
 704. 間野隆裕. 2001. フジキオビ平倉に産す. ひらくら, 45(1): 14.
 705. 間野隆裕. 2001. 第16項昆虫類(チョウ目ガ類). 紀勢町史 自然編, pp. 351-387. 紀勢町, 紀勢.
 706. 間野隆裕. 2003. クワトゲエダシャク♀の記録. 誘蛾燈, 172: 37-38.
 707. 間野隆裕. 2004. 第5章昆虫 第10節チョウ目ガ類. 上野市史 自然編, pp. 723-747, 995-1030. 上野市, 上野.
 708. 間野隆裕. 2005. フジキオビ成虫の特異な行動. ひらくら, 49(4): 64-65.
 709. 間野隆裕. 2005. 鈴鹿市でカバフキシタバを採集. ひらくら, 49(4): 65.
 710. 間野隆裕. 2013. 三重県北部でイブキスズメ・カバフキシタバ・エチゴハガタヨトウとオオキイロアツバを同時に採集. やどりが, 237: 31.
 711. 間野隆裕・藤原麒一郎. 1990. 三重県北部でイセキリガを採集. 蛾類通信, 160: 168.
 712. 間野隆裕・蒔田実進. 1989. 四日市市で得た蛾. ひらくら, 33(5): 67-76.
 713. 間野隆裕・柳田慶浩・木村正明・飯塚新真・谷田昌也. 1997. キイロトゲエダシャクとマダラノコメエダシャクの沖縄本島での追加記録. 誘蛾燈, 148: 47-48.
 714. 松井弘見. 1993. オオツバメエダシャクを三重県採集. 誘蛾燈, 131: 16.
 715. 松井弘見. 1993. 阿山郡大山田村でカバフキシタバを採集. ひらくら, 37(6): 104.
 716. 松井弘見・中西元男. 2000. 父ヶ谷のキバネセセリ. ひらくら, 44(5): 77.
 717. 松井弘見・内田 孝. 1986. 志摩半島で採集した秋および春の蛾類. ひらくら, 30(4): 90-100.
 718. 三田村敏正. 1989. クワトゲエダシャクの産卵を確認. ふくしまの虫, 8: 32.
 719. 三浦重光. 1985. 岡崎市の蛾類. 新編岡崎市史 14 自然, pp. 853-72. 岡崎市, 岡崎.
 720. 三浦俊一. 2005. ギフチョウの翅形異常個体を採集. 蝶研フィールド, 225: 35.
 721. 宮本正行. 2006. ウラナミジャノメの産卵を観察・白山町. めもてふ, 218: 2400.
 722. 宮本正行. 2006. ウラナミジャノメの交尾を観察・白山町. めもてふ, 219: 2412.
 723. 宮本正行. 2006. 2005年三重県の大型ヒョウモンの記録. めもてふ, 223: 2462-2463.
 724. 本弘道崇. 1952. 三重県産蝶類目録(第1報). 佳香蝶, 20: 39-48.
 725. 本弘道崇. 1953. 三重県産蝶類目録(第2報). 佳香蝶, 22: 19-29.
 726. 中村正直・工藤広悦. 1993. モウセンゴケトリバ(改称)の幼生期の記載. 蛾類通信, 175: 439-443.
 727. 中村正直・工藤広悦・内藤幸之助. 1996. 葦毛湿原(豊橋市岩崎町)で獲られた蛾類目録(葦毛第2湿原(指定外地)の蛾類調査報告4). 蛾類通信, 189: 223-230.
 728. 中西元男. 1977. 三重の蝶-ひらくら1~20巻(1957~76)既報の整理(IV). ひらくら, 21(5): 84-106.
 729. 中西元男. 1978. 三重の蝶-ひらくら1~20巻(1959~76)既報の整理(VIII). ひらくら, 22(3): 41-53.

730. 中西元男. 1980. 伊勢神宮境内地におけるルーミスジミの発生動向. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 481-491. 神宮司庁, 伊勢.
731. 中西元男. 1993. ウラギンスジヒョウモンは三重県で減っているのか?. ひゃくとりむし, 111: 1321-1326.
732. 中西元男. 1994. 三重県のツマジロウラジャノメ. ひゃくとりむし, 130: 1549-1551.
733. 中西元男. 1995. 三重県におけるスジボソヤマキチョウの存亡. ひゃくとりむし, 145: 1729-1733.
734. 中西元男. 2000. 父ヶ谷のフジキオビ. ひらくら, 44(6): 95.
735. 中西元男. 2001. 三重県のツマグロキチョウ. ひゃくとりむし, 217: 2593-2596.
736. 中西元男. 2003. 三重県のアカシジミ属の分布. ひゃくとりむし, 241: 2831-2887.
737. 中西元男. 2003. 大杉谷のミヤマチャバネセセリ. ひらくら, 385: 95.
738. 中西元男. 2005. 三重県のシルビアシジミ. 蝶研フィールド, 20(5): 19.
739. 中西元男. 2005. 宮川上流域大杉谷地域の蝶. ひらくら, 393: 25-30.
740. 中西元男. 2005. 今村隆一氏所蔵の三重県産蝶類. レッドデータ候補種. ひらくら, 395: 52-53.
741. 中西元男. 2005. ウラナミジャノメの産卵植物. ひらくら, 396: 81-82.
742. 中西元男. 2005. 三重県のシルビアシジミ. 蝶研フィールド, 227: 19.
743. 中西元男. 2006. 熊野灘沿岸地域の蝶相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 202-216. 三重昆虫談話会, 津.
744. 中西元男. 2008. 宮川上流部のウラナミアカシジミ. ひゃくとりむし, 287: 3441.
745. 中西元男. 2008. 伊賀市のオオミドリシジミ. ひゃくとりむし, 287: 3441.
746. 中西元男. 2008. 鈴鹿市のチョウ目チョウ類. 鈴鹿市の自然 鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 726-741. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
747. 中西元男. 2008. 櫛田川水系のホシミスジ. ひらくら, 418: 94.
748. 中西元男. 2010. 故市橋甫氏が保管されていた三重県産蝶類標本. ひらくら, 424: 49-52.
749. 中西元男. 2010. 生川展行氏にいただいた三重県産蝶類. ひゃくとりむし, 320: 3837.
750. 中西元男. 2011. 多度山のギフチョウの古い記録. ひゃくとりむし, 325: 3889-3892.
751. 中西元男. 2012. ここでいいならいたっていいじゃない?. ひゃくとりむし, 341: 4081-4085.
752. 中西元男. 2012. 冒険者たち? 三重県のギンイチモンジセセリの不思議な分布. ひゃくとりむし, 347: 4153-4161.
753. 中西元男・乙部 宏. 1979. 櫛田川流域と宮川流域におけるゴマダラチョウとオオクラサキの分布. ひらくら, 23(4): 45-59.
754. 中西元男・乙部 宏. 2008. 大台町のウラミスジシジミ. ひらくら, 413: 66.
755. 西田悦造. 2009. 今年も健在, 三重県のルーミスジシジミ. めもてふ, 267: 2986-2987.
756. 延 栄一ほか. 2005. 第2回ギフチョウコンテスト. 月刊蝶研サロン, 217: 22-23.
757. 野村賢二. 2006. 大和谷でベニモンカラスシジミを採集. めもてふ, 213: 2339.
758. 野村賢二. 2006. ウラジロミドリシジミの初見日・松阪市. めもてふ, 224: 2476.
759. 野村賢二. 2007. ミドリシジミ類の幼虫採集・中南勢. めもてふ, 235: 2612-2613.
760. 野村賢二. 2009. 大紀町でウラナミアカシジミ (南紀亜種) を採集. めもてふ, 267: 2984.
761. 野村賢二. 2012. ウラナミアカシジミ(南紀亜種) の発生状況・尾鷲市. めもてふ, 295: 3272.
762. 尾鼻誠史. 2006. 白猪山のクロヒカゲモドキ. めもてふ, 210: 2290.
763. 奥田道廣. 2009. ギンイチモンジセセリの3化個体を目撃・伊賀市. めもてふ, 267: 2986.
764. 乙部 宏. 2010. 伊勢市のオオキイロアツバ. ひらくら, 54(4): 71.
765. Owada, M.1992. Synonymic notes on the herminiine moths (Noctuidae) of Japan, with descriptions of three new species. Tinea, 13(18): 183-203.
766. Saigusa T. 1993. A study on new subspecies the tribe Theclini (Lepidoptera, Lycaenidea). Zephyrus reseaches, 1: 12-22.
767. 坂部元宏. 1961. 三重県で採れた珍しい蛾類 (II) ヤマトハガタヨトウ. ひらくら, 5(5): 35.
768. 坂部元宏. 1962. 南勢地方のモクメヤガ亜科 (ヤガ科) 蛾類. ひらくら, 6(12): 127-129.
769. 坂部元宏. 1966. 三重県でとれた珍しいガ類 (XXIII) カバフキシタバ. ひらくら, 10(12): 104.
770. 坂部元宏. 1982. 尾鷲市およびその周辺の蛾類. 尾鷲地域野生生物調査報告, pp. 467-503. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
771. 佐々木明夫. 1993. 青森県下北で得た蛾数種. 誘蛾燈, 134: 89-90.
772. 指田春喜. 2007. 26都道府県ギフチョウ採集記録. 昆虫と自然, 42(10): 27-31.
773. 嶋田春幸. 2009. 大紀町錦でウラナミアカシジミ南紀亜種を観察. めもてふ, 263: 2948-2949.
774. 嶋田春幸. 2009. 伊賀市で観察した蝶. めもてふ, 265: 2968.
775. 四十万智博ほか. 2000. 第IV章動物, 第6節昆虫類. 安中市史第1巻自然編, pp. 435-605. 安中市.
776. 篠木善重. 2011. 田中川干潟のエンスイミズメイガ. ひらくら, 55(3): 64
777. 杉 繁郎. 1990. シラクキコヤガの第二の産地と生息環境の知見. 蛾類通信, 157: 99-100.
778. 杉森弘昌. 2001. 伊賀地域及び宇陀地域の蝶. めもてふ, 284: 3153-3156.
779. 鈴木健真. 2008. いなべ市でオオムラサキを採集. めもてふ, 244: 2724.
780. 鈴木洋子・鈴木健真. 2012. いなべ市藤原町でオオムラサキを目撃. めもてふ, 288: 3201.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
- EW
EW
CR
EN
VU
NT
DD
781. 多田弘一. 1964. 大洞山の蝶五種. ひらくら, 8(10): 90.
782. 多賀敏正. 2003. 2002年・大和谷ベニモン紀行 (大和谷この10年). めもてふ, 174: 1821-1823.
783. 多賀敏正. 2005. ベニモン紀行2003年・大和谷その他. めもてふ, 198: 2133-2137.
784. 多賀敏正. 2005. 美杉村でオオミドリシジミを採集. めもてふ, 205: 2226.
785. 多賀敏正. 2006. 松阪市のオオムラサキ. めもてふ, 212: 2322-2323.
786. 多賀敏正. 2006. 白猪山のクロヒカゲモドキ幼虫. めもてふ, 220: 2427.
787. 多賀敏正. 2006. ベニモン紀行2005年・大和谷. めもてふ, 224: 2472-2476.
788. 多賀敏正. 2006. ベニモン紀行2006年・大和谷. めもてふ, 227: 2514-2515.
789. 多賀敏正. 2007. 津市のオオムラサキ・2006年12月. めもてふ, 228: 2518.
790. 多賀敏正. 2009. 4つ目のクロヒカゲモドキ. めもてふ, 259: 2811.
791. 多賀敏正. 2009. 松阪市のオオムラサキの幼虫採集・2008年度. めもてふ, 259: 2902-2903.
792. 多賀敏正. 2009. ベニモンカラスシジミの産卵に及ぼす環境影響について. やどりが, 219: 51-65.
793. 多賀敏正. 2012. 三重県産ベニモンカラスシジミ黄班型の追加記録・大台町. めもてふ, 293: 3251.
794. 高橋 昭. 1960. 三重県におけるギフチョウの分布 既産地の整理と分布の成り立ちに関する若干の考察. ひらくら, 4(11): 77-88.
795. 玉置高志. 1991. 宮川村でホシミスジを採集. ひらくら, 35(6): 98.
796. 田中 徳. 1991. 三重県初記録のダイセンシジミを採集. ひらくら, 35(1): 1.
797. 田中 徳. 2006. 松阪市でウラジロミドリシジミの無尾型を採集. めもてふ, 225: 2483.
798. 田中俊朗. 2005. 2005年採集メモ帳. 蝶道, 337: 1744-1751.
799. 田中俊朗. 2007. 2006年採集データ. 蝶道, 353: 1841-1848.
800. 田中俊朗. 2008. 2007年採集メモ帳. 蝶道, 366: 1915-1926.
801. 田中俊朗. 2009. 2008年採集メモ帳. 蝶道, 377: 1983-1992.
802. 田中俊朗. 2010. 2009年採集メモ帳. 蝶道, 389: 2052-2063.
803. 富田靖男. 1996. ヒメヒカゲの古い記録. ひらくら, 40(1): 25-26.
804. 東海農政局統計情報部編, 1954~1998. 愛知農林水産統計年報. 愛知農林統計協会発行.
805. 内田正吉. 1990. 寄居町桜沢でクワトゲエダシャクを採集. 寄せ蛾記. 56: 1034.
806. 宇野弘之. 1984. 岡山県で採集したメイガ科, トリバガ科, シャクガ科およびヤガ科4種の記録. 蛾類通信, 127: 30-31.
807. 山田満寛. 1961. 三重県の蛾類について (前編). ひらくら, 6(11): 107-125.
808. 山田乙三. 1965. 坂本谷の蝶と蛾. ひらくら, 9(7): 109-110.
809. 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書. pp. 119-288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
810. 山下善平・村井俊郎. 1980. 伊勢神宮境内地の直翅類相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 227-248. 神宮司庁, 伊勢.
811. 矢崎充彦・間野隆裕. 2003. 三重県におけるエンスイミズメイガの記録. 佳香蝶, 55(216): 86.
812. 吉友郁哉. 2001. 三重県藤原岳のオナガシジミ. 蝶研フィールド, 176: 25.
813. Yoshiyasu, H.. 1988. A New Estuarine and an Unrecorded Species of the Nymphulinae (Lepidoptera, Pyralidae). Kontyu, 56(1): 35-44.
814. 吉安 裕. 1989. メイガ科2種の食草記録. 蛾類通信, 156: 91.
815. 吉安 裕・金野 晋. 1989. 京都未記録の蛾. 蛾類通信, 155: 72.
816. 吉安 裕・鴨志田徹也. 2000. 京都府の水辺環境に生息する昆虫類とその生態. 環境保全と交流の地域づくり (宮崎 猛, 編). pp. 12-29. 昭和堂, 京都.
817. Yoshiyasu, Y. 1985. A systematic study of the Nymphulinae and the Musotiminae of Japan (Lepidoptera, Pyralidae). Scient. Rep. Kyoto prefect. Univ. (Agric.), 37: 1-162.

文 献 (トビケラ目)

818. 三輪勇四郎・大川親雄. 1958. 三重県産毛翅目目録. ひらくら, 2(14): 17-19.
819. 森田久幸. 1994. 船越池よりミサキツノトビケラ採集される. ひらくら, 38(5): 97.
820. 森田久幸. 1996. 県内で採集された興味深いトビケラ. ひらくら, 40(5): 288-289.
821. 森田久幸. 1997. 海山町船越池のトビケラ. ひらくら, 41(6): 96-97.
822. 森田久幸. 1998. 北勢町で採集したトビケラ. ひらくら, 42(1): 13-14.
823. 森田久幸. 2000. イトウホソバトビケラの記録. ひらくら, 44(1): 12.
824. 森田久幸. 2001. 菰野町田光のトビケラ相. ひらくら, 45(6): 173-175.
825. 森田久幸. 2006. 亀山市でヒトスジキソトビケラを採集. ひらくら, 58(5): 81.
826. 森田久幸. 2009. スジトビケラの記録. ひらくら, 53(3): 103-104.
827. 森田久幸. 2009. 県内で採集された興味深いトビケラ(2). ひらくら, 53(5): 121-122.

828. 森田久幸. 2011. 志摩半島のトビケラ類. 志摩半島の昆虫, pp. 212-218. 三重昆虫談話会, 津.
 829. 森田久幸. 2012. 第3節 ヘビトンボ目・カワゲラ目・トビケラ目. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」調査報告書(田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 245-252. 菰野町教育委員会, 菰野.

文 献 (ハチ目)

830. 石田昇三. 2011. 四日市市南部丘陵公園でウマノオバチを採る. ひらくら, 55(1): 23.
 831. 加納康嗣. 2010. キンモウアナバチ・クロアナバチの観察. 蜂狩人, 2: 10-12
 832. 加納康嗣. 2010. ニッポンハナダカバチ観察日記. 蜂狩人, 2: 1-4
 833. 河北 均. 1992. キンモウアナバチの巣の坑道に侵入した直翅類. ひらくら36(1): 15
 834. 河北 均. 2012. 明和町でモンスズメバチを採集. ひらくら, 56(3): 74.
 835. 川添昭夫. 1984. 北鈴鹿山脈のアリ相. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域自然科学調査報告書, pp. 147-153. 藤原岳自然科学館, 藤原.
 836. 川添昭夫. 2001. 第12項昆虫類(ハチ目ハチ類). 紀勢町史 自然編, pp. 313-324. 紀勢町, 紀勢.
 837. 川添昭夫. 2006. 熊野灘照葉樹林のアリ類. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫(三重昆虫談話会 編), pp. 191-196. 三重昆虫談話会, 津.
 838. 川添昭夫. 2013. 蒔田実造氏のハチコレクションから ハチ目 . ひらくら, 57(1): 15-19.
 839. 川添昭夫・河北 均. 1992. アルマンアナバチとキンモウアナバチの獲物について. ひらくら36(5): 73-76.
 840. 前 美津・前 由花. 1979. ホシアシブトハバチを上野市で採集. ひらくら23(4): 61-62.
 841. 松浦 誠. 1961. 三重県の*Osmia*(ツツハナバチ)属. ひらくら5(5): 33-34.
 842. 松浦 誠. 1963. 三重県の蜂(5)ハバチ類(広腰亜目Suborder Symphyta). ひらくら7(2): 15.
 843. 松浦 誠. 1963. 三重県の蜂(6)スズメバチ(*Vespula Vespa*)属. ひらくら7(3): 21-22.
 844. 松浦 誠. 1975. 三重県のハチ(9)マルハナバチ属(*Bombus*). ひらくら19(6): 84.
 845. 松浦 誠. 1995. 社会性カリバチの生態と進化. 北海道大学図書刊行会, 札幌市, 353 pp.
 846. 松浦 誠. 1996. 三重大学構内の注目すべき昆虫類. ひらくら 40(1): 22-23.
 847. 松浦 誠・中西元男. 2003. フクイアナバチ三重県に産す. 昆虫と自然, 38(2): 10.
 848. 西田悦造. 2005. モンスズメバチを採集. ひらくら, 49(4): 69.
 849. 西田悦造. 2005. 白山町でのホシアシブトハバチの目撃記録. ひらくら, 49(4): 69.
 850. 西田悦造. 2005. ナシアシブトハバチの記録. ひらくら, 49(5): 82.
 851. 西田悦造. 2005. キンモウアナバチの記録. ひらくら, 49(5): 83.
 852. 西田悦造. 2007. 答志島の膜翅目(ハチ類). 三重自然誌(11): 71.
 853. 西田悦造. 2012. 三重県におけるクズハキリバチの記録. ひらくら, 56(1): 26-27.
 854. 西田悦造. 2012. 三重県におけるフクイアナバチの記録. ひらくら, 56(3): 74-76.
 855. 西田悦造. 2013. ニッポンハナダカバチを南伊勢町で採集. ひらくら, 57(4): 100.
 856. 西田悦造. 2013. 三峰山でバイケイソウハバチを採集. ひらくら, 57(4): 100.
 857. 西田悦造. 2014. ヤマトスナハキバチを志摩市と南伊勢町で採集. ひらくら, 58(2): 47.
 858. 西田悦造・川添昭夫. 2011. 志摩半島のハチ目. 志摩半島の昆虫(生川展行, 編), pp. 196-207. 三重昆虫談話会, 津.
 859. 西田悦造・篠木善重. 2012. 津市北部海岸のハチ. 三重自然誌, (13): 87-91.
 860. 大川親雄・松浦 誠. 1965. スズメバチ(*Vespa*)属の越冬に関する知見. ひらくら, 9(1): 7.

文 献 (補遺)

861. 市橋 甫. 1976. 三重県から採集した珍しい甲虫3種. ひらくら, 20(5): 75-76.
 862. 河上康子. 2003. 三重県櫛田川河口における甲虫相調査. Natur Study, 49(12): 9-10.
 863. 川瀬英夫. 1991. 平倉でオオホソコバナカミキリを採集. ひらくら, 35(1): 13.
 864. 川瀬英夫. 1994. 海山町で採集したテントウムシ2種について. ひらくら, 38(3): 45.
 865. 高橋 徹. 2011. ゴミムシダマシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(1), pp. 29-102. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
 866. 横関秀行. 2001. クロスジイッカクの新産地. ひらくら, 45(5): 165.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD